



下風側の他の一例

ひます。
火を消すのには、砂や土も、水と同じに役に立つことを覚えてをりなさい。
見習は、火を踏み付けたら、袋や木の枝で打ち消さうとして——それは正しいことですが——往々間違つたことをして、火の風下になります。それは、どういふことだか存じですか。
風上へといふことは、風の吹く方をいふので——即ち風が吹いてゐる側、風にあたる側のことです。風下又は、下風側といふのは、之の反対側のことであります。
家や岩の下風側は、寒い風が吹いてゐる時に、これを避けるのによい處であります。併し、焚火の場合には、避けるのには、悪い處であります。煙や、焰や、飛び火は、皆下風側



岩の下風側は大丈夫

氣を付けます。
そして、くすぶつてゐる火に水をかけて、後で火が出るやうな螢火も残つてをらないやうにします。
ほんとうのスカウトなら、野火や、山火事の起るやうなことは、決して致しません。ほんの馬鹿者や、不注意な見習だけがやることです。
野火は、一度火が付くと、非常な早さで燃え擴がります。そして、二三分間で、人が消し止められないやうに、大きくなります。それから田舎を襲うて、農作物や山林、家畜や畑、又は焼けるに従つて、村や町さへも焼拂ひます。
山奥に住む人は、焚火に大層氣を付けるのは、かういふ譯であります。この注意深いことは、そのきまつた習慣になつてゐて、裏の庭で、大丈夫な處で草を焚く時でさへ、火の付きさうな物は、第一に切り拂つて、草の焚き火が終ると、注意して、最後の残り火まで踏み付けて去つて了

に來ますから。

併し、見習は、火の擴がるのを止めようとして、その側に來る者は往々あるのであります。一人の子供はそんなことをして、非常に火傷したことを、私は聞いてをります。

火が付いた人の助け方

誰れか、こんな風にして、火が付いた者があつたら、第一に、自分の上衣か、毛布か、敷物で、出来るだけ早く且つ確りとその者に被せて了ふことを記憶してをりなさい。火は、空気はなくては燃えません。空気や風があるほど、どん／＼燃えます。

衣裳に火が付いた者が駆け出すと、火が直ぐ燃え上ります。直ぐねかして、毛布にぐる／＼包むと、火が消えます。

その後で、皮膚が焼けたら、空気に觸れないやうにして置きなさい。空気に觸ると痛みます。一番よいことは、焼けた部分に、しつかり油か膏藥を塗ることです。そして、柔いリンネルか、木綿をあて、これに繻帯をかけて、空気にふれないやうにして置くことです。

衣服の整理

スカウトの標語は「備へよ常に」であります。夜晝何時でも、自分の義務を果すため「常に備へる」ことであります。

兵士や水兵、消防や警官、其他夜分に何時でも出かねなければならぬ人は、直ぐ見付かるやうに、正しい場所に、衣服を整理して置いて、暗い處で、早く著る練習をします。

少年健兒も幼年健兒も、これと同じく、衣服をたたんで、著る順序に重ねて置くべきものであります。

床からはね起きて、暗い處で衣裳を著ることを二三回練習してごらんください。さうすると、よく用意をして置くと、騒いで探がさずに、どれ程早く出来るか解りませう。

さうすると、何時かは、暮らしをはぶく助けとなりませう。

それから、水兵や、兵士は、大層狭い處に衣服を入れて置かなければなりません。ご存じの通り、兵士は、著代へ一着に、其他、ブラシ、剃刀、石鹼など色々な物を背囊に入れて、背中に負

つてをります。かういふ狭い處に、物を入れて置くためには、物をよく、しつかり、たたんで置かなければなりません。さうでないと入りません。

それ故に、野營に行かうとすれば、これと同様に、小さい袋に、物をたたんで、包んで置くことが出来なければなりません。

これが、常に自分の物を、よくたたむ習慣がついてをらないと出来ないことであります。それですから、自分の内で、自分の衣服から、これをしなければなりません。

しかも、それが、衣服のためにもよいのです。恰好が大層よくなつてゐるので、氣を付けて、かういふ風にして置けば、著れば、大層よく見えます。

又、他處に行つて居つて、自分の物を何か送つてもらひたい時には、何物でも、自分の室に整理して置けば、人に頼んでも、正確に何處にあるかといふことが出来ます。

靴の磨き方

私は、自分の床を作つたり、自分の衣服をたゝむやうに、自分の靴を磨くことも好きです。

自分の力で、自分の靴を、よく磨いて置くと、非常に満足なものであります。「磨き粉」と、柔い布で、眞鍮物を磨くのと、等しく愉快であります。

靴を磨くのに要する物は、

- 1、垢を落とす古ナイフ。
- 2、塵を拂ふ硬いブラシ。
- 3、靴墨を塗るブラシ。
- 4、靴 墨。
- 5、つやを出す柔いブラシ。
- 6、磨き上げる柔い布。

荒廢してゐる地方で、作業をしたり、進軍をしたりするに用ゐる靴は、これを奇麗にするのが第一で、磨くには及びませんが、古い齒ブラシで、全體に特に縫目に油をひいて置くのです。油はワセリン、蠟、羊の脂など、どんな油でも結構です。

足を濡したくないならば、上ばかりでなく、底にも油を塗ることを忘れてはなりません。

お使の仕方

これは、第二星章を得る考査であります。この考査を課せられると、大抵の者は、只、走るとばかり考へます。——即ち、用命を帯んで、早く着くことを考へて、少しも用命その者を考へないのです。

これを逆にして考へることは大事であります。「用命を覚えて、それから走る」ことでなければなりません。

用命の言葉に、よく注意を拂ひなさい。自分で繰り返していつて見て、それから、再び、使にいふのであります。

必ず、正確に之を受けて、出發する前に、之を了解するのです。それから、先方に行つてから正しく傳へるやうに、途中で、之を繰り返へすのであります。

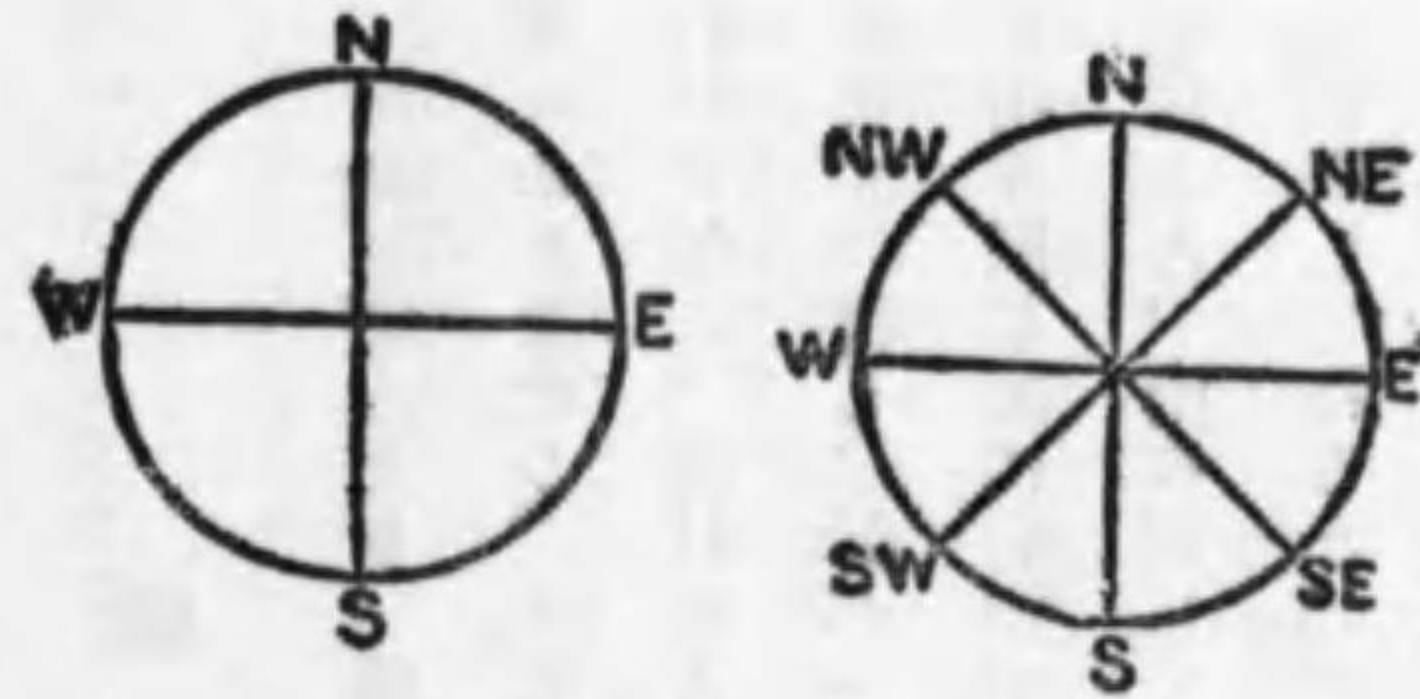
さうしないと、きつと用命を間違つて、誰より早く着いても、結局無効になつて、戻つて行つて、二度もこれを得なければならぬことになります。

傳令の取次ぎも同様であります。これを次に取次ぐ前には、前の者から、これを正確に得たかを確かめなさい。

かういふ風にして、連続する時に、一二の者が不注意であれば、傳令が廻つて了はない中に、非常に變つたものになります。

磁針の方位

用命を帯んだり、傳令に使用する時には、「北方に行け」とか「東方に行け」とか云はれることが屢々ありませう。それは、水兵や、兵士、少年健兒などが、常に命ぜられることであります。それですから、磁針の方位を學ぶことを力めなさい。羅針盤は、時計のやうな、小さな指針面であります。併し、針が一本、それにあるだけであります。その計は、常に北を指してをります。計が指す同じ方に向つてゐると、北を見てゐるのであります。それから、廻轉して、全く反對の方を見ると、南に面してゐるのであります。南は、北に正反對で、東は、西に正反對であります。北に面してゐると、東は右手にあり、西は左手にあります。



それで、東西南北といふ羅計盤の四方位になります。
羅計盤が得られないと假定したならば、太陽で各方位をいふことが出来ません。

空にある星の中で、太陽は上等です。

太陽は東から出て、西に没します。

朝早く起きたら、その上る處をこらんない。東が何處だか判ります。日中には、太陽は正南であります。

四大方位の各の真中には、他の四方位があつて、容易に覚えられます。北東、南東、南西、北西であります。

道路の清掃

アメリカのフィラデルフィヤでは、都市の子供等は、道路を清掃するために、大きな組を作つてをります。

約一萬の子供等は、その仕事に當つてをります。交替で、自分共の内の近くの往來を通つて行つて、紙屑、ぼろ、蜜柑の皮、其他、不注意な人が捨てた物を拾つて、道路を清潔にしてをります。

これで、彼等は公共奉仕をしてをります。即ち、その市の人々に「善行」をしてをるので。少年健兒や、幼年健兒が、大きくなつたら、紙袋や、古新聞や、バナナの皮や、煙草の吸殻などを捨てる人がなくなることを望みます。彼等は、そのために作つた埃箱に入れる面倒を見るのでありませう。

それが往來を汚くするばかりでなく、人がバナナや蜜柑の皮を踏んで、滑つて手足を挫く危険があるからであります。

まだ危険なのは、腐つた果物に、微菌が生ずるやうになつて、空中に飛散し、人を害するからであります。先日幼年健兒が、善行することに、思ひ付くことが出来なかつたので、往來の端の埃箱の中に、バナナの皮があるのを見て、これを道路に出して、他の幼年健兒がやつて來たら、之を拾つて、善行をなす機会を與へるやうにしたといふ話を聞きました！

田舎に住んでゐる幼年健兒は、自然、往來の紙屑を掃く機會がありません。併し、自分共の内の近くの小道でアザミを抜いたり、路傍に生えてゐる雑草をとつて、同様に役に立つ仕事をする事が出来ます。これは往來を奇麗に見えるやうにするばかりでなく、農家のためになることで、こんな澤山の雑草、特にアザミや、ハンゴンサウなどの種子が、風に吹かれて、附近の畑や庭に落ちるからであります。そして、又新しい雑草が澤山生えるからであります。それ故に、草一本をとる幼年健兒は、附近に、他の數千の草が生えるのを防ぐことになります。それ故に、外に出る時に鋤や、又は杖を持つて出ると、こんな數百の敵を、毎日切り倒すと、非常に満足に思ふことであります。

練 習

子供等は圓形をなして、通信をし、どれほど間違ふかやつて見る事。

時間を定めて、或る距離の間、用命を帯んで子供を遣はし、正確に傳へて歸るかを見る事。

第十四 食

編物、組物と細作り——貯金——模型作り——スケッチのコレクション——切抜き本——木彫——健兒音楽——英國歌

編 物 と 組 物

幼年健兒のなすべき物の一は、編物をする事にあります。これを學ぶことは、少しも困難ではありません。そして、自分のためにも、人の爲めにも、何か物を作る時に、大層役に立ちます。後になつて、開拓者や探險者になり、荒野に出て行く時に、特に必要であります。

北極探險隊のシヤクトンの部下は、皆自分共の靴下や手袋を編むことが出来ました。私は、多くの獵師や、旅行家や、兵士など、特にスコットランドの兵士共は、何時でも、自分共の靴下を編むことが出来るのを知つてをります。

組物や疊物を知つてゐることは、また大層有用であります。

私はカシミヤに旅行した時に、山は急で、滑り易いので、普通の英國製の靴では、登ることが困難でありました。それで、土人のするやうに「草鞋」即ち、草で組んだ靴をつけなければなりませんでした。

かういふのは、大層樂で、山を登るのにも、降るのにも、大丈夫つかみ付くことが出来ました。それで、私は、蠅のやうに、室の壁や天井を歩むのに躊躇しないやうに感じました！

併し、諸君も想像出来ませうが、草で作つた靴は、大層長くもちません。それで、二三日毎に、新しいのが入用であります。

その結果として、私は、自分で作らなければなりませんでした。そして、草で長い繩をよつて、首に巻き付け、草鞋を組んで、その日の行軍に出かけたのでした。

同様に、籠を編むのも、大層、大切だと思ひました。荒野では、買ひたいと思つても、鞆や袋物を得ることが出来ませんでした。併し、禽獸を射つた時に、それを入れる物や、魚や果物、木の實や野菜を入れる物が入用でありました。

小枝があたりに澤山あり、藪もあります。それで、籠をどうして組むかを知ることでもあります。學ぶことは、全く容易で、作ることは、大層面白いのです。

勿論開けた國では、これを作つたら、何時でも、賣ることが出来て、澤山、錢になつて、自分や、両親や、隊の収入になります。

貯 金

腕白者や、悪戯者や、馬鹿者は、いくらか錢を得ると直ぐ、最寄の活動寫眞館に行つて、活動寫眞を見て費つて了ひます。

物の解つた者は、それを貯金函に入れて置いて、何か他の面白い物に費ひます。

併し、もつとよい計畫は、郵便貯金にして置くことであります。なぜなれば、暫くたつと、可なりの高になると、政府に貸したものに對して、餘分の錢を得られますから、これは「利子」といふもので、この利子は、自分のほんとうの金、即ち、「資本」といふのに、手を付けずに自分のために費ふことが出来ます。

それですから、早くから、自分で編んだ、籠や、果物の網や、襟巻や靴下などを賣つて、錢を作ることをして一錢でも、貯金に入れるのであります。

その金は、貯金函よりも安全で、利子を拂ふ金が澤山にある政府が監督をしてるのであります。

一錢を大切にしなさい、直ぐ何圓にもなります。

アスターといふ人は、子供の時分に、呼子や笛を作ることを選び、これを少しの金で賣りました。その何錢かの金を銀行に入れて置いて、二三年すると、何圓かの高になりました。そして、遂には世界中で、最も富んだ金持になりました。

ダブルユー・ジャー・ロングの「ノーザン・トレール」に、若い狼が秋になると、どうして、彼等の食とする以上の食物を得るかといふ話が述べてある。捕る千鳥もあれば、追跡が出来る鴨や、鷺鳥もある。

鷺鳥は、夜分になると、敵がかくれさうな物や、岩や、藪などを遠く離れて、砂洲に落ち付いてゐて、廣い岸に小さな群をなして眠つてゐる。

夜陰が加はるにつれて、四つの影が、最も近い影になつてゐる岸から、何時間も静かに我慢をしてゐて、砂洲の方に這つて行きます。

静かに、平らに這つて行つて、是等の影が、鳥の群にだんく近くより、遂には、急に突撃を加へ、水に飛び込む怖ろしい羽ばたきの騒ぎや、驚いた鷺鳥の荒々しい叫び聲が聞える。

暫くたつと、四つの影が、各口に立派な鷺鳥の頸を咬へて肩にかついで、森にかけ戻つて行くのです。

狼は時として、目ざましい奮闘をしようと思つと、岩上に、日向ぼつこをしようとして、岸にやつて来る大きいアザラシを追ひまくりまわります。狼は、アザラシと海との間に這つて来て、アザラシがびつくりすると、かくれがを間違ふやうに、退路を遮断するのであります。狼が敵に咬み付くことは稀で、大抵は、何邊も齒をたてては深傷を負はせ、遂には殺して了ふのであります。併し、かういふ場合には、敵が海に逃げないやうに、しつかり食止めて置いて、アザラシが唸つて猛烈に咬みつくと、狼が活躍の時が得られるのであります。

併し、鷺鳥や鴨、魚類やアザラシなどの食糧を澤山に得ても、狼は、自分共だけでは食べられ

ない程澤山の食物を持つてをります。

併し、狼共は馬鹿ではありません。冬が来ると、陸地一面に雪が深くなり、河に氷が張り、食物を得るのが困難だといふことを彼等は知つてをります。

そこで彼等は、天氣のよい中に、枯草を作るのです。彼等は、得られるだけの食物を殺し、狼の子供等は、晝夜狩をしたり、出来るだけ殺して、岩の間にかくれがに獲物を引いて行くことを古い狼から習ふのであります。

岩の間の割目に獲物を押し込んで雪を被せて置き、かういふやうにして置いて、嗅がして他の動物に掘り出されることを防ぎ、同時に、入用な時がくるまで、冷蔵して置くのであります。

しかも、これが幼年健兒のなすべきことであります。何時でも金が得られたら、出来るだけ一生懸命に金を儲けて、安全に貯金をして置いて、これを使はないやうにします。狼のするのと同じ様に、何時か困難な時が来たら、自分の蓄が入用になつて来るのですから、かういふ風にして、氣を付けて蓄へて置くと、困つた時の用意になりませう。

模 型 作 り

併し、急に金持にならうと思つてはいけません。大事をなさうとしたならば、小事から始めなければなりません。一銭が積つて、大金になるやうに、小さな子供が大きな大人になるのであります。

大きな船を作らうとするのには、その模型を作らなければなりません。

處で幼年健兒諸君は、何時かは、何か大きい物を作りたいでせう。飛行機であらうと、家でも、船でも、又は機械であらうと。

併し、これをなす第一歩は、その模型が作られることです。

かのテー大橋が、模型に作られた時に、最初は小規模に作られたのでしたし、モレタニヤ大汽船が作られた時には、初めは、小さな玩具の船のやうな模型でありました。

かくの如く、幼年健兒が、大きい事をしやうとするならば、第一に自分の模型を作つて見ることです。大きい箱を作らうとするならば、最初は、小さいのを作りなさい。

家を作らうとするならば、初にはボール紙で作りなさい。又は、粘土で小さい軍艦も作れませうし、ブリキで機械のやうな物を作れませう。

又、かういふ物を作り出すには、輪廓をひけることは大事であります。誰でも、少しは繪をかきます。そして、これを練習するならば、直ぐ上手になれませう。

少年健兒は、誰でも地圖を描くことが出来なければなりません。それが出来なかつたら、馬鹿といはれませう。

コレクション

私は、幼年健兒は誰でも、何かコレクションをしてゐることと信じます。若し、してなかつたら、外國の郵便切手や、貝殻や、乗替切符や、巻煙草の繪を集めてごらんなさい。

處で、かういふコレクションを持つてゐることは、大層結構なことでもあります。併し、自分で描いた繪のコレクションを作ることは、非常に面白いことであります。

例へば、花を好きな者は、その発見した異つた花を悉く色鉛筆や繪具を用ひて、繪を描くことが

出来ませう。かうして描いた繪は、採つたほんとうの花のやうに決して枯れることはありません。そして、時がたつと、自分で発見した各種の花の立派な記録が出来ませう。

花を描くことは、大層困難だといふ人もありませう。さういふ場合には、各國の國旗のコレクションをなさい。

幼年健兒は、色鉛筆と、紙が少しあれば、かういふのを描くことが出来ます。そして、英國海外領土の旗や、海軍信號旗などをたして置くことが出来ます。

又は、我が陸海軍が戦争をした各戦役で與へられた従軍章を、描いて彩色しても、一層面白いコレクションになります。

これは、非常に面白いコレクションになります。なぜなれば、我が陸海軍の將卒は、國家のために、血を流し、屍を横へた光輝ある戦争の話をするものでありますから。

幼年健兒の切抜き本

各廠では、切抜き本をとつて置くべきものです。是等は、繪や寫眞、新聞の切抜きなどがあつ

て、非常に興味あるものになります。それを悉く奇麗に整理して、糊付けにするのであります。さうすると、かういふ本は、数年たつと、その所有者には、非常に面白いものになることは疑ありません。

私は、一生涯中切抜き本を持つてゐますから、それを知つてをります。私は、これを非常に面白いと思つてゐるばかりでなく、多くの場合には、遠い前にあつたことを思ひ起すのに助けになります。

私の最初の本は、私の父と母の肖像畫で始まつてゐます。その時の繪は、私はたつた三歳の時に描いたのです！繪の描き方でいつてゐるではありませんが、私は幼年健兒位の時分に、これをやつて見たのを見ると、今だに面白いのです！

併し、非常に面白いことは、切抜き本を作つて、物を差して置くことであります。それを奇麗に、さつぱりとして置くことは、全く一つの美術であります。私の仕事を仕出したのは、かういふ風です。

出来るならば、ボール紙で、アルバムを作ることです。薄い紙では、何か差すとまくれますか

ら。併し、勿論、しないよりは、どんな本でもよいのであります。

大きさは、十二時に八吋位のアルバムを作るのが一番よいことです。それより小さいのでは、間もなく一杯になり、時としては、大きい寫眞を挟みたいこともありますから。

第一頁には、自分の名前と、本を始めた日を書きなさい。何時でも、その年の元日か、誕生日に始めると結構なことです。さうすると、毎年一冊づつ得られ、又は一生涯完全な二部にしても置かれます。

例へば、學校時代には、學校や友達の繪や、運動會、音樂會のプログラムを差した本が一冊出來ませう。——大人になつた時に見ると非常に楽しいのです。それから又、家庭にある時や、休暇の時のために、第二の本も出來ませう。

併し、勿論、切抜き本を作ることは、只の特別な餘技であつて、他のスカウト作業や、遊技の妨げをしてはなりません。それですから、始終、糊や紙などで遊んで、室を亂してはなりません。

一番よい計畫は、(少くとも、私はさう思ふのです)かなり大きい狀袋を作つて、とつて置いて

面白いと思ふ物は、皆入れて置くのであります。

野營に於ける少年健兒の繪や、新聞に出た面白い話や、各種の寫眞などは、雨天の暇な時に取り出して、きちんと類別して集めて置くのです。

勿論、自分で寫眞がとれるならば、とつて置くのは、特に結構なことですが、それは少し費用がかかります。何より一番よい計畫は、自分で繪を描いて本にして置くことです。

かういふ風にして、繪を描くことが旨くなつたならば、多分考査を受けることが出来、さうして美術章が得られませう。

自分の『切抜き』を本に差す時になると、糊が入用になりませう。麥粉か澱粉の糊を作るのは、大層容易なことで、次のやうにすればよいのです。

麥粉（又は澱粉の塊）を茶匙で一つ半を鉢に入れなさい。水を少し注いで、掻き混ぜて薄糊にするのです。それから、熱湯を始終掻き混ぜながら注いで、ねば／＼した青く見える糊にするのです。そして、腐るのを止めるために、丁香を入れるのを忘れてはなりません。

その他に、刷毛一本と、剪刀一挺と、紙屑籠のやうな物（紙を剪んだり、切つたりすると、空

が大層散らかりますから）と、繪の下に、名前や日附を書く鉛筆一本と古新聞一枚とが入用であります。

新聞は、自分では、非常に役に立つ物だと思つてゐるのですから、お歡めします。寫眞の表を下にして、新聞紙の上に置き、その裏面に、端から隅まで糊を塗り、それから、アルバムの正しい位置に貼るのであります。新聞紙の上に糊を付けた處は、その時はねば／＼してゐますから、その紙を二つに折ると、新しい「糊付け場」が得られます。

寫眞の周圍は、黒くなつてゐることが往々ありますから、そこを切り取ると奇麗で、四隅を切り取ると一層奇麗に見えます。

木 彫

木の面を、細工道具で彫つて刻むこと。

初めに紙に描いた圖案を貼つて、鑿で彫ること。

例へば、木製寫眞枠、本の表紙、將棋盤、裝飾箱等であります。

子供等は、少し練習すると、自分共の圖案を考案して描くことが出来ます。これは、想像力、自己表現、手工を奨励するものであります。

圖案が進歩するに従つて、畫題を求めたり、模様を作ることが出来ます。不調和であるほど益々よいのであります。

例へば「猫と琴」——「蔓物と穿網織」などのやうなものであります。

ペーニング

これは、彫刻に彩色を加へることであります。模様を彫つた後に、その輪廓に、ペンと防水インキで黒く筋をつけるのです。それから、素地や、模様を、適當な形で彩色するのです。

私は、この方面で、箱の蓋のモザイク地に、バラの蕾の小枝を描いて、幼年健兒が圖案をした、優秀な技巧を示した例を、知つてをります。

幼年健兒音楽隊

狼の群は、藪の中を駆け廻る時に、音楽といふやうなものが聞えます。他の者は、音楽とはいひません。併し、それは、彼等を樂ませて、愉快に感ずるやうにさせます。

我が幼年健兒隊も、音楽隊を作つて、樂を奏しないでよいでせうか。隊がチャングル・ダンスをする時に、適當にやると、非常に役に立つやうになつてまゐります。

音楽隊といつても、眞鍮の喇叭や、高價の飾をした太鼓などを備へた贅澤なのをいふのではありません。それと同様な道具で、金がかゝらないのをいふのであります。

勿論、樂隊には、第一に大太鼓がなければなりません。それには、ビスケットの古罐や、石油罐と、パチが一番あればよいのです。是等は、肉屋に行くと脛骨が得られ又は、丈夫な棒の端に布を捲いたのでよいのです。

シンバルですか。ソースパンの蓋（お母さんが許して下されば）を、臺所に行くと、直ぐに得られます。

トライアングルですか。勿論トライアングルがなければなりません。さがされるなら大きい上等なのがよいのです。——一挺の鉗子を糸で吊して、大きな鍵で打つのです。

喇叭や、大横笛や、小横笛、其他吹奏楽器は、樂手の口で奏するのです。

口笛で調子もとれますが、楯に薄い紙を張つて、これを吹けば、一層よいのであります。

コンダクターは、この演奏では、實際大切な人ではありますが、上手にやれば、コンダクターとして花であります。

併し、調子と順序がよく、注意してやらうと思ふなら、その樂隊は、實際は思つたやうに、滑稽なものではありません。

時々、静かな調子で、そつと歌つて、それから、時々大きな聲で、コーラスをやると、騒音ではなく、音楽になつて、實際音もよく、賞讃を得ます。

このやうな樂隊は、入院してゐる負傷兵には、お氣に入りの慰であります。——即ち、看護婦長が長く患つたり、又は、音楽が好きであるならば。

私の聞いた、太鼓と笛の樂隊の一番上手なのは、大勢の子供等が、石油罐を打つたり、聲高く口笛で調子をとるのであります。それが、往來を行進すると、立派な成績が得られました。

(注意。——上述の子供の樂隊は、ユース・アンド・ミュージックに述べてあり、ロンドン・ラッセ

ル街、モンテグ、ハウスから出版してゐます。

その一例に、『ザ・メン、オヴ、ハーレッチ』を出してあつて、大小の楯、鉗子、ブリキの湯呑、ソースパンの蓋、ビスケット罐、茶盆などで、家庭樂隊を組織し、調和させてをります。

編者は、マッフル・ドラムに對して、バナナで茶盆を打つことを助言してゐます。)

英 國 歌

諸君は、英國歌が奏されたら、幼年健兒は、最敬禮をしたり、英國歌を歌つたら、合唱すべきことを教へられてをります。それ故に、その歌詞を知らなければなりません。

"God save our gracious King,

Long live our noble King,

God save the King!

Send him victorious;

Happy and glorious,

Long to reign over us,
God save the King!

Thy choicest gifts in store
On him be pleased to pour,
Long may he reign.
May he defend our laws,
And ever give us cause
To sing with heart and voice
God save the King!

第十五食

野營、樂な野營、床の作り方、野營靴、野營プログラムと要點（寄稿）——自己衛生——傷口の危険な
塵——火傷、湯傷の手當——體操——第二星章の條件——第二星章幼年健兒の進級

野營

野營は最上の楽しみであります。第一になすべきことは、天氣のよい中に豫定することです。この都合が出来ないならば、相當の道具と、相當の場處を選ぶことでもあります。さうすると、雨天でも構へません。

樂な野營

人々は、野營は不便な生活だと申します。見習の者は不便、不快と思ひませう。なぜなれば、

初めて野營に行くとき、窪んだ青い草の處に天幕を張つて、夜分に雨でも降ると、浚ひ出してしまひますから。

かゝる者は、大抵、天幕の綱を、ありつたけきつく張り、夜分に、露が下りたり、雨が降つたりすると、綱が縮んで、地面に打つた杭が、始んど全部抜けて、風が起ると、杭が抜け出して、天幕が倒れます！

見習の者が、野營で苦しむことが澤山あります。併し、老練のスカウトには、生活に不便なことがありません。どうすれば、ほんとうに樂にされるかを知つてをります。

上等な幼年健兒は、北風や、東風（是等は寒い風であります）を防いで、乾燥した、可成り高い處に野營することや、上等な隊の野營地には、樂しい小屋がげや、納屋があつて、天氣が悪い時は、そこで、幼年健兒共は、唱歌を歌つたり、遊技をしたりすることを知つてをります。

幼年健兒はまた、最上の野營をするには、前以つて用意をしてをつて、何でも、最後の瞬間に掻きさらうことはして置かないといふことを知つてをります。

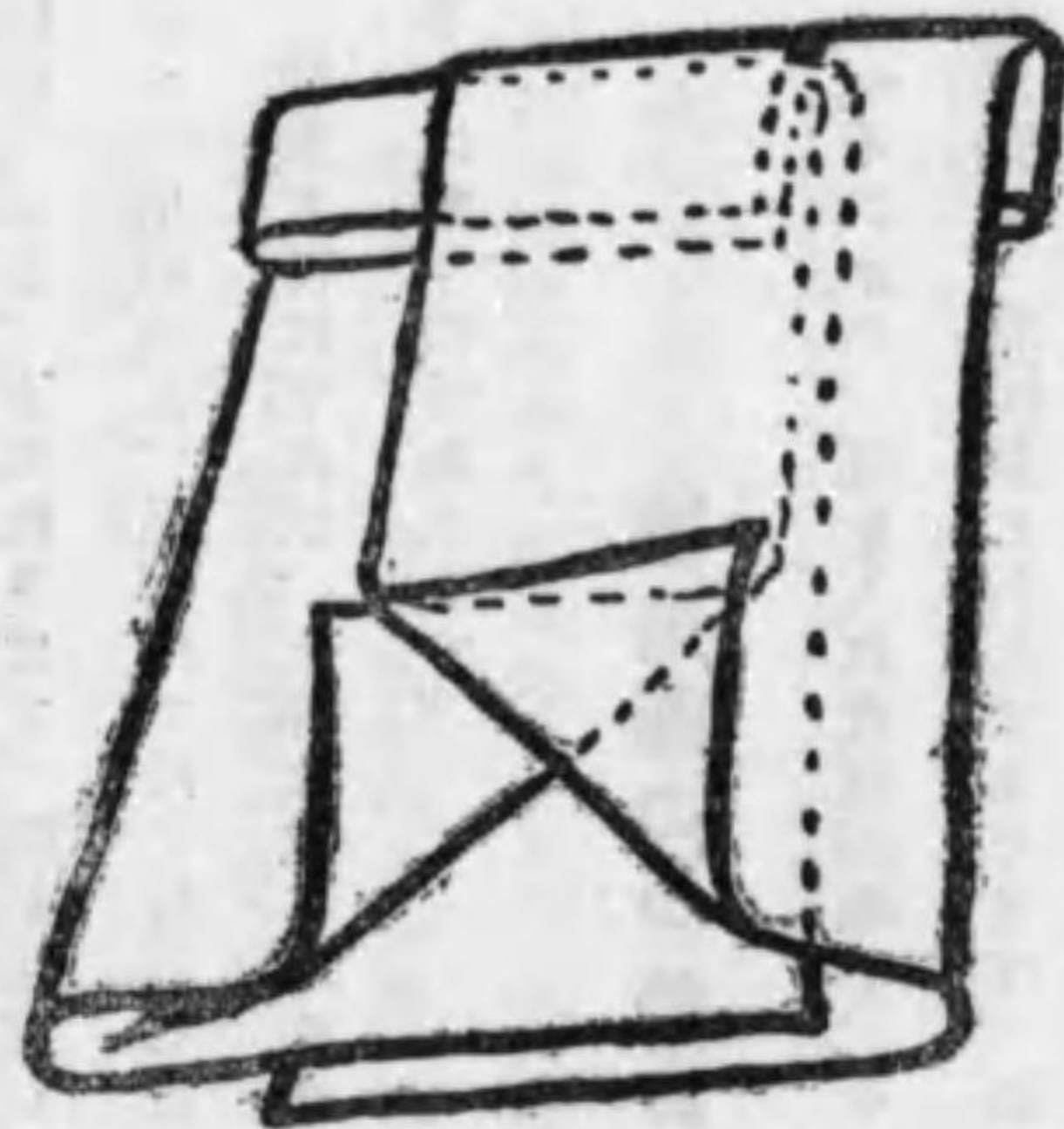
どうして、私共は、これを用意して置きませうか。金を蓄へて置くこととせうか。さうです。

各隊でやつて置くことは、野營貯金をすることと、各自はこれに要する物の支拂をすることとあります。どんなに小さな物であつても構へません。ほんとうに、兩親の助けをして、自分の愉快のために拂ふことが些少であつたら、——しかも野營は、愉快であります。さうではありませんか。

この貯金は、用意の一部でありますが、野營することも習つて置くのであります。

床の作り方

朝になつても、まだかゝつてゐるやうに、床を作るのは大事なことであります。先づグラウンド・シートのつやのある方を下にして、地面に敷きます。それから、藁を入れた藁蒲團を、この上に敷きます。毛布一枚を半分に折り、他の一枚も同様に折ります。その疊口を向合せて、他の半分の上を包みます。——その眞



中に入ると、下になります。圖を注意して見たならば、外に出ることもなければ、裾を折つて、ピンで止めると、足が出て冷くなることもないといふことが解りませう。

背囊を枕にすれば、上等な枕になります。——處で、薪をしてもよいやうに二人の間を、出来るだけ離すのであります。

藁蒲團のつめ方

「それから、藁を入れた藁蒲團を、その上に敷きます。」といふと、多分不思議に思ひませう。藁蒲團は、敷蒲團の代用であります。お母さんに袋を作つて貰ひなさい——三方は縫つて、一方はテップで締めるやうにします。——古い布か、何か袋でよいのです。長さ六呎、幅三呎より小さくないやうにします。これに道具を包み、野營に着いたら、隊長が命ずるやうに、藁をこれにつめるのです。處で、豚の背中のやうになるまで詰めるではありません。さうすると、夜通轉がりますから、只少し詰めると、上に寝るのに、上等な樂な物になります。適當に詰めた藁蒲團を下に敷き、二枚の厚さの毛布を上かけると、燒き肉のやうに温になつ

て、何でも上にかけてさへすればよいと思つてゐる新兵のやうに、濕つぼくして、寒さを引きこんでゐるよりは、遙かに心地よいのです！

背囊の詰め方

實際背囊をつめる日が来る前に、内で、この實際の練習をするのは、楽しいよい考であります。——もつと大きい背囊が欲しいと思ふかも知れません。それは、何時かは貸したり、買つたりすることが出来ると思ふのと同様です。

欲しいと思ふ物を書き出し、隊長が指示した表でも持つて、店に赴き、品物を出させるのです。それが卸店のやうに見えませう。次の表にあるやうな物がありますから。

毛布二枚——滑かなものよりも、毛だつたのがよい。

寢巻又は、著て寝る温いシャツ。

運動靴一足。

長靴下一足、チョッキ一著、古ズボンと作業シャツ。

防水外套や外套の外に、夜分ジャケットの上に著る上衣。

タオール一、石鹼(石炭酸石鹼が一番よい)、フランネル一枚、齒ブラシと練り齒磨又は粉齒磨。頭ブラシと櫛とハンケチ二三枚。

海岸附近に行くならば、海著。

會計用のノート一冊、家庭に通信する書箋と袋。

野營では、怖ろしく空腹になり易いから、皿一枚(又は二枚)湯呑一個、ナイフ、フォークとスプーン。エナメル皿と湯呑が最上です。馬鹿な者が、踏んでも傷みませんから。

隊にグラオンド・シートがなくて、野營しやうとするならば、一つ求めなさい。——きつとよいのにすることです。

體裁をよくするために、燈がなくても髪を分けられるやうな鏡を持つて行くことを組長に勧めなさい。

かうなると、蒲團の皮は、かなり一杯になり、どうして、これが皆背囊に詰まるか驚きませう。

子供の或者は、初めに外套を背囊に入れ、そして、雨でも降ると、これを出すために、色々な

物までひつくり返へし、そして狂氣のやうに騒ぎます。先づグラオンド・シートを入れて、それから、運動靴、海著、それから、著代物、寝巻と毛布——破れさうな者は中に入れて。石鹼を入れるには、小さい防水袋が一番よいのです。——湯呑に石鹼を入れてはなりません。茶が變な味がします! 一番上には、防水外套、丁度その下には、タオールと洗濯用品を入れるのであります。

野營に出發

處で、背囊に詰めてしまひました。出かせませう。出かせませうか。名前と行かうとする處の地名を、荷札に書いて、之を背囊に結び付けなさい。自分の背囊をステーションや集合地に運ぶのに、誰かに手傳つて貰ひなさい。

汽車に乗つたら、ドアによりかゝつたり、窓から頭を出して、通る汽車に、はねとばされるやうなことをしてはなりません。

野 營 地

に着いたら、面白く暮すには、自分共で心地よくするのは、幼年健兒の專賣特許だといふことを、心に留めることを注意なさい。——人のお世話をするということ、特に隊長の手傳をすることです。

いはれた通りにして、腕白者のやうに駆け廻つてはいけません。

何處に寝るのか解るまでは、自分の物は、背囊に入れて置くのです。自分の場處がきまつたら、物をほどこいて寢床を作るのです。

眠る時だといはれたら、眼を閉ちて、一心に眠るのです——床の上でダンスをして、人を起したり、枕で隣の人と戦争ごっこをしてはなりません！

朝になつて、目が覺めたら、口がないと思つて、絶対に沈黙を守るのです！！
かういふ風にして一日を暮すのです。

七時十五分。朝食用意の番に當つたら、靜かに起きて衣服を著るのです。

七時三十分。

全隊起床。人が上を歩かないやうに床を疊む。物を洗ふのに、よい加減ではなく、しつかりする——その甲斐があります。汚れ水は、適當な穴に捨て、タオルを干す。繩は物干には最もよいのです。長い草をいくらかとつて、手一杯に折つて、輪を作り、棒を輪に通して、捻ぢつてゐる中に、他の健兒は草を加して、蛇のやうにします。

朝のこの時分には、古衣服を着て、草は濡れてゐますから、靴下をはかずに運動靴をはくのです。

八時十分。

祈 禱。

八時十五分。

朝 食。

八時卅五分。健兒作業。多分野營で、特別の組になつてゐませう。各組、各健兒は、何かなすべき作業があります。組によつては、馬鈴薯の皮を剥くのもあり、焚木を集めるもの、天幕や小屋を整頓するもの、紙屑や、塵芥が散らばつてゐないやうに吟味するのがあります。各健兒は、毛布を取り出して、垣にかけた

り、繩に吊して空氣にあて、グラオンド・シートは、天幕の外に出し、背囊を整頓して、制服を著ます。

九時四十五分。 檢閲——自分と、自分の持物と野營地の。

十時十五分。 遊戯、散歩等。競技。

十二時四十五分。 中食の用意。

一 時。 中食。洗ひ片附け。各健兒は、雑巾と石鹼湯一杯と、乾いたタオルとで、自分の物を洗ひ片附けをする。

二 時。 休憩。これは、大層つまらないやうに聞えます。——殊に、話をしたり、遊び廻ることを許されませんから、併し、我慢すると、後になつて、全く疲れたり、氣分の悪くなるのを防ぎます。

三 時。 遊技。勿論、野營地にゐると、作業服を著て、奇麗な制服を著ません。

四 時。 お茶と片附け。

五時五十分。 散歩。

七 時。 ココアとビスケット——なるべく、篝火の周圍で。

八 時。 祈禱。洗ひ片附けと就床用意。お話。

九 時。 消 燈。

留意すべきこと

最も大切なことは、健兒の笑つてゐることです。ご飯が焼付いたり、パンやジャムを他の者が踏んでも、小言をいつてはなりません。

出かける前や、出かけてゐる間は、自分でかういふのです。「今度は、他の健兒共のために、最も愉快な野營にしよう」

ある時には、感謝とよい評判の外は、何も残してはなりません。木は生き物であります。それですから、腕や脚をもがれて喜ぶ者がないといふことを覚えてをりなさい！果實のなる木は、特に注意しなければなりません。若し、林檎が地面に落ちてゐるのを見たら、自分の物にすべきものではなく、善行をするのに、もつてこいの機會だと思つて、完全な物をバスケットに摘み取つ

て、農家に届けなさい。間違をしたり、觸つてはならぬ物を取るやうなことがあつてはなりませんから、大人と一緒になければ、木をとりに行つてはなりません。長い草は、多分糧秣にするのでせう。しかも、地面にひれふしてゐると、機械で刈るのには、非常に困難であります。

門は、自分共の隊が通つた後でも、何處か附近を通るやうに、前と同じに見えるやうにして置きなさい。そして、開けたがために、傷んだ處のないやうに注意しなさい！

牛、豚、馬などは、そのまゝにして置くやうになさい。私は、彼等は、諸君を妨害するよりも、諸君が、彼等を妨害するのを心配します。

下手な野營は、その跡に、何時でも、廢物や紙屑をおとしたり残して置くので判ります。屑が野營のあたりに落ちてゐるのを見たら、人の拾ふのを待つてゐてはなりません！ 自分でなさい。

野營での腹痛

「どんな菓子が好きですか」と老人が子供に訊ねました。

「エイ。私の好きなのは、杏子パンと、種子パンと、葡萄パンと、生姜パンと、レモン・パンと——」

「オイ。それで結構です！」と老人は叫びました。「そんなに食べると、他のパンも食べませう。

——それは好きでないのです。——それは——腹痛パンです。」

併し、餘り澤山菓子を食べないでも、痛い思ひをすることがあります。殊に野營をしてゐる時に、少し氣をつけないと。

そこで、野營で、楽しく暮して、二三日で病氣のために家に歸りたくないならば、次の二三のことを注意して、これを実行することあります。

果實。餘り澤山果物を食べてはなりません。少量なら結構です。特に、料理をしたり、煮たりすると。併し、熱し過ぎた果物や、未熟の物は、「腹痛」を起し易いのであります。

飲料水。それから、濾過器から取るのや、よい泉のものでなければ、水は往々危険であります。

澄んで冷く見える流でも、上の畑から汚水を運ぶことがあり、奇麗に見えても、ひどい毒を含んでゐるかも知れません。

清潔 指や、特に爪は、汚れ易いものですから、各食事前には、手を洗ひなさい。——そして、見えなくても、小さい病菌がついてゐるかも知れません。

蠅。又、出来るだけ、野營から蠅を追拂ふのです。蠅は汚い物に付くのが好きですから、足に病菌をつけて来て、食物にとまるからです。

蠅は、人を害する微菌を、澤山足につけて来ることを考へなさい。

何でも奇麗にして置かないと、蠅がたかります。それですから、野營の近所には、汚いものを置かないで、注意して掃除をして、焼き棄てて、蠅が来る機会がないやうにするのです。

ジャム罐をあけたなりにして置いたり、黒いフットボール著を出して置いて、蠅のたかるなりにしてはなりません。蠅が殖えるだけです。甘い物には蓋をして、しまつて置きなさい。

便所 日々の便通を、規則正しくすることに氣を付けなさい。さうでなかつたら、隊長の處に行つて、何か薬を貰ひなさい。幼年健兒は、自分のことは自分でするやうに、年もとれば、大きくもなつたから、野營に行くのです。

冷水磨擦。私はズールーの國で野營をしてゐた時に、湯に入る水のない遠い處にをりました。併し、身體を洗ふことは、健康に大切なことであります。そこで、我々は、朝早く起きて、長い草が、露で濡れてゐる中に、出て行つて、その中に轉りました。かういふ風にして、しつかり體を濡してから、タオルで磨擦をすると、湯に入つたやうに、奇麗に、氣持ちよくなりました。何處にゐても、タオルを濡らす位の水は、何時でも得られます。この冷水磨擦は、少くとも、一日に一度は、決して、かかしてはなりません。非常に大切なことであります。

衣服乾燥。新參者は、大抵野營で、風を引きます。併し、健兒になると、室を締めて寝た時ばかり、風を引きます。

野營で風を引くといふのは、實際は、外に暮すといふからではありません。主に、衣服を濕つぱくして置く者があつて、寒さを感じるからであります。

野營になれた人をご覧なさい。衣裳が濕れると、直ぐ服装を取り替へることを、大層注意することが解りませう。

西部アフリカで、他の人は病氣に罹りましたが、私は、決して、熱を出すことはありませんでした。私は、シャツ二枚持つてゐて、一枚は著て、一枚は、袖を結んで、頸にかけて、背中に吊して置きました。一枚に汗がつくやうになると、一枚は、始終乾いてゐました（それは強行軍であつたことを思つていただきたい。）

我々は二三分間でも停止すると、直ぐ、私の濡れたシャツを取り代へて、乾いたのを著ました。かういふ風にして、多くの人がするやうに、濡れたシャツを著て、風に向つて、寒く感ずるやうにして立つてゐることはありませんでした。その結果として、他の人が病氣に罹つて、大抵は死んだのでありますけれども、私は、健全にしてゐることが出来ました。

私は、前に述べたやうに、朝早く、草が濡れてゐる中は、運動靴をはいて、靴下をつけないの

です。

傷口の危険は塵

日本兵は、戦時には、特に清潔にしてゐるやうに、命令されて、毎日湯に入るために、非常な面倒をします。なぜこんな手数をするかと思ひますか。

人は、皮膚の汚いのに、負傷をすると、その傷は、化膿して、悪くなるのが往々ありますが、皮膚が大層清潔であると、直ぐ治ります。

野營では、身體を清潔にし、手を洗ふべき他の理由は、指を切つたり、膝を擦傷したり、何かこんなことをするからであります。皮膚が奇麗だと、直ぐ治りますが、塵が傷口に入ると、熱を帯んだり、脹れたり、膿をもつたりして、痛んで、治るまで長くかゝります。——これは皆傷を清淨する注意が足りないからであります。それで、若し、擦傷、裂傷などをしたならば、隊長に頼んで、沃度を付けると、大丈夫です。

たつた二三ヶ月前（千九百十六年）或夜會で、紳士と淑女が舞踏をしてゐました。その時に、

女の頭の櫛がとれたので、急に手を舉げて、それを取らうとして、偶然相手の鼻を引つ掻きました。男は何とも思はないで、氣にもかけませんでした。夜會場の塵が、小さな傷に入つたのでせう。そのために、化膿して、毒が血液に廻はり、一週間位で、死んでしまいました。それですから、傷はよく氣を付けて、どんなに小さくても、よく洗つて、塵の入らないやうに結んで置くと、早く治ります。併し、繻帯は、特に清潔で、細菌の入らないやうにしなければなりません。冷い空氣が觸れないやうにして置くと、痛も少うございます。

火 傷

皮膚を剥ぎとると、その下の肉は、非常に柔かで、冷い空氣が觸ると、びっくり痛みます。誰か不意に火傷をして、皮膚がとれると、肉は空氣に觸ります。そこで、直ちになすべきことは、何か油とか、ワセリンとか、麥粉、澱粉のやうな物を塗り、柔かい布か綿とか、又は、清潔な紙を、軽く當てることあります。表面は、怖ろしく柔かであつて、堅いものは、少しでも我慢が出来ません。そして、その上大層びたくして、直接にあてた物は、くつついて、後でこれを剥

がうとすると、非常な苦痛であります。

それですから、第一に油を澤山塗つて、それから、綿か紙をあてるのです。

湯 傷

やけど——併し、水、油、其他熱い液體のやけどです。湯傷は、火傷のやうに、出来るだけ早く覆はなければなりません。綿や、其他何でもつけてよいのですが、油を用ひてはなりません。一番よい手當は、硼酸軟膏であります。綿織絲又は、清潔な布に、これを厚く塗り、傷に軽く結ぶのです。湯傷は、きつと火傷になります——これを破つたり、ついたりしないやうに、特に注意なはらう。

體 操

今度は、諸君の練習すべき體操があります。諸君はこれを習つて、毎日、一日に何回か、自分で實行するのです——特に朝起きた時や、夜分床に就く前に——これを練習しないよりは、健

全に、強壯に、一層早く大きくなるやうにします。

併し、毎日しなければなりません——思つた時や、月に一度日曜日などにするのではありませ
ん。

そして、身體の内外の各筋肉を、徐々に緊張してなすべきものであります——さうすると、間
もなく、大きく強健になります。

『趾觸り』——身體の下部と、股の後部の運動です——この體操のどれもさうですが、これは、
同時に呼吸運動であつて、肺臟、心臓を發達せしめ、血液を強壯ならしめるものであります。單
に直立して、手を空に高く伸ばし、手の指が、足の趾につくまで、膝を曲げずに、前方、下方に
曲げるのであります。

足を少し開いて立ち、両手で頭を抑へ、空を見て、第一圖のやうに、出来るだけ、後方にそる
のであります。かういふ風に、上を見てゐる中に、出来るなら、體操に祈禱を混ぜて、神様に、
『私は、頭から爪先まで、あなたのものであります。』といつて、神様の空気を吸込むのでありま



- す。(口からでなく、鼻を通して)それから、出来るだ
け高く両手を伸ばし。(第二圖)の呼稱を唱へて、息を吐
き出す。それから、徐々に、前方及下方に、膝を眞直
にして、指の先が、趾の先につくまで屈むのです。(第
三圖)
- 第一圖 一 それから、まだ兩腕と、兩膝を眞直にして置いて、
體を再び、段々に元の位置に起す。この運動を數回繰
り返へす。

或者は、趾の先につけるのを、大層困難に思ひますが。最初は、脛に觸ることを試みてゐると、
二三日にして、趾にとどくやうになります。私としては、私の指關節で趾に届きます。指の先よ
りも、少しく困難ですが、脚部の後部の筋を伸ばして、大層具合よくします。出来るかやつてこ
らんない。

この圖で、↓は、鼻から吸ふこと。○↓は、口から吐くことをいふのです。



第三圖

「膝を屈める」運動。脚部と足部及内臓は、胃の上部のためになります。「氣を付け」の姿勢で立つ。(跳足は、趾を強くし、趾が強ければ、徒競走にも、跳躍競走にもためになりますから、一番よいのです。趾を外側にする。両手を腰にし、趾で立ち、膝を外側に、少しく曲げ、段々屈んで、踵は始終地から離して屈む。

それから、體を段々起して、再「氣を付け」の位置に立つのです。

これを數回繰り返へす。

腰を据えなければなりません。

體を起すに従つて、鼻から息を吸つて、體を下げる時に、口から吐いて、呼稱を唱へる。體の重さは、始終趾に置き、膝を外側に曲げて、平均を容易にとるやうにするのです。この運動をしてゐる間は、その目的は、股と脚囊と、趾髓を強くし、胃の運動になることを考へることです。それで、この運動を、一日に、暇があり次第何回もすると、非常にためになります。

そして、この運動は、交互に、立つたり、屈んだりするのでありますから、立つてゐても、腰

をかけてゐても、仕事をしてゐても、自分を連結せしめることや(兩手を腰につけてゐる如く)正しい事をなすことを結合させることが出来ます。

是等の體操は、只時間を費す考へではなく、大きく、丈夫に生長させる助けとなるものであります。

板の上の歩行

正式の考査に、かうあります「普通のテーブル位の高さに、六寸の厚さと、十二呎の長さの板を歩行すること」とあります。併し、幼年健兒は、それでは満足しません——適當に平均をとる、もつと困難な方法の色々な事を考へます。練習のために、四寸か六寸の鐵管を置いたり、鐵道のレールか、板を二枚繼いで、一方の端の地上には林檎か又は、小さい賞品を置いて、健兒が板を渡つて、屈んで賞品をとつて、再、安全に持つて歸るのであります。

石けり

小さい板か、ボール紙（ペンで地面に止める）を置くか、又は、小川を渡るやうに、石けりの曲つた線を、地面に書くのです——或るものは接近し、或は離して。各健児は、交代に進路を二度やつて見る。二度目には、八時位の板を手に持つて、テニスボールをのせます。勿論落してはならぬのです。

練習

一人の子供に火がついたといふ警報をし、これを、附近の手にし易い物、毛布、上衣、又は他の子供のジャケット、絨氈などにくるんで了ふ。

各健児をして、實際の事であるやうに、心に銘し、記憶に残るやうに、行動して、練習させる。患者を、火傷してゐるやうに、取り扱ふ。

指の切傷を清浄して、繙帯がけをする。

各健児をして、交代に體操させて、確實にその方法と、その目的を了解するやうにさせる。

第二星章

健児が、第二星章を與へられるには、次の各項をしなければならぬ。

(a) モリス又は手旗で、アルファベットを知り、四文字中、三文字を正確に發信し、及讀み得ること。

(b) 羅針盤の八方位を知ること。

(c) 英國歌の第一節及第二節を暗誦すること。

(d) 六片を貯金し、貯蓄銀行に預金すること。

(e) 全く自分で、木、金屬、ボール紙、又は、粘土で模型又は製作品を作り、又は、編物、網、組物、刻物、又は、自分で描いて、彩色（チヨーク又は繪具）をした各國旗、又は勳章のリボン、又は、明瞭に記名した花、少くとも八種一揃。

(f) 靴磨き、焚火、衣服整頓。十五語より少からざる言語傳令を、徒歩又は自轉車にて、一定の通路を進み、正確に傳達し、又は、紙屑、雜草等を、バスケット又は袋に集めて、

街路を清潔にすること。

(g) 趾觸り、膝曲げ體操を行ふこと。普通のテーブルの高さで、六時に、十二呎の板を渡る
こと。

(h) 指の切傷の清淨、繃帶法を知り、湯傷又は火傷の手當及擦傷に微菌の危険を知ること。

(i) 幼年健兒として、少くとも六ヶ月間の勤務をすること。

第二星章健兒の進級

全隊は、見習健兒のために、教練團を形成するのです。併し、第二星章を得た健兒は、帽子をとつて、圓の内部に、一緒に並ぶのです。二星章を付けた帽子は、隊長の手許にあります。

隊長は、そこで、一人前の幼年健兒になる考査に、立派に通過したことを、その健兒共に告げます。

それから、隊長は、第二星章の意味と、狼の子は、眼を閉ちて生れたことを告げます。二三日間は、盲になつて群れてゐますが、段々に見えるやうになつて、物を知るやうになります。

それから、自分共で、物をすることや、駈けたり、跳ぶことや、互に合圖をしたり、食物をあさつたり、隊に忠誠を爲すことを知るやうになります。

そのやうに、諸君は、信號や、物を作つたり、描いたりすることや、焚火の仕方や、人の世話をすることや、國王や、國家に忠誠であることを學びました。

處で、諸君は、今兩眼が開いて、訓練された幼年健兒の義務を果すことが出来ることを示しました。それ故に、今後は、星を二つ付けた帽子を冠ると、二つの眼が、今後は星の如く輝き、早くよく見えて、何でも見のがさないことになるのであります。前を見て、事があつたら、何でもする用意をし、周圍を見て、人の世話をすることを探し、後を見ずは、云はれたことを心に留めるのであります。かういふ風にして、敏捷、有爲の健兒になるのであります。

その隊が、トイテム・ボールを持つてゐるならば、それは圓中にもつてくるのであります。

全隊は、健兒の咆哮をあげて、これに敬禮をします。隊長は、トイテム・ボールを持つて、次の如くいひます。

「今、君の兩眼を、トイテムの兩眼に放ち、そして、全隊の兩眼は、君を、見てをります。君

は健兒の宣誓を繰り返へします。』

健兒は各、順番にやつて来て、ボールを握り、其間に、宣誓と、掟二ヶ條を繰り返へします。そして、隊長は、その頭に、帽子を被せます。

その健兒は、次の者に席を譲ります。皆の者が、宣誓を繰り返へした處で、隊長は問を發します。『諸君は、諸君の全力を盡しますか。』

新健兒は、咆哮をあげて『ウホリルドブドブドブドブドブ』といふ。

隊長『それでは、よくやり給へ。』といつて、返へします。

進級した健兒は、各組に駆け戻つて、組の者と握手をし、列につきます。

第十六食

昇進（寄稿）

『蔓草が、木の幹を、取り巻くやうに、掟が前後の締をつけてゐる』——
組の勢力は隊である、そして、隊の勢力は組であるからだ。

處で、これは、『年はもゆかぬ子供等は團結しようとした』話であります。

……すると記者は、筆を執つて、次のやうにかきました。

少年健兒の大兄弟團は、千九百八年に生まれました。そして、今まで發達した子供のゲームで、嘗て見ない發達をしました。幾多の隊は、北に現はれ、南に現はれ、東に、西に、これに屬する健兒は悉く『さうです。これは、我々はやつた中で、最善のものであります』と叔父にも、叔母にも話し、兄弟にも、從兄弟にも告げました。

今では、數年たちました。すると、少年健兒の隊長達は、小さな子供等が大勢、倶楽部の戸口の外に、集つて、熱心に内部を見てゐるのに、氣が付くやうになりました。その子供等は、隊長にいひました。「僕達も健兒にして下さい」。すると隊長のいふのに「イエ、餘り小さいから、入れません」。併し、子供等は、去らうとはしませんので、とうとう隊長は、健兒の總長の處に行つて、申しました。「ごらん下さい。どうすればよいでせう」。すると、總長のいふのに、「健兒になる準備をさせませう。幼年健兒にして、一緒に隊を作らせませう」。

そこで、隊長達は倶楽部に戻つて行つて、小さい子供等に告げました。「ハイ、さうませう。私達は、少年健兒になるのに大きくなるまで、隊をして駆かせませう」。

何年かたちました。そして、萬事最もよく、氣もちよくまゐりました。さうすると、總長や、少年隊長や、幼年隊長達は、餘り小さくない子供に申しました。「今度は立派に少年健兒になれます。併し、是等の子供等は多く、幼年健兒になつた理由を忘れて、御免下さいといひ出しました。幼年健兒諸君。諸君のいつたのは、こんなことです。

幼年健兒に参加して、非常に楽しくて、去らうとは思はぬこと。

徽章や、紋章をとりたくないことや、少年健兒隊の厄介者になつてゐたくないこと。

少年健兒は、まだ面白くないこと。

少年隊長を知らないことや、友達が凡て幼年隊にゐること。

彼等は、繪の裏ばかり——あり得る不快なことや、失望することを見てゐました。彼等は、もつと重要な方面——スカウト訓練には、偉大な修練を現はす方面に、一瞥もしませんでした。——又、幼年健兒は、實際は自分の組を去るのではなく、隊の一部であつて、幼年健兒としてよりも、少年健兒として、組のために、もつと盡し得ることを考へませんでした。なぜなれば、少年健兒は、以前の經驗によつて、これを判断しますから。

古の騎士は、その保護者、その國家、その夫人の名譽のために、危険を冒して、戦争に赴きました。

今日の幼年健兒は、その組の名譽のために、少年隊に入るのであります。

一層の危険と、困難とを彼等は豫期してをります——一層決心を固めて、前進すべきであります。誰か、内にゐると安樂であるがために、困難な仕事を避けたといふ人の話しをしたならば、

その人を意に介しません。さうしますか。

幼年隊では、「功を樹てる」機会がありません。併し、諸君のしてゐることは、凡て、少年健兒になつた時に、功を樹てる助になります。諸君の求めようとして働いてゐる星章も徽章も凡て、この理由のために、付けるのであります。——少年健兒の制服に、これを付けないのは、そのためであります。見習の資格を得ると直ぐに、それを越したことになるのです。

騎士は、出ては危険に赴き、そして、大概は、危険にあつたのであります——併し、あたりを見廻して、諸君の前に少年隊に加はつた者を見たならば、可哀相に、がっかりしてゐるやうに見えますか。私は、さうとは思ひません。自分でやつて見て、どんな事があるかぢらんなさい。心配して、震ひてゐると、何時でも、恐ろしく見えます——心を決めて、自分の隊を固守するので。なぜなれば、幼年健兒の時代でも、少年隊の一員ですからね。見習として入團すると、健兒の大兄弟分に許されたのです——進めといはれたら、間違つてはなりません。この章の巻頭辭を誠ならしむるやうに努めなさい。

勿論、少年隊は、全く幼年隊と同様だといふではありません。さうであつてはなりません。

幼年隊にあつては、藪の苗圃にあるやうなものです。少年隊にあつては、自分で考へて、自分の足で立たなければなりません。群衆が、健兒道をしてゐるといふ確信がなければ、自分で群衆に加はることを止めなければなりません。仕事は、面白がなく、困難に見えるからとて自分で止めてはなりません。君は眞の勇氣と着實とを要しませう。

「人を敬ひ、神を畏れ、王を尊び、兄弟を愛せ」とは、騎士の掟でありました——健兒の鎧を着て（班長や、隊長は、締まる處は、手傳つて、締めてくれませう）そして、自分のなし得る事を求めなさい。

昇進式

最後の幼年隊の教練の終に、次のやうなことがありませう。

幼年隊は、倶楽部の一隅で、教練圓を作り、少年隊は他の一隅に馬蹄形を作ります。

幼年隊は大咆哮を立てます。昇進しようとする幼年健兒は、幼年隊長の前に出て「私は宣誓しました」といつて、幼年健兒としての宣誓を繰り返へします。それから全隊に向つて、各幼年健

第二編

技能章

とその資格を得る方法

第一章

技能章

星章と技能章との目的は、缺點を矯正し、人格と健康とを増進する助とするためであります。幼年健児が、第二星章を得たならば、次の徽章を得る途が開かれてゐる。それは、四部に分類され、即ち



見と握手して、中央に歸ります。幼年隊は三度歡呼をして、駈け去ります。幼年健児と、幼年隊長とは、少年隊長が待つてゐる處に參ります。幼年隊長は、その子供を、少年隊長に渡せば、これを馬蹄形の處につれて行つて、その班長に引き合せをします。班長はこれを、自分の班に加へます。

- 一、人格（徽章の色——青）。
- 二、手工（徽章の色——黄）
- 三、他人への奉仕（徽章の色——赤）
- 四、健康（徽章の色——緑）

（第二星章に對する資格は、是等各種の分部に入る第一歩であることを注意すべきであります。）

各部は三科に分類されて、その各に對する徽章が得られるのであります。

技能章は、地方聯合によつて承認された、獨立の有資格の試験官の推薦により、地方聯合によつて許可されるのであります。それは、右腕に、肩と肘との間に、平行線に付けるのであります。

兒童の缺點と幼年健兒矯正表

兒童共通の缺點	原因	要求する教育	矯正	幼年健兒作業と技能章
誇示すること…… 大言を吐くこと…… 羞かしがり…… 虚言をいふこと…… 惡破不短不我殘	無經驗	興味の缺乏	人格	法集 集 察 物 書 工 急 事 内 泳 動 と 生 號 然 觀 信 採 自 編 圖 木 能 探 自 編 圖 木 水 運 組 個
不器用なること…… 發育矯正し得べき身體の 缺陷……	他人に無頓着	他人への奉仕	健康	運動及個人衛生 競人 技衛
戲…… 性…… 壤注…… 柔……	他人に無頓着	他人への奉仕	健康	運動及個人衛生 競人 技衛
不器用なること…… 發育矯正し得べき身體の 缺陷……	他人に無頓着	他人への奉仕	健康	運動及個人衛生 競人 技衛

技能章

第一部 人格 (青)



観察



信號



採集

第二部 手工 (黄)



木工



編物



美術

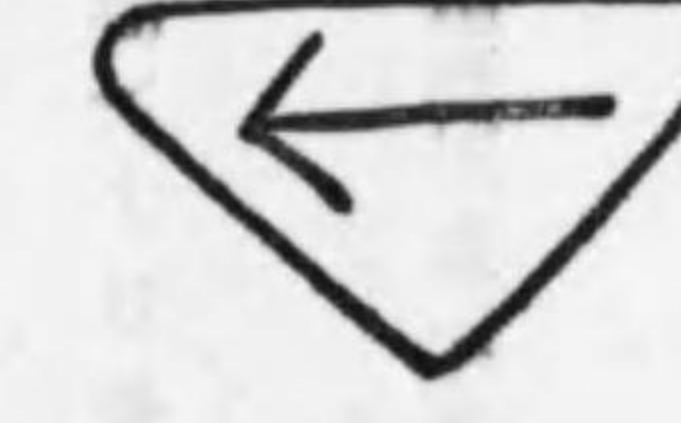
第三部 奉仕 (赤)



救急



家事



案内

第四部 健康 (緑)



運動



水泳



競技

第一部 徽章の色—青
人格

(この部は、智能、観察、専心等を含む。)

幼年健児が、是等の徽章の中いづれを得るにしても、次の誓約をなすを要します。

「私は、徽章を得た後も、全力を盡して、実行(又は採集、又は、観察)を続けます。」

信號。モールス又は手旗にて、アルファベットの知識を有しなければならぬ。

起信と應信、一般答信、通信符號及其の應答の終信、數字のために、アルファベットの終

信及消信の知識を有しなければならぬ。

モールス又は手旗にて、徐々に、正確に、短語を發信し、且つ讀み得ること。

野外信號等の實際知識を有すること。即ち、發煙信號、音響信號(呼び子)、動作信號(手

又は團仗)。

採集。次の各部を奇麗に、組織的に排列し、附箋して採集をなすこと。

スタンプ。葉書、綬章、飾章、郵便消印、植物又は地質學の標本。

その代用として、切抜日誌を作ること。

觀察。英國産野獸五種の系統、習慣に就きて知ること。

又は、鳥類。

又は、二十種の英國産の花又は木の名稱、外形を知り、及び、人體又は動物に有害なる普通植物（漿果等）を知ること。

食菌と有毒菌を識別し、有毒菌の危険なることを知ること。

（食菌試験の代りに、都市の少年のみに對して、八百屋にて得られる、各種果實及野菜の季節及大約の價格を知ること。）

陸上目標、磁針方位、又は地上符號にて追跡し得ること。「キムス」ゲーム又は、「店頭飾棚」

又は、廣告板にて遊技をなし得ること。

この徽章を得る前に、觀察者によつて、特別の誓約をなすを要する。「私は、動物にも人間に對

すると等しく、善行をなし、及び、鳥類を保護し、その巢を破棄することを防禦することを誓約します。』

第二部 徽章の色——黃。

手 工

幼年健兒が第二部の徽章を得る前には、次の誓約をしなければなりません。

「私は、最初は失敗しても、成功するまでは、繼續して試みます」

編物。幼年健兒は、次の考査の中、四つを通過すれば編物技能章を得る資格が得られます。

1、毛糸のスカーフを編むこと。

2、糸の袋、又は種子などを覆ふ網を編むこと。

3、帆布に十字縫をして、藥罐敷を作ること。

- 4、帆布に毛又は木綿切を刺して、敷物を作ること。
- 5、端切を接合せて蒲團又はテンプル掛を作ること。
- 6、ラファイヤ棕櫚の繊維で日用品を編むこと。
- 7、バスケットを作ること。

美術。ペンとインキ、又は鉛筆を用ゐて、動物、又は人物又は静物を描寫すること。

簡単な小話に於ける事件又は人物、又は、戦争、歴史上の事件の説明を、鉛筆、ペン、筆、クレオンで描くこと。(大きさは七時に五時を下らざること)又は、自然物から風景又は静物の一集體を描寫すること。

代用として、試験官の承認を経て、(七時の高さを下らざるもの)人物、動物又は鳥顔を、粘土、石膏、又は蠟等でモデルを作ること。又は、田園、村落、又は、軍艦を、粘土、石膏、ボール紙又は、砂でモデルを作ること。

(注意)——兒童の自然性向は、各方面から獎勵され、ものであります。即ち、その作業の精神と、企劃とは、出来るだけ多く、學校課程に準ずること。

木細工。(彫刻)次の品目中、二種を製作すること。

箱、急須臺、踏臺、紙牌臺、茶盆、及自己の選擇による他の一品。
道具の手入及研ぎ方を知ること。

圖案の理論を了解し、及簡単な圖案を描き、これを木片に移し得ること。

細工物(代用)次の品目中、四種を製作すること。

パイプ臺、ナイフ臺、小鏡、裁紙刀、時計架、棚承、及自己の選擇による一品。

大工(代用)次の用材の四種を識別し、且各種の性質及普通用途を知ること。

松、白樺、黄樺、莞(又は米白樹)トネリコ、榎、榆、桃花心木、胡桃、チーク及樺。

大入（追入）杓差し、合欠繼ぎ、及、蟻繼ぎの意味及用法を知ること。其中自作の二品の優等見本を示すこと。

鋸、鐵槌、鉋及鑿を能く用ゐ得ること、且後者を研ぎ得ること。

注意、若し幼年健兒が、試験の第二、第三を具備する自己製作の小品二三を提出し得る時は、只第一の知識の試験を要す。

第三部 徽章の色——赤。

奉 仕

幼年健兒は、第三部のどの徽章を得るにしても、次の誓約をなすを要します。

「私は、自分よりも、先づ他人を援助するために、全力を盡します。」

救急。出血を止めて、出来るだけ防衛するやうに、手に繃帯することが出来、且つ擦過傷の洗

淨法及手當法を知ること。挫傷の手當を知り、且つ挫傷した足首に、廣幅繃帯を施す方法を知ること。腕の吊帶法、頭部の繃帯法を知ること。鼻出血を止める手當を知ること、被服に付いた火の消し方、小火傷及湯傷の手當、眼の異物、息詰り、及日射病の手當法を知ること。

家事整頓。爐の鐵格の清掃、マッチ二本以上を用ゐないで、火を焚き付けること。茶を上手に入れ、卵をフライし、又はポーチすること。馬鈴薯の皮をむき、之を煮ること、且つ野菜の料理法を知ること。靴の磨き方。床を敷き、土器及器具等を洗ふこと。窓、ナイフ、眞鍮器具の磨き方。

案内。最近の大都市に通ずる道路を知り、且つ何哩の距離なるかを知ること。附近の都市、村落の三つの方位及距離を知ること。（隊の本部を中心として、距離を計ること。）道を問ふ旅人に明確に方向を告げ、且つ丁寧、敏活に之をなし得ること。簡単な言語命令を、正確に傳達し得ること。最近の警察署、消防署、醫師、藥劑師、病院、牧師、鍛冶屋、自動車庫、及旅館の所在及距離を知ること。又各物資の最上商店の名稱及所在を知ること。隊本部より周圍一哩の四分の一の

地域にある近路を知ること。

大體の距離を判断し得ること（即ち人の案内のために）。教區の歴史を知り、附近の名所、舊蹟を知ること。（教會、城趾、寺院、戰場等。）

大都市にあつては、地方主事は、一、四及五の考査に、適當な變更を加へ得ること。

第四部 徽章の色——綠

健 康

幼年健兒は、第四部のどの徽章を得るにしても、次の誓約をなすを要します。

「私は、常に身體を清潔にし、思想を高潔し、且つ公明正大に遊技するために全力を盡します。」

水泳 二十五碼を泳ぎ得ること（如何なる泳ぎ方でも）。鹹水では六十秒間、淡水では三十秒間、仰向きに浮び得ること。水中で半ズボンを脱ぎ得ること（又は、その代りに、兩腕を胸に組み、

仰向きになつて、十五碼を泳ぐこと。「ダックス・グイプ」（即ち、水中に立つたまま、潜り又は泳ぐこと）が出来ること。又は、その代用として「ハネー・ポット」（即ち、臺、岸、又は船から、兩手で兩膝を抱いて跳び込むこと）を演ずること。

運動。是等の試験は、A、B、二級に分たれる。A級は八歳から十歳までの幼年健兒を含み、Bは十歳から十二歳までの者。その考査は、兩級とも、運動の性質を等しくするけれども、標準を異にする。

（注意、A級幼年健兒の平均身長は、三呎十吋である。この級の幼年健兒で、身長、體重等普通以上に發達した者は、B級として考査を行ふ。）

A 級の考査

幼年健兒は次の各項をなすを要する。

五十秒間に八分の一哩を走ること。

十八秒間に百碼を疾走すること。

二呎六吋を跳ぶこと（高跳び）。

六呎を跳ぶこと（幅跳び）。

綱又は棒を攀ること。（十呎）

クリケット・ボールを二十碼投げること。

十五碼の距離から投げたクリケット・ボールを捕ること。

次の四項の中一つをなすこと。

1、逆立ち。

2、横とんぼがへり。

3、拳闘をなし得ること（即ち、正しい姿勢、防禦及攻撃を知ること）。

4、相撲をとり得ること（正しい型で）。

（注意。最高標準は、3及4の考査では豫期して居らぬ。初歩の知識と、旺盛な勢力とが、

要求される全部である。）

B 級の考査

幼年健兒は次の各項をなすを要する。

四十七秒間に八分の一哩を走ること。

十七秒間に百呎を疾走すること。

二呎十吋を跳ぶこと（高跳び）。

七呎六吋を跳ぶこと（幅跳び）。

綱又は棒を攀ること（十呎）。

クリケット・ボールを二十碼投げること。

二十碼の距離から投げたボールを捕ること。

次の四項の中一つをなすこと。

- 1、逆立ち。
- 2、横とんぼがへり。
- 3、拳闘をなし得ること（即ち、正しい姿勢、防禦及攻撃を知ること）。
- 4、相撲をとり得ること（正しい型で）。

對抗競技章。 適當に組織された組の規則正しい競技者でなければならぬ（隊長又は隊長の承認する他の人の監督の下にあるを要する）。少くとも一期に六回の競技を演ずるを要する。何かの理由で、幼年健児が、對抗競技を演ずるために選ばれない時は、その主將にして、且つその倶楽部の責任者によつて、熱心なる運動家として、特に推薦されることを要する。

幼年健児のトーテム、ボール

幼年健児隊は、トーテム・ボールを携へることを許されてゐます。

トーテムといふのは、棒に狼の頭をつけて、彩色したりボンを付けた仗であります。是等のリ

ボンの一つは、一人の幼年健児が、一技能章を得た毎に、トーテムに加へるので、そのリボンは、その健児が、技能章を得た項目の部門の色を有するものであります。その獲得者の姓名は、記號その他で、リボンに書くのであります。

その年の終末になると、年月日を印した環が、翌年得た一年間のものと區別するために、そのリボンの上にかけられるのであります。

トーテムの目的は、得た技能章の記録を作つて、幼年健児の技能を奨励するためであります。かくの如くして、一目して、その隊の技能の数を表はし、他の隊も、同様の技能を増進させる刺戟となり、又隊の名譽のために、よい記録を作るために、共同するやうに、各自の努力を奨励するのであります。

第二章

信號

隊長への注意。

目的。 信號考査の目的は、心の集中、眼の正確、迅速、風力、綴字を發達させるためであります。

方法。 幼年健兒に、手旗信號を教へるのは、發信法に於いて、完全なる高標準を目標とすることは、留意すべき大事なことであります。勿論、速度、文章の長さ等は、期待もされず、希望もされない處であります。併し、誤つた信號法（即ち、不注意に作つた文字等）は、スカウトの信號の初歩である以上は、全く信號法をしないのよりも悪いのであります。

次の二三の注意は、幼年健兒自身に理解出来るやうに書いたものであります。是等は凡て、手旗信號を、小さな子供等に教へた實際の経験に基いたものであつて、幼年健兒や、若い少年健兒に、屢々経験して、困難と思ふ處を詳説したものであります。

モールス信號の注意も、この章にあります。その子供が少年健兒になるまで、この方法を持つた方がよからうと思ふのであります。幼年健兒は、旗でモールスをなすべきものでありません。

良書

"Signalling for Scouts," D.F. Morgan and E. Scott, C. A.
Pearson, 1s. 6d. Post free 1s. 9d.

信號に就いて幼年健兒への注意

手旗信號。 手旗で信號を學び始める前に、信號はどういふことかを注意して考ふべきであります。音聲の達かない者に通信を送ることあります。話の出来ない者に、要件を、ほんとうに、明瞭に通信を與へることは、實に困難であります。そこで、その任務は、受信者が、出来るだけ容易に了解するやうに、出来るだけ最も明瞭な風に、旗で之をすることあります。それです。初めから、全力を盡して、上手に信號をなさい。只練習してゐるのだからといふので、從來の方法で、文字を送ることが出来ると思つてはなりません。

信號をする時は、信號手が、一文字に付けてゐる名稱を學ばなければなりません。例へば、Aは常に「アック」と呼ばれて、JやIなどと間違ひられるのを防ぐのであります。又、人がBといふ文字を呼ぶと、D、T、P、又はVと容易に間違ひられます。それで、信號手は、常に「ビー

ヤ』と呼びます。MとNとは、非常に間違ひ易いのですから、Mは『エンマ』と呼ばれますから、間違ひの起る筈はありません。特別の名稱の付いてゐるのは、只二三の文字だけで、その他は凡て、普通の方法で呼ばれて居ります。

ここに、特別の名稱を持つてゐる者の表があります。

A	を呼ぶに	ア	カ	ク	M	を呼ぶに	ム	フ
B	を呼ぶに	バ	カ	ク	P	を呼ぶに	プ	フ
C	を呼ぶに	カ	ク	ク	Q	を呼ぶに	ク	フ
D	を呼ぶに	カ	ク	ク	S	を呼ぶに	カ	ク
E	を呼ぶに	カ	ク	ク	T	を呼ぶに	カ	ク
I	を呼ぶに	カ	ク	ク	V	を呼ぶに	カ	ク
J	を呼ぶに	カ	ク	ク				

それは學ぶのに非常に容易であります。が、信號を知らない人は、話をしてゐることが了解出來

ませんから、皆が面白いことでもあります。例へば CAT を綴るとすれば、 “コーカ、ア、ア、ア、ア、ア” と綴り、DOG は “ド、ド、ド、ド、ド” と綴ります。

文字や言葉を、發信しようとして心配する前に、先づ體を整へ、旗を正しく持つことを學びなさい。

1、しつかり立つて、兩足を少しく開き、そして、受信者に正しく面するのであります。

2、棒をしつかり握り、旗を正しく下げ、第一指を、旗なりに指し、棒と腕とは、一直線になるやうにするのであります。

3、常に兩腕に力を入れて真直にし、曲げてはなりませんし、棒をぐらぐらさせてはなりません。

4、旗を一本だけ用ゐる七つの異つた位置を知り、その運動を、正確、敏速にすることが出来なければなりません。

5、この運動を練習するには、常に時計の方向に回轉します——即ち、右手から始めるのであります。

處で、信號の方法が解りました。そこで、手旗でアルファベットを學ぶことになるのです。そ

一割 ↑ A x 1	└ B x 2	┘ C x 3	┆ D x 4	┐ E x 5	┌ F x 6	一割終 ↑ G x 7
二割 ↗ H x 8	↘ I x 9	↖ K x 0	┆ L	┆ M	二割終 ↑ N	
三割 ↗ O	┆ P	┆ Q	┆ R	三割終 ↗ S		
四割 ┆ T	┆ U	┆ Y	四割終 ┆ 消字			
五割 ┆ 数字	┆ J P H K V T 記号	五割終 ┆ V				
六割 ┆ W	六割終 ┆ X					
七割 ┆ Z						

れには、ほんとうに全力を盡し、一心にしなければなりません。前頁を参照。

第一割——AからG——一本の旗で皆出来ます——Jまで右手（それは頭の真上になります）他は左手でするのであります。他のものを學ぶ前に、どんなにしても、完全に、この七字を覚えなさい。それでも、BAG, FAG, FED, CAGE, DEAFのやうな、簡単な言葉を作ることが出来ます。かういふのを作つて、他の健兒に、之を読んで貰ひ、又自分で讀むために、人にも發信して貰ひ、かくの如くして、他のも一巡して、見られるやうにするのであります。是等の文字が、確實に得られたら、次に進むのであります。

第二割——HからN——二本の旗を要することが解ります——右の方は、Aを作るやうにし、左の方は、Bを作るやうに、胸の前を通るやうにするのであります。それから、A旗を、全くそのまゝにして置いて、B旗の回轉をするのであります。かういふ風にして、H、I、K、L、M、N、を作るのであります。（この割でJがぬけてゐるのに氣が付きませう——後で出て來ます。）是等を、AからGまでしたやうに、練習しなさい。それから、次に進むのです。

第三割——OからS——ここで右手は、Bの位置に固定して、左は回轉するのであります。こ

のやうに進行して、右手は常に徐々に（時計の短針のやうに）左の方は早く（長針のやうに）動くのであります。第四劃のUまでは、頗る簡單であります。Uからは困難になります。ここで考へなければなりません。眠つてゐるやうに、盲目にやつていつてはなりません！Uの次には、豫期してゐるやうに、Vではなく、Yが來ます（天はその理由を知つてゐます！）それから「消字又は取消」に「誤つてゐるからXにする」ことです。それから、右手を頭の上に伸ばし、次のは、次の位置に上げます——今度は、第五劃になつて、「數字記號」（數といふこと）といふ記號を作るのであります。それからJ（それは又アルファベット記號です）。それから、V、W、X、Zが続いて、第六劃、第七劃になるのであります。

一度、アルファベットを知り、文字の作り方を知ると、あとは、全く練習を要するのみであります。長文を發信したり、又は、遠過ぎる距離に發信したり、高速度ですることを要しないのであります。要するに、アルファベットを知り、充分上手に、簡單な文章と言葉を、讀んだり、打つたりすることを知ればよいのであります。併し、考へて置くべきことは、久しからずして、少年健兒になつて、信號方面で、期待されることは、澤山あるのであります。それですから、これ

を覚えてゐて、常に全力を盡して練習したら、色々の大原野から、又は、山から山へ發信するところが起つたら、通信が讀まれるやうになりませう。信號をする時に、幼年健兒が往々やつて、その通信を讀む人をして、不可能にさせる悪い事は、どうして、次の文字を發信しようかと、考へる時に、旗を動搖させることでもあります。これは、初めには、愚なことに思はれます。處で、Pを發信したばかりで、Nといはれると、兩手を風車のやうに動かして、Nを作るのには、何處で止めてよいか、躊躇することのないやうにすることでもあります。Nを作るには、どうすればよいか、思ひ付くまでは、Pの處で、全く靜止してゐて、それから、平靜、敏速に、Nを作るのであります。受信者は、考へてゐる一呼吸間位は、氣にかけません——併し、兩手を方々に動かすと、一體何の事か解らないのであります！

單語や文を發信するやうになつたら、注意すべきことは、かうであります。各語の終りになつたら、持つてゐる旗を、明確に用意の位置に、持つてくるのであります——即ち、前にXにするのであります。併し、言葉の各文字毎に、用意の位置に下すのではありません——次に移る前に、作つた文字の處で、一寸靜止してゐるのであります。

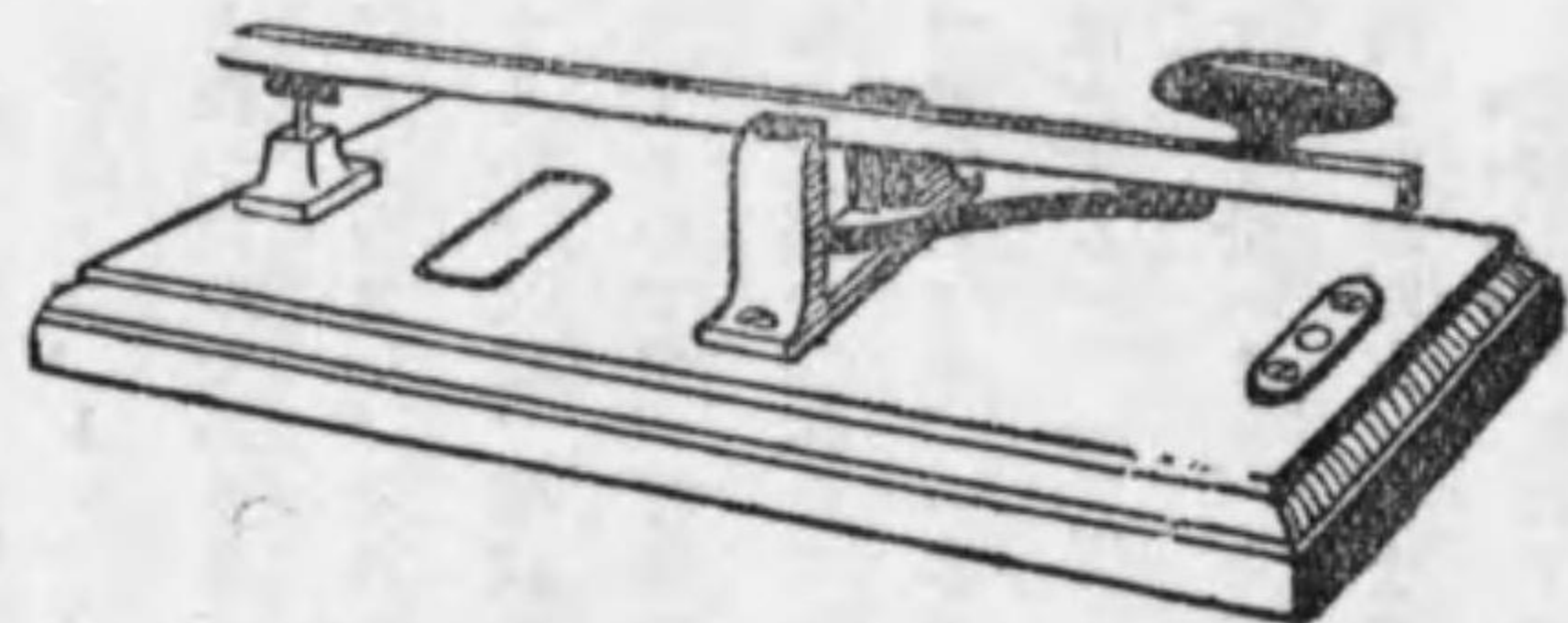
特別信號

名 稱	モ ー ル ス	手 旗
一 般 答 信	T	A
準備(呼びかけ)	-----等	VE.
消 字	八 點	Lの反對
數 字 始 め		數字記號
數 字 終 り		アルファベット 記號
通 信 終 り	-----	A R.
通 信 確 受	-----	R

モールス信號。——モールス記號で、信號することは、手旗よりも困難であります。併し、多くの利益があります。例へば、旗を用ゐる以外に、多くの方法で、モールス信號をすることが出来ます。電信鍵板、發光(發火、又は電火)等で。目ばたきが上手ならば、モールスを眼でして、「話す」ことさへも出来ます!それですから、モールスを學ぶことは、手旗信號です

るやうに、最初から旗のことを考へる要がないのであります。少年健兒になると、旗でモールスをすることを學びませう。處で私は、出来るだけ明瞭に、モールスを説明しようとするのであります。——全注意を要し、驚くべき「全力」を要するのであります。

モールス記號では、文字は、點と線とで出来てゐるのであります。これを書いて見ると、**(A)**、**—**、**⋯**、**(B)**などのやうに見えるのであります。どうしたならば、點と線との區別が出来るかといふのは、問題であります。それは、長短の休止をするといふだけのことであります。發信に如何なる方法をとるにしても、線は、點の三倍を要することを心に留めなさい。モールス記號の書いてあるのを見たならば、それは容易に解りませう。これは點**—**で、これは丁度三倍の長さの線**—**であります。光を出して、モールスで發信するのも同様であります。「**一**」といふ間光を出して、點を作るならば、線を作るためにどれだけ、光を出さなければなりませんか。勿論「**一**、**二**、**三**」と數へる間であります。私は、各種の發信法を述べる前に、モールスでアルファベットを學ばなければなりません。私は既に、如何なる方法、如何なる速度で發信するにしても、線は常に點の長さの三倍であることをよく頭に入れて置くことを述べただけであります。これを記憶



模擬電信機。

處で、アルファベットを知つたならば、早く發信したり受信したり、することの出来るのは、只練習次第であります。確實にアルファベットを頭に入れたり、正確に休止する練習の兩方を、最も容易に練習する方法は次のやうな、模擬電信機を用ふることです。

點は「トン」と呼ばれ、線は「ツー」と呼ばれてをります。それは、機械が、この二語のやうな音を出すからであります。——やつてごらんない。解りませう。手を數回、早く短く押してごらんない。「トン、トン、トン」といひませう。今度は、それを押して、前のやうに、三倍長く、手で押して、それから離してごらんない。「ツー」といひませう。

處で、點と線とは、どうして作るかといふことは、解りました。そこで一字を考へて、モールスで、自分で「ツー、ツー、トン、トン」(即ちG)といつて見て、それから機械でやつてごらんない。文字が出来るやうになつたら、言葉をやつてごらんない。そして、各字の終りに、一線だけの間

點
E
I
S
H

線
T
M
O

反對

A
B
D
F
G
Q

N
V
U
L
W
Y

サンドイツチ

K
P

R
X

反對のない文字

C J Z

數字

1
2
3
4
5

6
7
8
9
0

アルファベット
を學ぶ簡単な方
法は、上の通り
であります。

しなければ、どんな方法で發信しても、誰もその通信を読むことが出来ないでせう。

を休止しなければならぬことを記憶しなさい。健兒に、モールスで「ツー、トン、ツー、トン、(休止)トン、トン、ツー(休止)ツー、トン、トン、トン」といふ語があります。それは“Cub”と綴つたのであります。發信や、受信に、全く慣れるまで、模擬電信機で、言葉の練習を續けてもらいなさい。それから、目ばたき(右の目を「ツー」とし、左を「トン」として)をして練習するか、又は、學校に行つたり、床に就くときに「トン、ツー」語で、自分で言葉をいつて、練習するのであります。言葉の發信が出來たら、文章の發信を試みるのです。併し、言葉の終りには、一線の三倍の間休止することを忘れてはなりません。他の記憶すべき重要なことは、如何なる方法で發信しても、一字を作るのに、始めから終りまで、繼續して直進することでありませう。途中で休止すると、讀んでゐる者は、二字だと思ひませう。即ち、C(—|—)を發信しようとして、半分(—|—)とやつて、休止し、それから、第二の半分(—|—)を發信すると、N、Nを發信したのだと思ひませう。

發煙信號 これでは、他の方法のやうに、詳細な信號を送ることが出來ませう。併し、非常な長距離に發信することが出來ませう——實際、視界外にある時や、又は、遠過ぎて見えない時など

です。通信しようとする仲間と、豫め記號を打ち合せて置かなければなりません。盛に煙が立つ焚火をしなければなりません。(飯盒をがけるやうなものや、周に坐つて話をするやうなものではありません！信號をするには、色々な間隔で、煙を立てるやうにしなければなりません——打ち合せた記號に従つて長短を定めるのです。これは、生な草や葉を、火に焚き付けて、濡れた毛布や、古い帆布で、之を覆ふたりとつたりして、調整することが出來ませう。

音響信號。これは、スカウトの呼び子ですのであります。諸君は、一般には、それをしませんと——大抵は隊長であります。野外競技や練習で、幼年健兒や、少年健兒が、要する時に、呼び信號を、發信しようとするのに、これほど困らせるものはありません。往々誤解と、混亂さへも起すのであります。併し、隊長や組長が、呼子で命令を與へた時は、どういふ意味か、正確に知らなければなりません。何より最も重要なことは、氣を付けの呼子を知つて、どんなことをしてゐても、直ちに走つて、之に従ふことでありませう。

ここに、呼子信號の表があります。

氣を付け——“空襲”

集れ 等 “駈よ、駈よ、駈よ”

組長来れ “クミチヨウ”

展開(進め) 等 “ヒラケー、ヒラケー”

危険(警戒) “ソラー ソラー ソラー”

動作信号

意味

(a)肩の下に腕を前後に振る。

“進め”又は“前へ”

(b)片腕で頭上に圓を描く。

“退げ”

(c)手を握り肩と腰の間に前後に動かす。

“駈け歩”

(d)片腕を頭上に充分上げる。

“止まれ”

(e)手を開き二三回地面の方に。

“ねろ”

動かす。

(f)片腕を頭上に充分伸ばし。

“展開”

二三回左右に静かに動か

す。手を開き體の両側腰

まで来るやうに振る。

この信号は、中央からの展開を示す。右方に展開するのなら、右を指して信号を終り、左に展開するのなら、左を指して信号を終る。

注意 凡ての信号は、いづれの腕でも、最も明瞭に、どういふ意味かを示さなければなりません。

上に述べた注意は、考査に及第するに、記憶を要する全體に亘るものであります。併し、徽章を得た後でも、信号を止めるものではありません。——「練習を続ける」と誓約致しました。そこで、練習を続けるのに助けとなる二三の注意と遊技とがあります。

手旗信号とモールの書き方。手旗か、モール記號で、お友達に手紙を書きなさい。一層來

に早くやれるか、やつてごらん下さい。一回でも間違へば、その番は、全く無効であります。そこで止めて、カードを再び切り、初めからやり直すのであります。これが早く出来ると、手旗を讀むことが、かなり上手になります。

練習するのに、この方法の利益なことは、カードを見る時に、人が手旗信號をしてゐると、全く同じに見えることあります。即ち、自分で文字を作つてゐる時に感ずると、丁度反対側であります。手旗信號は、人が困難に思ふのは、之を讀む時に、反対側に見えるからであります。併し、手旗カードは、直ぐに困難をのぞく助けとなります。鏡の前に立つて練習してはなりません。それは、讀み方の助けにはなりませんから。自分の反映は見えますが、それは正しくない側であります。例へば、A字を作るとすれば、その幼年健兒は、鏡には、右手ではなく、左を伸ばしてゐるやうに見えます。それですから、Aではなく、Gになります。

手旗信號を讀む遊技は、次のやうにして、練習することが出来ます。

十二人位の健兒で、その遊技が出来ます。健兒は、アルファベットの各字を選びます。これを（カードに、大きくインキで書いてあります。）ピンで胸にとめるのであります。それから各は、

野原か、空地に立つて、配置されるのです（その距離は、幼年健兒の能力に従つて、隊長が定めるのであります）。隊長は、大きい半圓形に、皆から見えるやうに、前に立つのであります。手旗で信號して、健兒の動くのは、その目的であります。——二人が位置を變へる（「郵便遊技」のやうに）。A、Pを發信すると、——AとPとは、各前に進んで、地面を通つて、互に位置を占領するのであります。それには、各健兒は、隊長によく注意して、見てゐることを要するのであります。各健兒は五點を有してをります。自分の文字が發信されないに出ると、一點を失ふのです。第二字信號まで六を數へる前に出損すると、一點を失ひます。與へられた時間の終りに、點數を失つた最も少い者は、勝ちになります。勿論、遊技の間は、一切「話」を嚴禁されてをります。隊長は、各健兒の移動に對して、力めて均等の機會を與へなければなりません。一度に、餘り長く遊技してはなりません。十二人以上は、遊技をしてなりませんし、又文字も各の興味を維持する程屢々發信も出来ません。この遊技は、幼年健兒に、手旗を讀むことを教へ、又絶大の集意力と緊張心を養ふものであります。（この集意力は、二健兒が位置交換をするために駆けてゐる間に、弛むものですから、緊張し過ぎるものでないことに注意下さい。）若し、組長が、十分上手な信號

手であるならば、隊長は、審判と計數とをやるのであります。

發煙、音響、動作などで、信號を具體的にする實際の遊技は困難であります。併し、田舎への遠足、散歩は、一大「模擬演習」として、取扱ふことが出来ます。全隊は、敵地に於ける黒人水兵と、赤人種族と、探險隊と、英國兵になります。すると遠足は、警衛勤務になつて、焚火は、發煙信號に用ゐられます。(他の隊に對しても、又この目的で派遣された隊に對してでも)。この隊との通信は、凡て旗、呼子等の信號で行はれるのであります。

音響、動作信號の簡単な練習に對しては、幼年健兒は野原の四方に散開して、隊長は信號をなし、その信號の命する通りにするのであります。隊長はよく見てゐて、命令通りにする一番遅い幼年健兒の名前(又は番號)をいつてよいのであります。これは緊張の習練になります。各命令(例へば二個單信)が遂行された後に「模擬」信號を二三考へて置くのは、よい計劃であります。

第三章

採集

(第一部)

隊長への注意

切手の排列等に關する詳説、綬章、飾章等の表、植物地質の標本に關する説明の詳細は、此處に述べることは出来ません。是等は、その問題を取扱ふ参考書に求めなければなりません。けれども、採集、切抜帳を、奇麗に排列する方法上の二三の注意で、幼年健兒の参考となるものを述べませう。

要旨は、子供が、仕事を系統的にするのを奨励するのであります。それが、子供自身の系統であるならば、何より結構であります。そして、附箋を、鮮明、巧妙に記載することを練習せしむべきであります。

採集に關し、幼年健兒への注意

勿論、繪端書をどうして集めるかは、ご存じです。アルバムがあるならば、切手を排列するこ

とを、直ぐ學ばれませう。——それは、幼年健兒が集めて、最も効果があることであります。——それは、海外各國のことを教へるからであります。それをゴム糊で、べつたり貼つてはなりません。状態から、どうしてもはなすか、切手裏紙を、どうしても用ゐるか、隊長に教へて貰はなければなりません。それほど結構なものであります——この外に、蒐集すべきものがあります。

海岸に住んでゐるならば、貝殻を集めることが出来ます。それを排列するよい方法は、セコチンで、ボール紙に奇麗に貼ることあります——次にその名稱を書きます。

地質標本——即ち、化石及各種の石——は、箱又は抽出に仕切をし、又は棚に排列するのであります。附箋に記名するばかりでなく、発見した地名、日附を書くのであります。

花や葉は、よく押し置いて、本に貼る前に、乾かすのであります。正しい名稱は、本で見て、各標本の下に奇麗に書き、それから、地方名を括弧にして書き入れるのであります——即ち、地方人が、その地方で稱する名稱であります。

貨幣は面白い蒐集であります、これを得ることは、少し困難であります。

マッチ箱商標——二三の少年健兒は、百五十種以上を集めてゐる者を、私は知つてをります。

英國製の殆んど總てのマッチ商標を持つてゐますし、又フランス、スミス、イタリー、ドイツ、ノルウェー、日本のさへあります！

私は、外國を旅行してゐた時に、それを集めることを約束しました。私も實際、彼等のやうに、熱心になつたと思ひますし、私の友人もさうでした。我々は、スキスの雪の上で、古いマッチ箱を拾つたり、フロレンスの往來で、年とつたマッチ賣から、買つたりしました。そして、數週間後になると、私の友人は、私に手紙をよこす時には、手紙の中に、マッチ商標を入れてよこしたものです！このやうにして集めたのに、小さな繪が、色々澤山あるのに驚きませう。

誰でも、巻煙草のカードを集めることが出来ます。——「蒐集」といつても、私は、知らぬ人に、邪魔になるやうなことをいふではありません。父や兄や、叔父や従兄弟に、それをとつて置いて、くれるやうに頼むことが出来ます。それから、一打位も集まつた時に、本の中に、揃へて排列して置くことが出来ます。

切抜帳の蒐集に關する注意

本。繪、寫眞、飾章、郵便消印、花又は、その他の標本を本に挿さうとするならば、一錢手帳を、アルバムに使つてはなりません。子供等は、これが好きです。それは、標本を貼つて了つた時に、こごりになつて、脹れるばかりです。物を挟むために、廣い表紙の付いた、特別の本を得ることが出来ます。それなら、各頁が一杯になつても、本は平になつてゐて、こごりになることはありません。それですから、十分貯金をして置いて、玩具店か、文房具店で、切抜本を買ひなさい。又は、联接にするために、縁に麻を貼つたバラのボール紙を買つて、それが一杯になつたら、一冊の本に、綴つて置くやうにしますのであります。

切手を貼るには、勿論、適當なアルバムがあります。ほんとうに、安くて買はれます。又再びとつても、傷まないやうに、切手を挟んで置く、小さな目だたない臺紙があります。

切抜日誌のことは、一九九頁に述べました。

●●●
ゴム糊。強い黄色な膠を用ゐてはなりません。手も、机も、紙もねば／＼になります。糊やゴムの種類が澤山あります。手製の糊をどうして作るかといふことは、第十四食に述べてあります。

又刷毛がついてゐる、糊の瓶を買ふことも出来ます。薄いセコチンもよい材料であります。又安いゴムの瓶を買ふことも出来ます。ゴムや糊を用ゐる時は、常に手を、奇麗にすることに、氣を付けなければなりません。さうでないといふと、黒くなつたり、何でも指跡が付くやうになります。切抜なども、指で押し付けてはなりません。柔い布を用ゐなさい。寫眞を貼る時は、特に注意しなければなりません。

●●●
附箋。標本の下に名前を書くのに、眞直にするために、物差を用ゐて、鉛筆で薄く線を引くことを忘れてはなりません。(後で線をゴムで消すことが出来ます。)奇麗な活字の文字を書くことを練習しなさい。最初は、鉛筆で、奇麗に文字を書くことは、よい計劃であります。——極薄く——それから、その上をインキでかくのであります。附箋を奇麗にするといふことは、本の見えに、非常な相違を來すものであります。インド・インキがあるならば、それを用ゐなさい。普通のインキよりも、一層よく見えます。附箋をするのに、少しばかりの注意を述べませう。名稱を印刷するのに、小さなゴム印一揃を求めなさい。六片だと、活字差しや、印肉などが一揃得られます。



う。要する言葉を綴る活字を挟んで、印肉のインキをつけ、紙の上にしつかり押すのであります。書くよりは、もつと奇麗に見えて、さうするのは、非常に面白いのであります。何時でも、きつと、綴りを正しくなさい。併し、勿論、綴字や、奇麗なことより一層大切なことは、附箋の正しいことでもあります。何時でも標本の名稱のほんとうに、正しいのを求めなさい。そして、正しい順序に物を排列するのであります。それは、系統的と呼ばれるのであります。それは、大したことに聞えます。併し、最も重なることでもあります。この世で、系統なくて成功するものはありません。『仕事の計画を立てなさい——それから計画に従つて仕事をせよ』といふ諺を記憶しなさい。

第四章

観察

(第一部)

隊長への注意

研究すべき鳥類、獸類の選擇は、隊長の任務と、その隊の希望により、又その地方に最も普通の鳥類、獸類は、観察に最も適するので、自由であります。それ故に、是等に關する教授は、この本に含まれてをりません。併し、低價で出版された良書が澤山あつて、必要な知識が悉く得られます。本は、正確、詳細な知識を得るのに必要でありますけれども、その項目は、出来るだけ直接に、自然から研究するを要することを、指示しなければなりません。幼年健兒は、鳥類や、獸類を『追跡』することは、精を要するものと思ひませう——忍耐と自制とが得られます。幼年健兒は、鳥の巢を捜して、興味を得たり、その卵を観察してもよいのですが、巢をとつたり、卵を集めることは禁じてあります。小さな子供がすると、屢々あることで、實際慘酷であります。そして、兎角、鳥の巢は、残忍と破壊との心を起させますけれども、幼年健兒に、そのまゝにして置くことを教へたり、各機會を利用して、鳥の巢や卵をとつたり、特に小鳥をとることは慘酷であることを心に留め、想像を起させることは、一層よいのであります。(又一二〇頁参照)。卵をとらうとする

考に代らるに、これを観察したり鳴き聲や、虫を殺すことは、人を益するやうに、飼育を保護する考を起さ
せることを奨むるのであります。

書

- “British Wild Animals: Their Habits, and Characteristics”
Mortimer Batten. 3s. 6d, net. Post Free 3s. 10d (C.A. Pearson, Ltd.).
- “Birds of British Isles.” Coward Warne. 2vols., each 12s. 6d.
- “A Pocket Book of British Birds.” Elms, West Newman. 3s. 6d. net.
- “Wayside and Woodland Trees” Steg. 7s. 6d net.
- “The Securi's Book of Trees. Merriman. Oxford Press. 6d.net.
- “A Book about Plants and Trees. B. and S. Gurney. 1s. 6d.
net. Post Free 1s. 9d. (C.A. Pearson, Ltd.).

追跡に就いて幼年健兒への注意(第八頁を参照)

地上記號の追跡。追跡遊技と考察とは、澤山あります。地上記號は、その一つであります。こ
の考査は、少年健兒が田舎を通つて、證跡をつけるに出かけて、皆が跡をつけに行くやうにする
ことが往々あります。勿論、諸君は、スカウト記號を知つてゐます。併し、普通の子供は次のや

うな記號に、一寸氣を付けますが



幼年健兒は、眼は大きく開き、心は緊張してその少年健兒が、どちらに行つたかを示す、小さなこ
とを、よく注意します。併し、見習になると、小さな間違をすることが往々あるのです。即ち、
全く、嗅ぎつけるのを止めたり、又は時間を空しく、費すことがあるのです。上等な幼年健兒で
さへも、十分緊張することを忘れたり、急いで物を見のがすので、間違をし、そして、少し遅れ
て行くよりも、餘計に時間を費すことになりす。

此處に、よく記憶してゐると、助けとなる二三の心得があります。

追跡法の始めには、その少年健兒の足跡を、よく注意することから始めるのです。即ち、どれ
が、その足跡かを確かめ、心にその詳細をとめるのです——大きさ、靴の種類、爪先に鋸がある
か、又は踵に金があるかなどです。處で、『この道路證跡について行く』ことに注意し、そして各門
や曲角の處で、Xや矢を見ることとあります。樹皮の削痕、石や門の上の白墨の印を見なさい。

生垣の新しく、折つた枝や、上り段や、塙壁の上の新しい坭、柔い土や坭があつたら、その少年健兒の特徴ある足跡などを吟味しなさい。追跡を見失つたなら、それを見付けやうと思つて、駆け出してはなりません——時間を徒費するばかりであります。何時でも、直ぐ、最後の證跡に戻つて、——折れた枝ではなく——すぐ前の眞の足跡や矢の處に行くのであります。此處で、塙壁を越えたらしいかどうかを考へ、生垣の折つた枝や、さうらしい間隙を吟味し、若し、間隙を見付けたら、通つて行つて、證跡を捜し、直ぐそれが見付からなかつたら、自分の足跡の處に戻つて行つて、再びあたりを見るのです。溝や川があつたら、證跡を晦ますために、跳び越えたか見てもらなさい。若し、さうであつたら、自分も跳び越えて、向側に證跡があるかどうかを見るのです。若し、足跡が見えない草地があつたら、その向を見て、さうらしい前方の上り段や、間隙を見るのです。再び足跡が見付かつて、充分明瞭であつたら、失つた時を、とりもどすために、全力で駆けついで行くのです。

追跡法に留意すべき第一のことは、當座即妙の機智を用ゐる事と、追跡しようとする人に、自分であつて見て、その人であつたら、どうするかを想像することの出来るやうにすることであり

ます。

幼年健兒のなし得る遊技は「追跡遊技」であります。牧童の一隊が、高原を通つて、長い旅に出かけようとしてをります。一週間経つと、自分共の仲間の一隊が、ついて来る豫想であります。そこで、スカウト記號して、絶えず通信を残して置く約束をします。幼年健兒が、二隊に別れて、一隊は、野原や、森林を通つて——全く小徑や、足跡について出かけます。進む方向には、地面でも、垣でも、石の上でも、矢の印をつけます。どうしてゐるかといふことを、紙や、白い石、木片などに書き、又何處に水があるか、各種の危険の警告などをして、通信をかくして置きます。「この路を來るな」(X)も亦必要な時には、するのであります。その中に、第二隊の幼年健兒は出發します。(先發の牧童のに、十分間を置いて)それは、豫期した仲間ではなく、跡をつけて、「白人」を急追してゐるインデヤンの一隊であります。このインデヤンの一隊は、牧童の足跡や、記號を破壊し、通信を讀んでついでまゐります。インデヤン隊の斥候は、偵察のために、單獨に(早く駆ける者)遣はされます。そして、牧童の數や、舉動を報じます。併し、インデヤンの斥候は、自己の危険を冒してこれをするのであります。若し、斥候が白人に見られると、捕虜になつて、

つれて行かれるのであります。(どの牧童でも、敵のスカウトを見ると、健兒叫びをすれば、そのインデヤンは、公明にやつて、降参しなければなりません。)白人は半哩(又はそれ以上)になると終に糧食に缺乏して停止しなければなりません。インデヤンは、彼等について来てゐることを信じて、白人はかくれます。インデヤンは、足跡が終つてゐるのを見て、牧童を捜索します(見付かつたり、名をいはれると、殺されるのと同様であります)併し、どの白人でも、自分のかくれがから忍び出て、見られない中にインデヤンに、手を付けると、彼を殺したことになります(行動を止めるのです)。この遊技は、隊長が呼子を吹いた時に、生きてゐる者の数の最も多い隊は、勝利を得るのです。)

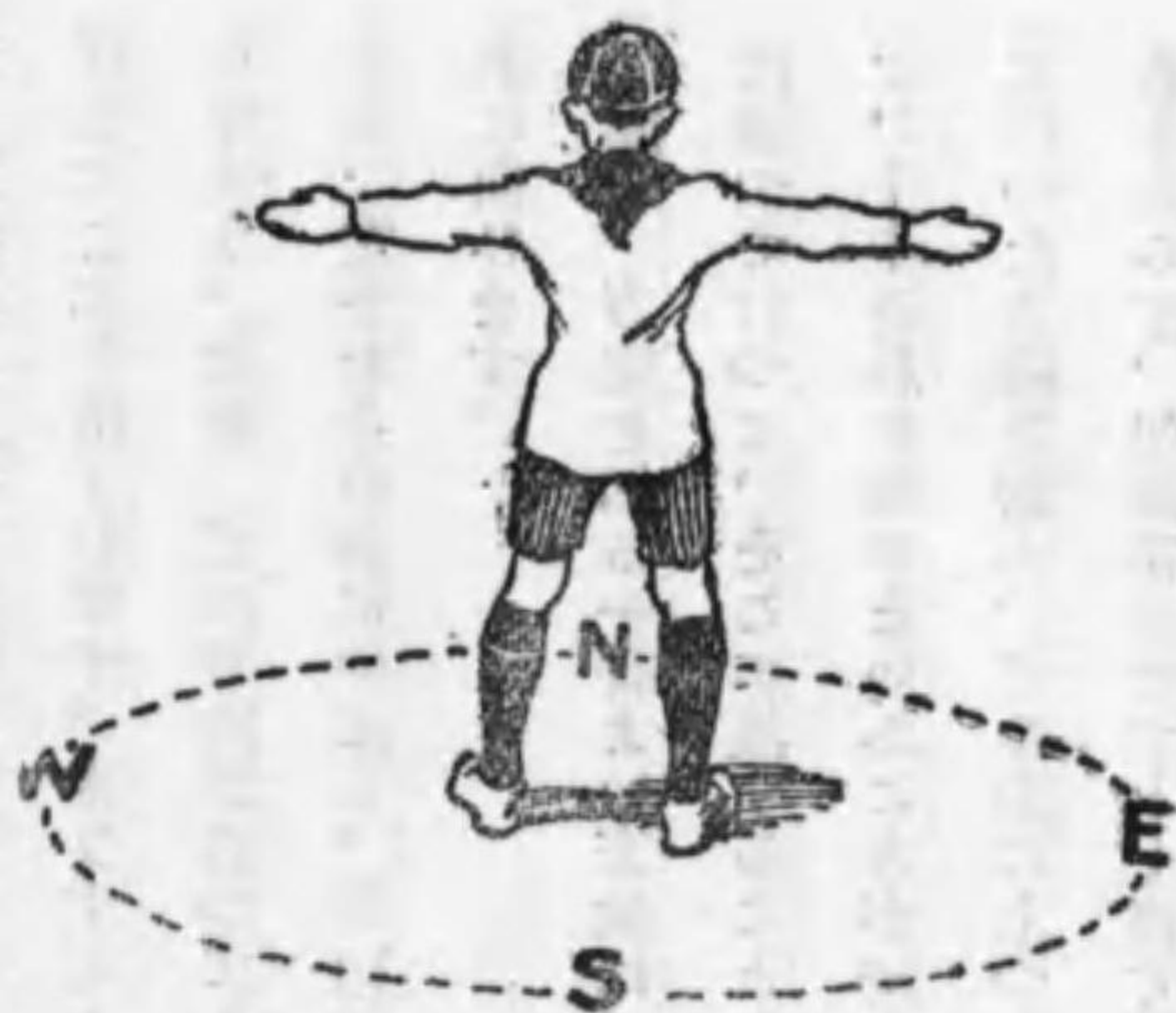
地標。地標で、道を見発することは、地上の記號で、自分の道を見発するのと、大層違つてをります。地上を見る代りに、あたりを見なければなりません。地標といふのは、地形上にあるもので、誰でも知つてゐるもので、何時でもあるので、小山、塚、大きな池、單獨の木や岩といふやうな、容易に見えるものであります。教會、大建築物などは、又地標といはれます。そして、

道を見発するのに、頗る必要であります。自分の家の周圍の地標は悉く知つてをるべきであります。これに二つの理由があります。(一)知らぬ人が、その道を見付けるやうに、(二)自分で斥候をして、道を見失つた時に、自分が何處にゐるか解るやうに、多分、森林中にゐて、どの道を見ればよいか、少しも解らないことがあります。かういふ時は、木に登つて、河が太陽にかざやいて、左に銀の線が見えると、かういふことが解りませう。なるほど、河が左手にありますから、私は、この方向に行くと、内の方に行かせう。あの製粉場は、河の岸に見えます。それですから、私は、内から五哩許りの處にゐるに相違ありません。又は、教會の塔や、大きい山が、自分の家の後に聳えてゐるのが見えるかも知れません。それは、地標で、自分の道を見出すといふのです。自分の内の近くなら何でもありませんが、知らない處では、これは、非常に大切であります。野營にでも行く時は、四方八方の地標を注意することは、第一のことです。さうすると、お使ひなどに行つて、野營地に戻る道が解りませう。幼年健兒なら、道をきく必要がありません。

磁針の方位。勿論、諸君は、大海で船の航路を定めるには、磁針はどれほど大切だか知つて
ゐます。海には助けとなる地標はありません。併し、陸上では、磁針は餘り役に立たないと思ひ
ませう。英國では、記標や哩標は、道路の至る處にあります。實際アメリカ人は、速力の非常に
早い自動車で、初めて、英國の道路を突進して哩標が非常に多いと云つたといふ話があります。
暫く経つて、友人を顧みていふのに、「オヤ、此處は大きな墓地だね！」哩標を澤山通つたと見えて
墓だと思つたのです。それから、地標が澤山あります。——教會、廢距、山、林等です。併し、
他國では違つてをります。例へば、オーストラリヤの草地では、馬に乗つて通る草は、人の頭よ
りも高く、道路がないことも往々あり、只かすかな足跡があるばかり——哩標などはうっちゃつ
て置き——といふ處では、磁針が非常に入用であります。大抵、遠い山の他は、少しも地標とい
ふものはありません。山をいつても、霧にかくれたり、くれゆく闇につままれたりします。異國
の者は、何時間も馬に乗つて、眞直に進んでゐると思つても、實は圓をなして、草の間を通り、
何時間か経つてから、出かけた丁度その場所に戻つて來ることも往々あります！ 磁針を用ゐて
行つたら、そんなことはないでせう。(磁針の読み方は第十三食にあります。)

併し、磁針を見ないで、東西南北を知る方法があります。少年健兒になつたら、時計や、太陽
で北を發見する方法を覚えませう。又星で方向を知る方法もあります。併し、ここでは、幼年健
兒の用ゐ得る最も簡単な方法を二三述べて見ます。第一記憶すべきことは、一方位——例へば東
——が判ると、他は容易に解ります。若し、どちらが東だか解つたら、右手を脇から、眞直に伸
ばしてこれを指すのです。さうすると、北に正面になつてゐて、南は後、左手は西を指してゐる
のでせう。勿論、どの方向が解つても、同じ方法であります。若し、西が確かであることが解つ
たら、左手をその方に伸ばし、又南であつたら、背を向けるのです。さうすると、何時でも顔が
北に向ひます。

處で、方位を知る一番よい方法は、勿論太陽であります。皆さんは、太陽は、東から出て、西
に廻つて行つて、そこに没することを知つてゐます。處で、太陽が大層低いと、——出たばかり
で、——それが東だといふことが解ります。又出てから何時間かあるならば、大弧を描いて廻つ
て行つた方向を考へ、どの邊に上つたかといふことが判ります。(大體)。それは東です。日没で
あるならば、勿論容易です——直ぐ西は解ります。



我々は東に向くのは、かういふ譯であります。

そこで、教會は磁針であることを記憶しなさい。教會と同じ方向に、右手を指すならば、大抵は、北に面してゐるのであります。併し、教會を見付けて、磁針の方向を見たならば、昔或人のいつた事を記憶なさい——凡て教會の尖塔は、天國を指してゐる形であるといふことです。しか

併し、大きい確實な磁針は、何時でもきまつてゐて、太陽のやうに、動き廻ることはありません。どの村にも、それがあり、町には澤山あります。一度それを見ると、直ぐ磁針の方向が解ります。それが何だか解りますか。教會ではありませんか。殆んど總ての教會は、東を指してをります。即ちその祭壇は、東端にあるのであります。教會は、何故に東方に向いてゐるかを存じますか。聖地は、遙に東方にあるからです。その東の土地は、我々の聖主が生れて、生活し、死亡した處です。我々の教會では、何時でも、

も、結局、それが、人生の最も重大な指針であるのであります！

遊 技

キムの遊技(『スカウト遊技』参照)室内。

伏兵(『スカウト遊技』参照)。

スカウト狩り(『スカウト遊技』参照)。

キムの遊技は、困難でありません。只上手になるには忍耐を要するばかりであります。物をのせてある盆を見よと出されたら、直ちに、忘れ易い物を見て、特に記憶に力めるやうにし、容易な物は、獨りてに解るやうにして置くのです。例へば、スカウト・ナイフ、斧、インキ壺は、獨りてに記憶に残りませうが、リンネルのボタン、ペンさき、マッチ箱は、直ぐ忘れ易いのです。

同じ事は、店頭觀察遊技、又は、觀察、記憶の他の遊技にも適用するのであります。

1、鹿の追跡。隊長は鹿になり、かくれないで、立つてゐて、時々動くのであります。全隊が

鹿を見付けると出かけます。各は、見られないやうに、途を求めて、これに達しようとするのであります。鹿が健兒を見付けたら直ぐ、その方を指して、失敗したので、立たせませす。

或時間が経つてから、隊長が「止め」といつたら、皆が来た場に立つて、鹿に最も近い者が、勝利を得るのであります。

同じ遊技は、健兒が軽く跳んで、試験するやうにすることもあります。

審判は目がくしします。この練習は、乾いた小枝、石、砂利などの散つてゐる處ですと、一番よいのであります。

各健兒は、順番に、目がくしした敵を追跡するに出かけます。百碼の地點から始めて、かなり早く——例へば一分半で——しなければなりません。審判に聞かれない中に、最も近く行つて、止まつた健兒は、勝利を得るのであります。

2 「海軍攻撃」遊技。戸を開けて、港の入口にし、二人の目がくしした健兒は、並んで、英國の巡洋艦になるのです。

他の健兒——敵艦——は、哨艦に捕へられないやうに靜かに、次々港に入らうとするのです。

3、旗取り。二隊に分れて、陣地に就きます。そして少くとも三個の物品を、各陣地に殘して置いて、哨兵を付けて番をします。各隊は、それから、他の陣地を攻撃するのであります。「旗」を多くとつた方は、勝ちであります。哨兵等の數は、隊の大きさによつて變ります。

4、伏兵練習。全隊が二隊に分れて、一隊は、先に行つて、路傍の叢などにかくれます。他の隊はついで行つて、道路を出ないで見付けた健兒を呼び出します。思ふだけ長く續けて、各隊は、變り番に、かくれたり、搜したりするのであります。最初は、かくれる時間をきめて置くと、段々に早くすることが出来ます。

何時でも、誰か隊から出て行つて、出来るだけ早くかくれるやうにする機會があります。それでその者が歸つて來ると、魔法をつかつたやうに、隊が見えなくなるやうにします。これが、何時でも幼年健兒に面白いのであります。

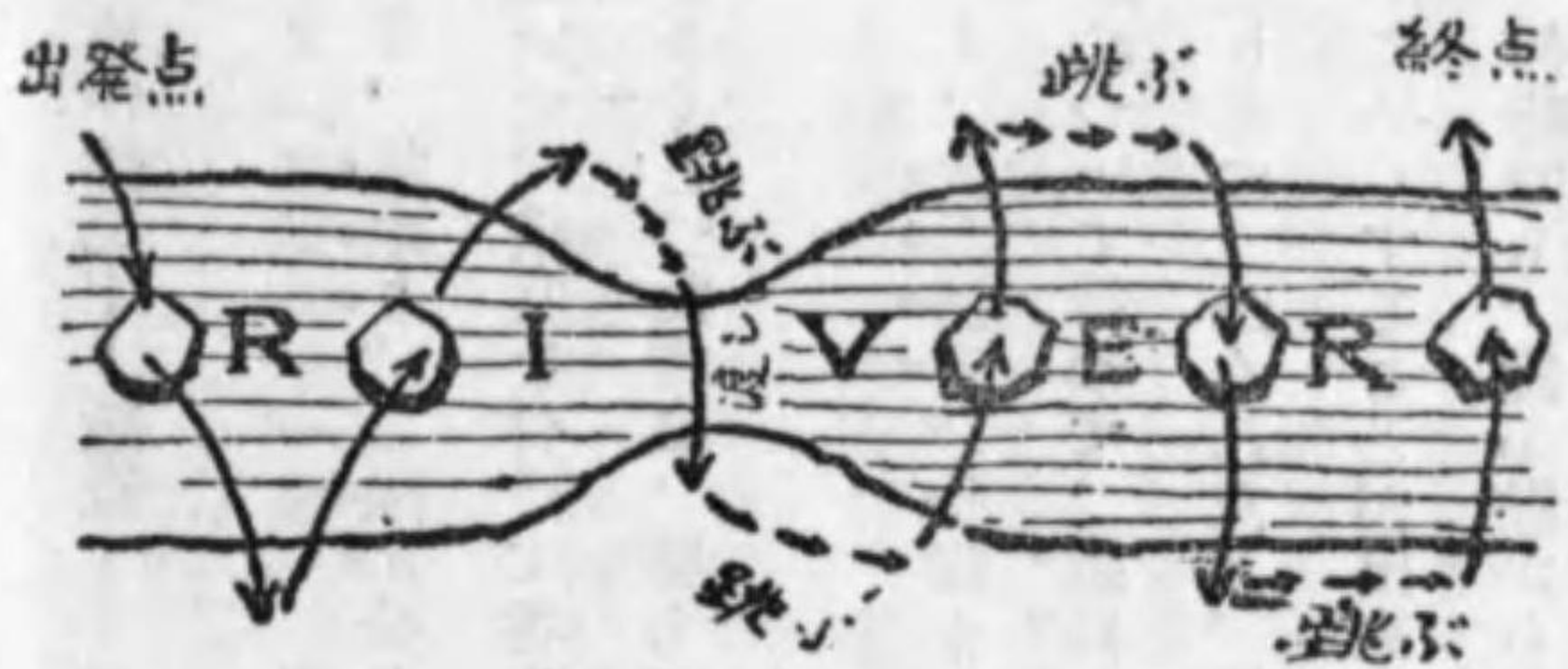
5、健兒が伏兵に上手である時は、三組に分けます。一組は遠征隊になり、他は「土人」になります。

遠征隊は、適当な隊形で出かけて、建築物、村又は木立ちのある處で止まつて、ほんとうの遠征隊がするやうに斥候を出します。「土人」組の一つは、時には味方であつたり、時には敵であつたりするやうにして、かくれるのであります。

一つの「土人」組が、作業をしてゐる間に、他の者は、進んで、用意をするのであります。

この遊技が、適當に仕組まれますと、非常に面白いことをすることが出来ます。同時に色々な幼年健兒の活動が、澤山、これによつて教へることが出来ます。

6、川跳び。地面に「川」のしるしをして、飛び石と、渡しを作



ります。健兒は、一端から、他端まで、跳んで通らなければなりません。どの岸でも少しも休んではならず、始終跳ばなければなりません。

隊長への注意。かういふことを心に留めるを要する。——特に婦人の隊長には——是等の考査は、簡単に聞えるけれども、幼年健児には、忍耐と、決意と、不撓の力を要し、實際困難な考査で、小さな子供には、もつと自然で、もつとローマンスと變化との多いものよりも、負擔になりませう。故に、この技能章を得るために、練習するに當つて、長い仕事は期待もされず、又その造つてる品物は、大きく精巧なるを要しないのであります。

大人に適當な贈物となるやうな、大きく編んだスカーフは、幼年健児には要求されないのであります。自分に適する大きさのものを造つてよいのです。これは、太糸の手編で、二本の木（又は骨）の針で、三十か四十の目で、一碼の四分の三位の長さで、縁飾か總でとめればよいのであります。

網すきは、丈夫に平にすればよいので、何も非常に大きいのを要しないのであります。

十字縫の藥罐敷は、容易であります。そして、幼年健児の趣味に従つて意匠を施すのであります。模様や糸は、自分で選擇するのであります。（藥罐敷の「臺」は、幼年健児自身でするを要しません。）

敷物を造ることは、困難ではありません。併し、費用はかなりかゝります。この敷物が出来る上ると、實際に入用で、ベザーでよく賣れます。その代用としての端切物細工は、材料を買ふのに、多くの費用を要しませんから、よい仕事だと思はれてをります。仕立師は、好んで巾の模様物を束ねた物を與へます。是等は、よい縫接細工の吊床などになります。そして、裏付をして、蔦色の毛で詰物をするのであります。（裏付けや詰物は、幼年健児自身でするを要しません。）試験をするのには、材料及色の趣味ある配合は、仕事の奇麗なと同様の要件になります。

バスケット細工は、他の考査よりも一層、幼年健児の興味を起すものであります。買ひ求める籐は、かなり費用がかゝります。又前以つて、濡らして用ゐなければなりません。それで、手を痛めたり、豆を出したりすることがあります。（これは、指によく油を塗つて置いて、避けること

が出来ます。)

もつと安價で、容易な方法は、幼年健兒が、自分共で集め得る芦や小枝で、バスケットを造ることです。柳、ライラック、又はポプラの小枝は、よいバスケットになります。是等はよく修業が出来ます。卵のバスケットは、苔で裏附をするのであります。柄は、かなりの重量を運び得るやうに、しつかり付けなければなりません。(第一部第十四食、バスケット製造の項を参照。)

小さな日用品は、又ラフィヤ、莞^{ワカ}で、太い毛糸針で造ることが出来ます。バスケット、小さな編ボタン、蓋の付いたバスケット等を造つてごらん下さい。又急須や、熱い小皿や、皿の下に敷く敷物を造つてごらん下さい。

第六章

繪畫美術

(第二部)

隊長への注意

隊長は、美術章は、既に繪畫の趣味、才能を有する幼年健兒にのみ設けられたものではなく、目と手と感覺とを有するどの健兒にもするのだといふことを、留意すべきであります。その目的は、創作、觀察、記憶、技巧、専心を奨励するためであります。知能を有する子供なら、この技術章を得る練習をする奨励をなすべきであります。そして、その特徴を注意して、これを奨励し、同時に、隊長が、美術家の友人があるならば、その注意、批評などを與へるために、來て貰ふやうにしております。美術の天才を有する人の五分間の専門の忠告は、只教授の上手な器用な人の、五時間の忠告に値するものであります！

學校課程に従ふことを主張するのでありませんけれども、繪畫實習の趣味と努力とを期待するのであります。例へば、只『技能章乞食』の子供が、奇怪な考案をして、繪畫の才能を持たない者には、繪畫章を與へないのであります。併し、思想を表現する獨創の考を有する者には、只の發端であつても、奨励を與ふべきであります。

幼年健兒への注意

誰でも、やつて見ようとしさへすれば、繪を描いたり、粘土でモデルを作つたりすることが出来ます。それは、學ぶことを要しません。

少し練習して、他の繪や像を、美術家が、どう取り扱ふかを見るために、模寫するならば、正しくやつて行くことが、直ぐ解りませう。

世界で最も立派な美術家が、その生涯に於いて、他の子供よりも、いくらも上手に描けなかつた、時代があつたのです。直ぐ美術家になれると思つてはいけません。——最初は、随分下手にきまつてゐます。併し、これに取りすがつて、やつて行くと、段々上手になります。

それは、學校教育の問題ではありません。

南アフリカの最も開けない處に、猿にいくらも優らない程野蠻な土人の種族が、住んでをりま



す。自分共の相當な言語もありません——藪や林の中に住んでゐます——衣裳もありません——

食物を料理しないで、生で食べます。ほんとうの野蠻人ともいへませう。それでも、洞窟や巖壁の面に、驚くべき上手な繪を描きます。

彼等は、學校で繪を描くことを、少しも習ひませんでした。

學校は何だか知つてゐません。併し、焼いた棒を鉛筆にして、色々な色をした泥を繪具として、彼等の周圍にゐる野獸の立派な繪を描きます。

是等をブッシュマンといふのでありますが、それが、こんな

粗末な道具で、岩の上に、何の機械もなく、上手な繪が描けるならば、幼年健兒は、少くとも、上等な鉛筆と、繪具と繪筆で、しかも上等な紙と多くの世話をされては、上手にやれる筈であります。



やつてごらんなさい。

鉛筆をよくときなさい。繪を描くのにためになることは、寫生をよくすることです。太い鉛筆で、最初から、よい繪は、決して出来ないでせう。

ペンとインキの繪も同様であります。よくとがったペンとインク・インキを用ひなさい。

繪を描く時は、一線、一點でも、何か理由がなくてはつてなりません。さうでないで、その繪は混亂します。

普通の方法は、何を描くか考へることです。それから輪廓を軽く描き——それから、その上を、濃く立派に描いて行くのであります。

又綺麗な紙は、繪を立派にする助けとなります。併し、指が汚いと、紙が綺麗になりません。



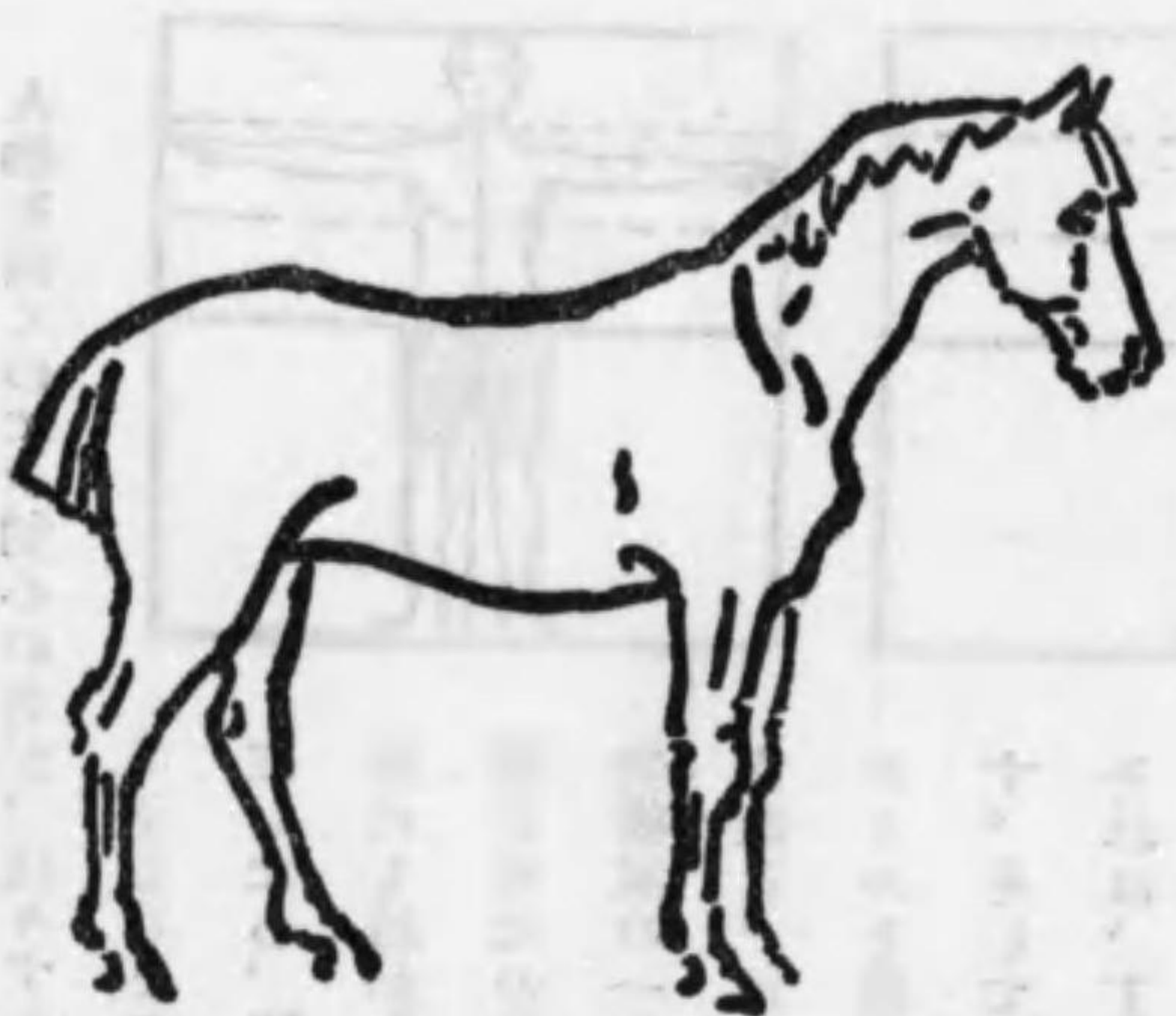
形。描かうとする物を考へて、それから、一生懸命になつて描くのです。馬を描くとすれば、體は長く、一方には、頭と頸、第二には二本の前足、第三には、後足二本、第四には、尾をつけるのです。

それを描いても、兎角、途上で見る動物のやうには見えません。

そこで、美術家の描いたものを、手に入れて、それを模寫するのであります。

それから、そのやうにするには、自分の繪を、どうすればよいか、解ります。

家か、又は、木、人、又は、何でも好きなものを描いてごらんなさい。それから、その繪の模寫をして、自分でどうしたら、もつとよく出来るかやつて見るのです。



人物を描くのに、初心の者が、往々する誤は、色々あります。その誤の一つは、兩腕を餘り短



くすることです。人の手を描いた時に「その手が、これを下げて伸ばしたら、膝に届くだらうか」と自分で考へてごらん下さい。多分、腰にも届かないらしいのです！それから、足が長過ぎて、小さい體を丸太のやうにし、大抵は頭がないのです。世界の最も偉大なる美術家の一人のマイケル・アンジェローといふ人は、人物の繪畫や、肖像を、正しい割合にするのに、最も熱心で、最も簡単な小さいスケールを發明しました。幼年健兒でも、これを作ることが出来ません。そして、その繪を吟味して、正しいかどうかをごらん下さい。それは、丁度四角であつて、四分され、上の半分は、又三分されてをります。

この繪を注意して見ると、四角形の丁度中央は、人物の中央であることが解りませう。そして、その足は、正しく四角の底邊に届い



ておませう。手を開いて、伸ばした、兩腕は、丁度左右の二邊に届いておます。その頭は、上の全部——即ち全四角形の六分の一を占めてをります。これは、マイケル・アンジェローが、人體の正確な割合だと考へたのであります。それですから、我々の繪に、このスケールを採用すれば、安全だと私は思ふのであります。

表現。物のなりが出来たならば——即ち、その形それに何か生命を加へなければなりません。私は先日、五歳になる小さな子供が、そのお母さんの肖像を描いた、驚くべきほどよい繪を見たのであります。

それはこのやうに描いたのでしたらう。



併し、かう書きませんでした。風吹きの日であつたので、次のやうにかいたのです。それが、非常によいと、私は思つたのでした。處で、母の衣裳が、風に吹かれた時に、ゆらくしたのです。それで、始終動いてゐる物を、きまつた線で、上手に書くことが出来ませんでした。併し、母の衣裳の袴の記憶にとまつたのを書いたのであります。



よい繪といふのは、さういふ具合にするのです。狼の鋭い眼で物を見て、さういふ風に見える物を記憶して、それから、紙に書きなす。

自分の繪に、運動や「表現」をつかまへるよい方法は、最初に、自分の現はさうとする動作を得るまで、ピンの頭をした人の小さいスケッチを描くことでもあります。それから、それを大きな大きさに描くのであります。

次頁にピンの頭をしたスカウト(a)があります。

それを運動させます(b)。

それを駆けさせます(c)。

それから、その駆けてゐるのを描きます(d)。

色。勿論、繪に色をつけたいでせう。處で、最初は、赤、青の鉛筆と、黒の鉛筆とで、澤山することが出来ます。赤い顔をして、青い服を著け、黒い靴をはいてゐる巡查を描くことが出来ま



d

す。最初は、黒い鉛筆で、薄く輪廓を描き、それから色をつけるのは、一番よいのであります。

又は、赤い煙突をつけ、海を青くし、上を青い空にして、黒い汽船を描くことが出来ます。波頭を白くし、空に白雲を残し、黒く渦巻いた煙を、煙突の近くでは、眞黒にし、遠く飛ぶに従つて、段々薄く細くするのであります。

色々の色鉛筆や色チョークが澤山あるならば、火の噴火や、戦場の砲弾の爆發などを描いたり、採集した花を寫生したり、聞いた話の繪を描くことが出来ます。

繪具箱や筆があるならば、猶更結構なことであります。非常に澤山の色を要しません。遠く持つて行くならば、赤、青、黄と鳶色で澤山です——これを互に混合すると一層多い色が出来ますから。

赤と青とで紫。



a



b



c

青と黄とで緑。

鶯色と青とで黒。

赤と黄とで橙黄色。

●●●●●
モデルの造り方。石膏、粘土に水又はグリセリンを混ざると（何時でも柔く温つてゐます）モデルを造るに用ゐる材料になります。塊にして、要する形に握りつめ、要する處に、その材料を少しづつ付けて、塊や縁を大指で滑かにし、木のペン軸で、自分で出来る小さな木片で仕上げるのであります。一方をとがらし、一方を平にすると、頗る上等のモデルを造る道具になります。

家だの、船だの、機關、時計、動物——又は何でも好きな動物をモデルにすることが出来ます。温つた砂で、自分の道具で、園を造り、山や村を造り、道路や、河を切り開くことが出来ます。石膏で、家、橋、木、人や家畜なども造るのです。

又は、ジャングル・ストーリーに出て来る色々の動物——蛇のカー、虎、猿、豹、古狼のアーラなどの、小さな形を造ることが出来ます。その動物を周に置いて、評議岩を造ることも出来る

ませう。

それから、狼の頭、丁度猫の大きさ位の、吠えてゐる虎の怖ろしい頭のやうな、もつと大きいのも造れませう。猿の頭のモデルを作つてごらん下さい。只自分に、餘り似たものを、作らないやうに氣を付けなさい！

第七章

木工

(第二部)

木工に關し、幼年健兒への注意。

彫刻。この章では、彫刻に就いて凡てをいふことが出来ません——餘白の少ないので、一問題を概括するには、大き過ぎます。この技能章を得るのには、専門家に習はなければならぬのでせう。併し、この問題に關する良冊子を求めるならば、W. Jackson-Smith (Upcott and Gill, Chancery Lane, Is.) の著はした Chip-Carving と S & S のがあります。それは、知らうと思ふことは、皆明細に述べてあります。もう一つの役に立つ本は G. H. Garnett (Is. 6d. net, postage 3d., C. Arthur Pearson, Ltd.) の著はした Wood-carving の本で、彫刻に關する専門の事を含んでゐます。併し、私は、此處で、如何なる種類の木と、道具とを要するか、價額はどの位

か、少し述べて見ませう。

多く用ゐられる木の種類は、栗、シナノキ、サティン・ウッドであります。一志位から、直ぐ彫刻の出来る、是等の木で造つた物を買ふことが出来ます。又初歩の道具即ち、案内、道具、實習用三種入つてゐるものを、五志位 W. Jackson-Smith, 37, Millgate, Arbroath, N. B. から買ふことが出来ます。又ホワイト・ウッドの各種を、Whiteley か Harrod か Windsor and Newton の店で、離して買ふことが出来ます。道具も亦別々に買ふことが出来ます。各(どの形でも)九片で、ナイフは五片からあります。"M. and C." 印の道具は大層上等で Moeller and Condrup, Ltd., London で出来ます。最も入用な道具は四種で、鋤鑿、斜鑿、規矩と筋立、穿孔器も入用であります。自分の圖案を描くか、又は私が既に述べた場處につけるのであります。道具の手入れ、研ぎ方は、非常に大切なことであります。これは皆、Jackson-Smith 氏の本にあります。又圖案の描き方もあります。

細工物。これは、方法は、彫刻よりもいくらか容易であります。實際専門のことは、さういり

ません。よく氣を付けると、自分で覺えることが出来るといふのであります。道具一揃を、Hobbies Ltd., 65, New Oxford Street, London, W. から買ふことが出来ます。一志から一磅位のものでせう。二志六片のA組は、幼年健兒に最も適當であります。使用に最も適當な木は、1 1/8吋、1 1/8吋と1 1/2吋の板であります。ホッピースから小さな本が求められます。それに方法と圖案のことを、よく書してあります。

大工に関する注意は、W. M. Oakwood, Is. 61 net (postage 3d.), O. Arthur Pearson, Ltd. の著した「Carpentry and Cabinet-Making」を讀みなす。

第八章

救 急

(第三部)

隊長への注意

救急法は、重要なしかも困難な問題であります——非常な注意と精密、正確と常識を要するほど困難であります。(普通の子供には、全く不自然な屬性です!)。救急章は、少年健兒の技能章中で、最も重要なものの一つであります。それが少年健兒に要することですから、幼年健兒にも、餘り困難ではありません。三角繃帯を適當にかけることは、(その色々の形式で)奇麗に、しつかりするのに、小さな子供にとっては、非常に困難であります。——即ち役に立つやうに、そして、幼年健兒が、これを習ふ目的は、他人に奉仕することが出来るためであります。毒藥や、解毒劑を覺えることは、非常に困難で、又壓迫點の位置、色々な方法で、出血を止めることを知るのは、困難であります。人工呼吸をすることも出来ません——(手は小さく、腕は短いので)背負ふのも悪いのであります。それ故に「救急」の名の下に、考査を配當してあります。是等は、幼年健兒に、極く小さい出来事の時に、簡單で實用的な援助を教へるのであります。かくの如くして、少年健兒の救急法の標準を低下させることなく、幼年健兒のすることが、實際よく出来るやうにさせることが出

來ませう。

その考査は、第一章に述べてあります。次の二三の注意は、幼年健兒に述べるものとして、救急章を了解する助けとなるものであります。此處まで、覺えると、少年健兒の救急章を得るのに熱心になりませう。そして、同じ基礎が、既に與へられてあるのですから、形式に變化があつても、繙帯など澤山に練習するやうにしたならば、その花が枯れることはないでせう。

救急法に關し、幼年健兒への注意

1、**手の傷**。誰か手を切つたら、これに救急法を施すのが健兒の任務であります。第一に出血の止め方を考へるのです。負傷者を坐らせて、手をすぐ上げろといふのであります。其間に、手元に得られるもので、一番よい繙帯掛けを用意するのであります。出血を止めるのと同様に、大切なことは、傷の附近に、どんな汚物も付かないやうにすることです。此處で、汚物といふのは、普通汚物——泥や塵——といふものではありません。微菌をもつてゐるものことでもあります。微菌は、肉眼では見えない、極小さな微生物であります。それが、傷に入ると、毒のために化膿して、實に危険なもので、遂には、指や手を失ふやうになります。微菌の最も悪いものは、土から

出るもの——庭の肥土、道路の泥のやうなものであります。それが、破傷風といふ怖ろしい病氣を起します。それですから、例へば、庭の仕事をして、深い傷でもしたならば、よく氣を付けなければなりません。併し、どんな塵、どんな廢物でも、何か微菌があるかも知れませんが、又確かにあるのであります。それですから、傷に繙帯しやうとするならば、傷にあてるのには、思ひ付いた一番清潔な物を見付けるのであります。清潔にして、たたんだハンケチの内部は、さうするのに、一番よいでせう。或は、それがなかつたら、手帳の内部の綺麗な紙、封筒の内部などがよいでせう。傷の上に清潔な物をあてた處で、何かたたんだ物をあてなければなりません。——ハンケチか、布をたたんだのでよいのです。それから、出血を止めるやうに、緊着物や、壓迫物で、しつかり繙帯するのであります。布の細長片や、ハンケチを大きくたたんだので出來ます。負傷者に手を上げさせて、スカーフがあつたら、襟巻で吊るのであります。自分の助けをするのは、只救急法ですから、負傷者を大人の處につれて行つて、もつとよく手當をするか、又は、治療するのに、醫者につれて行くのであります。

擦過傷。擦過傷といふのは、皮のとれた、悪い擦れ傷で、大抵は不潔物がついてゐます——道路の砂礫などの。一般には、多く出血しません。手當は、清潔な温湯であらふことであります——不潔物がとれるまで濡して、そして、毛織か木綿の小さな切れで拂ふのであります。不潔物がよくとれたら、清潔の中で擦過傷にあてるのです。しつかり繃帯をかけなさい。併し、無理でない位縮るのであります。

踝の挫傷。繃帯をしつかりかけなさい。患者を歩らせたり、足に力を入れたりしないやうになさい。患者を助けて内につれて行きなさい。足を上げて置いて、氣をつけて靴を脱ぐのです。痛みをゆるめ、眠れるのを止めるために、冷い壓抵布をあてなさい。これは、非常に涼い水に、切れや、タオルを厚くたたんで搾つて、踝を包むのです。これで、痛がとまらなかつたならば、熱いのを(同様な方法で)あてると、心よくなりませう。是等は、温湯治療と呼ばれてをります。それに就いて覚えて置くことが色々あります。先づ、たたんだ物に、熱湯を注ぎ、それを、厚いタオルか布に包み、搾り出すやうにするのであります。必ず出来るだけ水がなくなるやうに搾る

のです。さうでない、患者が湯傷しませう。濕布を振つて空氣が入るやうにし、それから、非常に熱い中に早くあてるのであります。何か防水布(ジャケットか油紙のやうな)で覆ふのです。綿ネル、本ネルで包んで、繃帯をかけるのです。痛みが治つたら、濕布をとりなさい。足はしつかり繃帯をかけて置き、患者を二三日休ませるのです。

繃帯がけ。三角巾をかけるのに、色々な方法があります。少年健兒になつたら、是等を習ひませう。今の處では、最も有用なもの三種を教へませう。そして、習ふのは、たつた三種ですから、それが、よくかけられようと思ふのであります。大きい吊帯は、前膊と頭部とを支へるに用ひるのであります。かういふ風に、かけるのであります。三角巾を開いて、尖頂が負傷した腕の肘の下に来るやうに、患者の胸の前を通します。さうすると、兩端の一方は、よい肩の上になるやうになります。他の一端をとつて、悪い方の肩の上を越しては、頸の周に持つて来て、木結に結びます。それから、尖頂をとつて、肘を越して、それをピンでよくとめます。

三角巾を、挫いた踝にあてるには、「疊み三角巾」といふのに折るのです。それは、尖頂を底の

處に持つて来て、それから、もう一度、それを折るのであります。

その中央を、患者の足の底にあて、両端を上を持つて来て、足の甲(足の上)に、三角巾を十文字にします。両端を、踝にしづかに巻いて、後方で十文字にし、更中らに巻いて、本結に結ぶのであります。それをかけた後でゆるまないやうに、益角しまるやうにするよい方法は、三角巾を濕すことです。さうすると、乾くに從つて、縮るのも、一樣に行き渡るやうになります。



頭部繙帯は、頭の頂上の傷を、繙帯して置くのに用ひられます。三角巾を開いて底を二吋以上まで折ります。その中央を、患者の前頭部、眉の丁度上にあて、尖頂は後頭部の頸にたれるやうにします。それから、両端をとつて、患者の頭蓋骨の底部に、しづかり、しばつて巻いて、前頭部に本結に結びます。尖頂を上に戻へして、頭の頂上にピンでとめます。頭の周囲の折り目を奇麗にすることと、両端を挟んで置くことに氣を付けなさい。これは、頭の頂上の傷をしづかり

繙帯することになり、一般に、病院で用ゐられます。

鼻の出血。これは、普通には、大した害もありませんし、危険なこともありません。併し、往々止めることを拒んだりすると、患者は、血を多量に失ふことになります。患者を地にねかして置く、舊式の方法と、獨り放つて置くのは、よくありません。血が下つて来て、喉につくばかりですから、それを止める方法は、かうであります。患者を椅子に坐らして、風通のよい處に置き、頭を充分後に傾むけて、全く口で呼吸するやうに告げるのであります。脊骨の上部(頸の後部)に冷い物をあてなさい。兩足を熱い湯に入れてもよければ、吸るために氷をやつてもよいのです。

火を消すこと。誰かの衣裳に火がついたならば、幼年健兒は、頭をしづかりしてゐて、爲すことがしづかり解り、手早くそれをする、非常な助けになります。火焰を消し止める一番よい方法は、大きい毛布、敷物、外套、又は何でも厚いものを求めて、その人を、——しづかり巻いて、包むことであります。さうすると、空氣が火に届くことを妨げ、直ぐ消えませう。勿論、水

は、之の次に一番よいものであります。若し、變性アルコールか、パラフィンに火がついたら、砂で消すのが、一番よいのです。

やけど。火傷か、湯傷を取扱ふのには、水をかけることを避けなさい。柔いリンネルを、オリフ油、カロン油、石灰水に浸したのが、一番よい物であります。そつと繻帯をかけなさい。やけどは、組織に大衝動を與へ、虚脱といふものを起すことさへあります。それですから、患者を坐らせるか、ねかして置くのであります。若し患者が非常に青くなつたり、その皮膚が、冷く、しつとり感するやうになつたり、氣力なく、立てないやうになつたら、温く包んでやつて、熱い飲物を與へ、(出来るなら)援助を待つのであります。(第十五食参照)。

火ぶくれ。火ぶくれすると、大抵水を持ちます。油をつけたり、水を出したりしてはいけません。そのまゝにして置いて、醫師の手當を待つのです。(第十五食参照)。

眼の異物。悪い眼をこすつてはいけません。上の眼瞼を上、ひつくり返へすと、十中の九は、異物がとれます。他の眼をこすると、涙が出て、物を洗ひ出すこともあります。マッチの棒か、鉛筆で、上の眼瞼を引つくり返へし、ハンケチの尖か、綺麗な筆の毛で、異物を取りなさい。非常に弱いものですから、眼球に傷を付けないやうに氣を付けなさい。

一番よい方法は、細い綺麗な筆を、ヒマシユに浸すことであります。油を餘計に拂つて、眼瞼の下におさへて置くのです。

機關師が一度、小さい油(ヲリーフ又はヒマシユ)一瓶を常に持つてゐて、眼に一滴入れると、異物をとるのに、一番よい方法だと、私にいつたことがあります。

喉つまり。誰か喉がつまつたら、カラーをゆるめて、指か、匙の柄で、喉をふさいだ物を、とり出してみるので。背を二三度、うんと打つても、物がとれることが、往々あります。魚の骨が喉にささつたら、軟いパンを食べなさい。誰か、ボタンのやうな、小さな物を呑んだら、ヒマシユ一服やるのです。併し、その物が、ピンか、針か、硝子のやうに、尖つた物であつたら、バ

ンを食べさせて、醫師を迎ひにやりなさい。何か氣管に、ひつかかつたら、直ぐ、醫師を迎ひにやるのです。

日射病。これは、あつい日が、人の頭か、頭の後を照すので起ります。その人は、初めに頭痛がし、それから氣力がなくなり、大抵病氣になります。全く人事不省になつて了ふこともあります。直ぐ、物の影につれて行つて、涼しい風にあて、人があたりに寄らないやうにしますので。頭や、胸から衣裳をぬいで、頭を上げなさい。氣が付くまで、頭、頸、胸に冷水をふりまきなさい。暗い處に置いて、よく世話をするので。再び氣が遠くなつたら、冷水をかけなさい。

練習とディスプレイ

幼年健兒に、救急法を練習させる、よい方法で、觀覽に興味をひくのは、簡單、容易なスケッチを書いて、救急法に仕組んで、これを練習させることとあります。

例へば、二人の粗暴な不良少年は（人込の處で）喧嘩をしてゐます。一人は、他の者を突き倒

したので、手は石で切り、向脛は、ひどく蹴られたので、大變な擦過傷を受けました。前者も、これで體の平均を失つて、自分の踝を挫きました。一組の幼年健兒がやつて来て、喧嘩してゐる者を分け、そして、救急法を施すのです。

或は、トミーとベミーとが、叔母に動物園につれて行かれます（非常に人込のする處で、適當に化粧させるのは借りてもよい）。彼等は、檻の柵から、熊にからかひます。（毛皮の敷物と、熊の頭に——三志位で、ガメーチ店で得られます——小さな子供が中に入ると、立派な熊になります）。二人の幼年健兒が通りかかつて、動物に、こんな虐いことをするのを止めさせようと思ひますけれども、無駄です。二人が通り過ぎると、怒つた熊が、遂に檻を破つて、トミー、ベミー兩人を傷け、叔母にも怪我をさせます。一組の幼年健兒が駈けて来て、熊に投係蹄をかけ、パンをやつたり、親切な言葉をかけて、温順にします。そして二人の怪我をして、後悔してゐる子供等の手當をしたり、氣絶してゐる叔母を蘇生させます。

もう一つ、集會に適するディスプレイがあります。一組（又はそれ以上）觀衆に向つて立ち、三角巾を、各の健兒の足もとに置きます。組長は、右側に立つて、呼子を手に持ち、次の號令を與

へます。「氣を付け！吊帶。用意！」各健兒は、屈んで、綱帶をとり、早く立ちます。指導者は呼子を吹くと、各健兒は、三角巾をとつて、右に向き、隣の健兒に綱帶をかけます。そして、兩人は前に迅速に向いて、早く立ちます。皆が用意が出来ると吊帶が完全に觀衆に見えるやうに、静止します。そこで、指導者は、「元の通り」といふ號令を與へます。すると、健兒は、吊帶を解いて、足もとに置きます。これを、頭の綱帶がけにも、同様にします。挫傷踝の綱帶にも、「用意」といふ號令で、健兒は代り番に、患者となつて、坐ります。

第九章

家事

(第三部)

幼年健兒への注意

母に手傳をすること。幼年健兒は、どうして「母に手傳をする」か、誰もいふことは出来ません。只孝心が教へる課業であります。その上、母によつて、手傳つて貰ひたい事も遠ひます。母は誰でも、子供が、家事に就いて、全力を盡さうと思つてゐることが解ると、子供に仕事をいひ付けらるるものであります。眞の希望を抱くことを學びなさい。さうすると、これが母に解ります。その他のことは、母がしませう。

火の焚きかた。(第十三食参照) 燃え殻や、灰を、よく掻き出します。よい堅い燃え殻や、半燃えの石炭を拾つて、後で使ふために、側にとつて置きます。火を焚く處を、奇麗に掃除します。それから、黒鉛をつけて、よく磨きます。火を焚くには、新聞紙をさいて、ゆるい球にまるめ、長くひねつて、火床の底に置きます。併し、紙を澤山使つてはなりません。乾いた棒をもつて来て——ホワイト・ウッドが一番よいのです——紙の上に、そつと置くのです。それをしつかり建て、(煉瓦を積むやうに) 石炭をのせても、落ちて倒れないやうにします。併し、空氣が澤山入るやうにするのです。それから、指で氣を付けて、石炭の小さいのを積みまます。シャベルで石炭をくべたり、初めから、燃え殻や塵を入れてはなりません。用意がすつかり出来たら、火床の底の紙のぐるりに火をつけなさい——マッチ一本使つて。火がよく燃え上つて、木に火がつくまで見てをりなさい——立ち去つて、最善を望んではなりません！一度木や石炭に、よく火が付いたら、シャベルで石炭をくべたり、灰から拾つた燃え殻をくべるのであります。併し、火を焚く處を悪くして置いて、濕つた木や、古い堅い豆の木や、悪い石炭、コークス、燃え殻で、火を焚かうとする事は、時々ありがちのことであります。これは困難であります。併し、幼年健兒は、へこた

れてはなりません。ここに、健兒の二三の注意があります。乾いた木の一片を求めなさい。これをして、健兒が野外で、火を焚く時にするやうに、削つて削屑にするのであります。紙と削屑と、二三本の棒で、ほんの小さい火を焚き付けなさい。これなら確つと火が付きます。それから、段々木や石炭をくべるのであります。蠟燭の端は、勿論助けになります。——併し、幼年健兒は、それを利用しようとは、誰も思ひません。——一つには無駄であり、一つには獣の嗅がします！バターや人工乳酪を包んだ油止の紙を用ゐるのは、一番よいのです——それは、よい火焰が立ちます。それにとつて置くと、ほんとうにたけになります！又、パラフィンの罐を置いた、古い紙は、大變よいのです——併し、直ぐ燃え上りますから氣を付けなさい。そして、決してパラフィンを火にかけてはなりません。

靴の磨き方。幼年健兒は、大概皆靴を磨くの、に、どうするか知つてゐます。併し、何時でも、よくやるといふものではありません！第一の事は、一度靴墨をつけたら、艶を出すのに、力一杯やることあります。

茶の入れ方。誰でも、普通のやり方で、茶を入れることは出来ます。併し、ほんとうに茶を入れることの出来る人は、大層少いやうです。なすべき事は、薬罐から、もとの湯をあけて、呑口から、又新しい水を注ぐのであります。これを沸立てます。急須を綺麗に乾かして、薬罐が沸立つ前に、熱湯を少し入れて、あつためるのであります。人数が少かつたら、一人に付いて、茶匙で一つあてに、茶を入れます。人数が多かつたら、各匙を少し不足にするのであります。薬罐を氣を付けて見てゐて、沸立つた時は——よく沸ると、がら／＼煮へ返つて、口から蒸氣を噴き出します。——早く急須に湯を注ぐのであります。

卵のフライ。氣を付けて、卵を湯呑にかいて入れます。鍋の油が、よく煮へたら、破れないやうに、そつと卵を入れるのであります。その周りに、ナイフで油を沸へるやうにして置くのであります。それが固つたら、ナイフで起して、油が下に廻るやうにします。

卵をポーチするには、それを湯呑にわつて、氣を付けて、熱湯に入れ、それを出して、水をき

り、そして、焼きパンの上にのせます。

馬鈴薯の皮剥き。馬鈴薯の正しい皮の剥き方は、次のやうです。馬鈴薯を綺麗に洗ひます。それから、新しい馬鈴薯は、擦り洗をし、古い馬鈴薯は、綺麗に皮を剥いて、ナイフの尖で、目をとるのであります。馬鈴薯を剥いたら、清潔な水を入れた鉢に入れて置いて、入用な時に出すのであります。馬鈴薯を煮るには、冷い水に、新しい馬鈴薯を入れて、鹽を少し入れます。古い馬鈴薯は、沸騰した湯に入れて、鹽を入れ、フォークにさゝるまで、柔に煮るのであります。水をきつて、ソースパンに入れ、蓋を半分開けて、二三分間、ストーブの側に置くのであります。さうすると、馬鈴薯は乾いて、白くなります。

野菜の煮方。野菜の正しい煮方は、次の通りです。野菜を、冷水を入れた鉢に入れ、鹽を一握入れます。さうすると、葉の間にあるナメクジのやうな、小さな虫が出るやうにします。汚い水を捨て、そして、綺麗な冷水を加へます。野菜をとり出して、熱湯に入れ、鹽を加へます。色を

矢はないやうに、蓋をとつて煮ます。野菜は、フォークに柔くあたるまで、よく煮るのであります。パンの皮を少しソースパンに入れると、煮えてゐる中に、野菜の青臭い臭がとれます。野菜が柔くなつたら、よく搾つて、水をきるのであります。

窓の磨き方。窓が大層汚いならば、磨き粉を求めて、濡れた布で、一面によく塗ります。これが乾いたら、乾いた布で拭いて、革で磨きます、他の方法は、濕つた革で窓を拭いて、乾いた革で磨くのであります。太陽が照してゐる中は、窓を拭いてはいけません。汚れがとれたかどうか解りませんから。

床の作り方。床をどう敷いてあるかを注意して見るか、又は母さんに教へて貰ふのです。注意すべき主なる要點は、何時でも床をよく開けて、空気にあてること、床を返へしたことを吟味すること、シートをきちんと敷いて、皺や襞を伸ばすこと、被服を四方に、よく挟むことであります。(第五食参照)

食器洗ひ。食器を洗ふことは、簡單で面白く聞えませんが、併し、面白くないことをするのでさへ、正しい方法があります。清潔な鹽か、水漕に、大層熱い湯を一杯入れます。石鹼粉や、ソーダを少し入れ、綺麗な布巾を入れます。何時でも、一番綺麗な物、匙、フォーク、小皿、茶碗などから、洗ひ始めて、それから、皿、ナイフ、最後に脂のついた皿を洗ふのであります。硝子器は、冷水で洗ひ、乾いた布で磨くのであります。

「子守」小さな弟や妹の面倒を見るやうに、いひ付けられると思ひます。それには、自分や自分の楽しみを思ふよりも、小さい子供を、もつと思ふことを要するのであります。それですから、全力を盡して、子供を樂に、よくしてやるやうになさい。古い狼が、若い狼に、大事な狼の赤ん坊を托してゐるといふ、大丈夫な氣をさせるものです——それですから、これを守りなさい。

考 査

幼年健児が、家事をよくしてゐるか、どうかといふ考查と證明とは、隊本部に於ける倶楽部の室の状況で判ります。それが清潔で、奇麗であつたら驚くべきことです。こんなことをすつかり教へ、整頓をほんとうに熱心にさせて、家事章を持たせようとする隊長には、羨ましいことであつたり、失望することにもなりません。

もう一つの考查は、幼年健児の靴の、毎日の外觀であります。——特別教練にのみ立派に見えるだけのことはないのです！

又、往來で遇つた時に、その子守をしてゐる赤ン坊が、にこ／＼したり、高笑をしたり、奇麗な顔をしてゐることです！

そして、何よりも「母」が隊長に案内されて、訪問に來た時に、子供が手傳をしてくれたり、役に立つたり、行儀をよくするのに、幼年健児運動に優るものはありません。

是等の考查は、悉く、試験がなくても、始終行はれてゐるものであります。併し、勿論、試験もしなければならぬのです。それですから、幼年健児は、試験する人が、自分の入れたお茶を、ほんとうに喜んで呑むかどうかをこらんなさい。よければ、よい気分になつて、靴磨きも、

窓拭きも、野菜を煮るのも、難なく通過しませう！

幼年健児が、これを、すつかり練習する遊技を注意する要がありません。「内で遊ぼう」と子供等がいふのを聞くことがあります。併し、幼年健児は、それをして遊ぶ用がないのです——實際してゐるのですから。そして、どの遊技よりも、もつと人を引き付けるものであります。

第十章

案内

(第三部)

幼年健児への注意

旅人を助けよ。若し、旅人が案内を要するならば、きつとスカウトを捜しませう。スカウトなら、きつと道を知つてゐると思ふからです。そして、スカウトは、活潑丁寧に答をし、明瞭に案内をし、笑つて、報酬を得る考もなく、喜んで案内をしてくれることを知つてをります。旅人は、まだ、道をきくために、幼年健児を捜すことを知つてをりません——それですから、機会があつたら、同様に気がきいてゐることを見せてやりなさい。

旅人が話をしかけたら、應じたり、びつくりしたり、こまつた風をしてはなりません。寧ろ、

喜んで、気がきいてゐるやうにして、そのいふことを、氣を付けて聞き、いひ終つたら、小さな馬鹿者のやうに「なんかい」といはないやうにします。場所や時間をきいたら、注意して考へたり、何處に自分がゐるかを注意したりして、旅人が何處に行きたいのか心にとめて、やつて見るのです。それから、途中で通る特別の目標を考へて見るのです——教會、旅館、停車場、池でも、門でも、木でも。どうして、その場所に行くか、正確にいつてゐる間は、気がきいてゐるやうにし、明瞭に、靜かに話をするのです。そこに行くには、何時間かゝるか、其他道しるべとなるものをいふのです。「あなた」といふのです（婦人であつたら「奥さん」とか「お嬢さん」といふのです）。お金を出したら、愉快に笑つて、謝意を表し、幼年健児ですから、喜んで御案内するだけで、決して禮を戴きませんといふのです。そこを去る時は、快活に敬禮するのであります。言葉の傳令に就ては、第一部第十三食をごらんください。

遊技と練習

幼年健児に、旅人を案内する方法の練習になり、同時にほんとうの遊技になつて、競争の要素

を含み、採點の方法を用ゐるものは、次のやうな遊技であります。

『旅人を助けること』

全隊は、圓をなして、圓く屈みます。隊長は中央に立ちます。「私は、可哀さうな老人であります。ロンドンから参りましたが、この邊の村のことは解りませんし、私の行く處に、どうして行くかも知りません。どなたか私に知らせて下さいませうか」と申します。幼年健兒が、一人前に進み出て、敬禮をして「よろしうございます。あなた！」といふのです。

隊長がいふのに「どうもありがたうございます。私は今………にをります。私は………に行きたいと思ひます」その假定してゐる所在地や、行かうと思ふ場所を、その健兒の耳に小聲でいふか、他の者に聞えない處に置いていふのです。健兒は、それから、旅人に、明瞭に方向をいひ出します。全隊は注意して聞いてゐて、その方向から、次の方向を發見しやうとします。(1)その立つてゐると假定してゐる地點、(2)旅人の到着點。その健兒がいひ終ると直ぐ、各健兒のこの二點を知つた者が、立ち上ります。案内する健兒は、その解つた健兒に一點を付けます(その方

向が明瞭であつたことを示して)。同時に、隊長は、その健兒の明瞭な言語に對して二點、叮嚀に對して二點、その健兒の示すことの出來た役に立つ獨創に對して特別の一點を與へるのであります。二問の正しい答を知つてゐる各健兒に、二點を與へるのであります。(採點するのに、隊長が、球か豆を入れた袋を持つてゐて、一點を得る毎に、一つ與へると、非常に簡單になります。立つた健兒は、正しく判斷したか、どうかを確かめることは、困難に聞えます。それには、一緒に考へさせるのがよいのです(互に人のまねをしないやうに)そして各健兒の公明正大の遊技を信用して、間違つたら、再び坐らせるのです。又、立派に判定することを希望するならば、隊長は室の隈に退いて、健兒を別々に呼んで、答を小聲でいはせるのです。併し、これは時間がかかります。その會話は、次のやうにいふのであります。

隊長。「私は………にをります。そして、………に行きたいのであります。」

健兒。「あなた。この道をついていらつしやいませ。百碼位であります。女學校の處を、左に

曲つて、その往來を行くと、池と交番の處を通ります。さうすると、水面標の處に出ます。門はしまつてゐますが、小さい門は通れます。それから、前に教會が見えます。そこに行くと、教會の門の反對に、階段が見えます。そこを越えて、一哩の四分の一ばかり、小徑について、原を通つて行くと、おつしやる處に参ります。あの、あなた。序ですが、(その健兒が、別の事を、付け加へます)。その隣の原に牡牛がをりますから、氣を付けて、その道をついてゐらつしやいまし。」(八人の健兒は、立ち上りました。そして、自分の氣がきくのと、注意深いのを、一生懸命になつて、見せようとしています。)

「君、どうもありがとうございました。お世話さまでした。よく解りました。左様なら」とロンドンから來た老人は申します。

「左様なら、あなた！」と、健兒は敬禮して答へます。

「處で皆さん。私は何處から來たのですか。一緒に。」と隊長はいひます。

「停車場です、あなた！」と、八人の健兒は、一口に叫びます。

「よろしい。そして、私は何處に行くのですか」

「ワイロー・ファームです、あなた！」

案内する健兒は、十三點を得ました。會話の中に「あなた」といふことを忘れると、作法の點を、一點失つたのでせう。不明瞭にもぐ／＼いつたり、くす／＼笑つたり、敬禮を忘れたりすると、一點を失ひませう。隊長は又その場で「君、どうもありがとうございました。六片ですが君に」といつて話を終ります——健兒理想の記憶を、その健兒に試して見るのです。又は「君、君はボーイ・スカウトでしたつけね？」と、かゝる發問をして、健兒の答へる能力を試して見る。又は、隊長の富んだ想像力に浮ぶ發問をします。

「郵便遊技。」近接町村、場所の名稱を用ゐると、面白い遊技であります。そして、幼年健兒の心に、地方名の印象を與へるのに、役に立ちます。次のやうな、運送の色々な形式を用ゐると、遊技に興味を添へます、

手紙——歩く。

電報——駈ける。

小包——這ふ。
端書——跳ぶ。

發問。 地方名、方向、交番の所在、舊蹟の問題等に関して、「言語試験」の練習をやらうとすれば——健兒は、テーブルの圍に腰をかけたたり、又は、地面に圓形をなして坐るのです——正しい答に對して、採點をしたりすると、興味も加はり、注意も活氣付いて続きます。採點をすると、試験が、競争になります。

木柱遊び。 幼年健兒に所在地をあてたり、各所在地の相互の關係の知識を考査(及増進する)する、一番よい方法は、木柱一揃(子供の積み木のやうな)を得て、各に次のやうな頭字を付けることとあります。警察署 (Police-station) には、P.S. 自動車庫 (Motor Garage) には、M.G. 病院 (Hospital) には、H. などを書くのであります。それから隊長は、場所を定めます——テーブルか地面に區劃を定めます。大きい木柱を置いて、中央の「地標」——教會又は、隊本部——

とし、そして、その健兒(又は二人共同して)に、相互及「地標」への正しい關係に、木柱を置かせるのです。

(注意。隊が又、ボール紙で模型造の作業をしてゐるならば、健兒は、各種の家や店の模型を作つて、積木の代りにするのであります。さうすると、繪のやうになつて遊技は一層面白くなります。)この遊技は、面倒を見ずに、地圖の基礎の考を與へます。

前に述べた遊技は、屋内教授に適當であります。この技能章の大抵の教授は、勿論、屋外でするのであります。各所在地には、變化がありますので、それから傳令遊技などによつて、健兒に親しませるのであります。

地方史蹟の知識。この考査に關しては、此處で多く述べるのを要しません——隊の所在地に従つて、非常な變化があるべきであります。併し、我等は、非常に興味ある種類に對して、隊長に考へる餘地あるものを指摘することが出来ませう。教區の歴史(特に小村の)は、興味が少いの

でありますから、近所の史蹟に富んだ建築物や場所を求める方がよいのであります。——ゴチック式の教會、ローマ式の墳墓、中世の城廓、又は城趾、又は戰場——これに、過去のローマンスを織り込んで見るのであります。それは、幼年健兒を面白がらせて、新しい考を興へます。それは、大なる未知の世界——過去の光輝——に對して、眼界（偏狹になりがちな）を廣くするやうになります。ゴチック式の教會は、隊長に、教會建築法及其の變遷及形態に關して、簡単な教訓を興す機會を興へます（私は、この事に關して、少年健兒が非常な興味を有してゐるのを知つてゐます）。他の教訓は、教會史に觸れ、第三には、その特別の教會に關連した傳説を取扱ひ、又は、これに關係した、逸話、又は興味ある事實を取扱ふのであります。城廓、城趾に關しても、同様であります——ここに、正しい英國史が現はれてまゐります、居室に關しては、この城廓が重要であつた時代の生活が描かれます。小さな地方の都市でも、地方史を考證して見る面倒をすれば、ローマンスや逸話が多く、獨特の習慣や、特別の興味があるのであります。

小劇（又はベーチェントでも）が、地方史か傳説から作られます。之れは、この劇をする幼年健兒には、非常に教訓になります。そして、デスプレー、ベザー又は、冬期の歌待などに、通俗

的な問題になります。劇は幼年健兒を喜ばせ、ローマンスは多く、大人に仕組まれる便利を得たり、各種の面白い衣裳でも得られると、眞の模倣になります！ 併し、幼年健兒に、ほんとうの愉快を興へる外に、下稽古や公演は、健兒に自信を興へ、明析な話し方を教へ、記憶力を練り、忍耐、自制、及眞の努力を學ぶやうになります。

第十一章

水 泳

(第四部)

隊長への注意

幼年健児は、誰でも、この技能章を得ることは、決して豫期するものではありません。少年健児でも、これを及第してゐる割合が少いのであります。少年健児の水泳考査は、困難なものであります。これに及第するには、決心と勇氣を要し、又自然の能力もあり、又教授には、機会と、特殊の利便とを要するのであります。それ故に、幼年健児の考査は、比較的困難であります。併し、水泳を子供に教へた経験のある人には、この考査は、今決定的に困難過ぎると考へると思ひません——即ち、全力を盡してやつて見ようとする幼年健児には、困難過ぎるものではありません！

各種の考査項目を選択する理由を説明する二三の注意は、役に立つこととありませう。

泳ぐこと。距離は二十五碼が適當であります。子供が二三日の練習で、十碼ほんとうに泳げるなら、二十

五碼又は、それ以上泳げるからであります。水中で十碼通るのに、もがいてゐるやうでは、泳ぐことは出来ないのです！

浮び方。大層易しくて、大層役に立ち、水中で平均を保つのに非常に大切であります。この考査の練習は、實際の水泳考査に、幼年健児には、非常に助けになります。併し、浮ぶことは、餘り面白くないものですから、子供等は、往々怠りがちで、水中で平均を保つことを習はない中に、泳ぎをしてもがいてゐます。

半ズボンの脱ぎ方。これは、そんなに困難ではありませんし、その子供が、水には平氣だといふことが解り、確信を興へるものであります。その上、少年健児の水泳考査に、重要な項目に向つての一步であります。

ダブクス、ダイヴキング。これは、水浴場から跳び込むのと同じやうに、餘り困難ではありません。幼年健児が、跳び込むことを覚えると、水の『恐怖』と、何年間も、多くの子供等が、水の下になるのを、馬鹿に恐れてゐたのに、すつかり打ち勝つやうになります。

ハネーポット。これは、何の技巧も要しません——只一寸した『勇氣』で、多くの幼年健児（及少年健児）が水に入ると、缺けるものであります。幼年健児が、『ハネーポット』をするだけの勇氣がないと、水泳章を得る資格はありません！

是等の考査に、一大道徳律があります。怖がつてゐる小さな幼年健児が、『ハネーポット』をやつたり、潜

ることを覚えるやうになると、長足の進歩をしたもので、大部克己の賞を表はしたことになります。

水泳法に就いて幼年健兒への注意

これを學ぶのに、第一の事は、確信を有することでありませう——水を恐れないこと。下に沈んだら、溺れるのだと思つてはなりません——誰でも溺れるのには、大分かゝります！跳び込むことを習ふ時に、沈んで、潜つてゐることは、困難なことだと思ひませう——それは、ゴム球のやうに、何時でも、跳び上ることです。少し位水を呑んでも、氣にかけてはなりません——毒にはなりません。泳ぐことを教へてゐる人に、溺れかゝつてゐる小さな鼠のやうに、とりすがつてはなりません。魚だと思ひなさい。一度、水に「なれる」やうになると、半分はしめたものです。

浮び方。次に學ぶことは、水中で平均をとることです。——水上にゐること。それです。初めには、浮び方を習ふことです。これをするには、一寸水に樂にねることです——床にね

るやうに——耳が水の下になるまで、頭を後に下げて。爪先は、一寸水から出るやうになりませう。小さな棒のやうに、硬くなつてはなりません。樂に平均をとつて、頭を下げてゐるのです。耳を出してゐると、浮ぶことは、非常に困難になります。試験には、一分間、全く浮んでゐることがありますから、浮び方の練習をなさい。

泳ぎ方。浮び方が出来るまでは、泳ぎ方をやつて見てはなりません。一度、浮び方と、平均がとれるやうになつたら、私が、次に述べる二三の注意を、ほんとうに覚えやうとすれば、泳ぐことは、困難だと思はないでせう。

1、もがいて、むちやにやつては、いけません。競争して、勝利を得やうとするやうに、大股で泳ぎなさい。そうでないと、浮んでゐません。長く、靜かに、柔かに水をかいて、両手を平に、前に突き出し、それから、平手で水を押しつけるやうにして、外側にもつて行くのです。この運動は、兩肘を體の兩側にもつてきます。それから、再、兩腕を前方に出して、繰り返へして行くのです。子供によつては、初めに、犬のやうに泳ぐのが、容易だと思つてゐます。私は、その方

法で習ひました。オーストラリアの子供等の間では、大抵やつてゐます。

2、舊式に、足で蹴つてはなりません。蛙が泳ぐのを見た通りにやることを記憶して、丁度その足のやうにします。

3、息をためて置いて、何時か吐き出すやうに、見えることをしてはなりません。それでは、誰も泳げません。又、年とつた馬が、息をきらしてゐるやうに、ハー／＼やつてもいけません。只、静かに、平に呼吸し、常に肺を一杯にして置きなさい。さうすると、風船玉のやうに、浮性を與へるのであります。水泳の上手な者は、泳いでゐる間に、話をしたり、唄つたり、口笛を吹いたりすることが出来ます。

4、泳袋を用ゐてはなりません。それは、自分の努力で、浮び方を覚えるのを止め、誤つた平均のとり方をさせます。急に傾いたり、轉つたりすることが、一層多く、それがなくて習つたよ

りも、不意に沈んでしまひます。

5、初めは、長く浮んでゐるやうとしてはなりません。手で二回泳いだら、爪先で底に立ち、そして、またこれをやると、十回急いでやるよりも有功で、もがいて泳いでゐると、大抵は、潜つて、唾を飛ばすに終る位のことです！一方の爪先を底につけて置いて、浮いても大丈夫だと確信を抱くまで、手を平に、静かに動かす練習をして、二、三度、浮いて見るのであります。是等の規則に、よく従つて、最初は、誰かに手傳つて貰ひ、浮んでゐて、確信を得たならば、間もなく泳げるやうにならませう。併し、忍耐と、全力を盡すことを要することを忘れてはなりません。

半ズボンの脱ぎ方。一度、浮んだり、泳いだりすることが出来ると、半ズボンを脱ぐのが、困難ではありません。(スカウトは、泳ぎ方の考査に及第するためには、シャツ、半ズボン、靴下を脱がなければなりません)。それをしようと思へば、どんな形になつてもよいのです。お望なら、兩

手を胸の上に措いて、十碼を泳いで、試験に及第することも出来ます。これは、只、少し骨折つて、足で泳ぎ、頭をよく出してゐることを習ふだけのことです。

ダックス・ダイヴァング。これは、困難なやうに聞えますが、實は容易なのであります。スカウトがするやうに、臺から跳び込むやうに、困難ではありません。家鴨が潜るのと、丁度同じ様にしなければならぬのですから、「ダックス・ダイヴァング」といふのであります。それですから、家鴨を見る機会があつたら、どうするか解りませう。近所で、家鴨から習ふ機会がなかつたら、次に二三の注意があります。

1、第一に、怖がつてはいけません。水の中は、非常に奇麗なのです。特に、眼を開いてゐると、何でも、奇麗に青白く、何千といふ氣泡が一杯見えます。それが好きだと決心して、家鴨や魚のやうだと思つて見るのです。

2、腋窩の處まで、水の中で立ちなさい。大きく息を吸つて、頭を傾け、顎をしめて、頭を水に突き込み、同時に、兩足で上を蹴るのです（實際は入つた後で、足は水から出ます）。兩手で、底に着かうと努力するのです。出来るならつけなさい。それから、兩手で上を指して、兩足で一蹴すると、再び浮び上ります。きつと、頭が上に出て、足は、再び、しつかり底につくにきまつてゐます。それですから、怖いことはありません。必ず、眼を開いてゐなさい。開くと開かないとで、大變な違ひがあります。

「ハネー・ポット」跳び込むことが、出来ないと思つたら、——私のいつた通りにして、全力を盡したら、そんなことはあるまいが——試験する者が、「ハネー・ポット」の考査に及第して見ては、どうかといふでせう。これは、わざの問題でなく、只勇氣の問題ですから、誰でも出来ます。——どんな健兒でも、自分が勇氣がありませんと、白状する者がありません！膝を屈めて、その周を兩手で抱き、側から、大きく跳び込むだけのことです。どれだけ出来るか、どんな大きい飛沫を立てるかやつてこらんなさい！跳板はいたについて（又は側からでも）遠く駈けて行くと、遠くまで行

かれませう。併し、勿論、只、水泳場の側か、又は舟から「ハネー・ボット」をしても、考査に及第が出来ませう。この考査に及第した健兒は、恐怖をもたないといふ證明になり、スポーツマンで、水泳章を得る資格があるのであります。

水泳に就いて、一言忠告すべきことがあります。

何時、何處で水浴するかといふことに關しては、隊長のいふ通りに従ふことを忘れてはなりません。

隊長又は、水泳の上手に出来るスカウトと一緒になければ、海では、自分の丈の深さ以外に、泳いではなりません。

痙直を起しますから、寒く、青くなつて、震へるまで水の中にゐてはなりません。

少くとも、食後、一時間半か、二時間経たないと、泳いではなりません。さうでないと、腹部か、脚部に、痙直を起すことがありますから。さうすると、屈んで、泳ぐことが出来ないからです。この忠告に従はないので、年々、多くの子供等が溺死するのです。

他の健兒が、泳ぎ方や、浮び方を習つてゐる時に、これを突き込んだり、沈めたりしてはなりません。水中の確信を害ふやうになりますから。人が自分に、そんなことをしたら、どんなに憎らしいことせう！

水泳を習ふために、水に入つてゐることを考へて、水泳章を得ようとも思はない小さき健兒と、始終遊び廻ることをしてはなりません。

隊長への注意。

自分又は、子供の保護のために、水泳をやつてゐる間は、水泳の達者な救命哨を二人當番にして置かなければなりません——脱衣をして、外套をかぶり、舟が岸にゐて、誰か危険に陥つたら、救助に行かれるやうにするのです。

その場處が、完全に安全であることを知つてゐるでなければ、決して、水泳を許してはなりません。少年團では、かゝる注意が、規則になつてゐるので、命を助かつた者が、多いのであります。

第十二章

對抗競技と運動

(第四部)

隊長への注意

幼年健児に、對抗競技章を與へる資格を決定するには、我々は、競技中に於ける、各個人の態度に、重きを置きます。

子供等(年長の青年でも)に關係したことの多い者は、競技をしてゐる間に、何か論争をしたり、咎め立てをしたりする、怖ろしい習慣を、多く見たに相違ありません。それは、競技の精神を破壊したり、『喧嘩』に終るに過ぎないのであります。この傾向を、隊長は、嚴重に取締らなければなりません。そして又、この傾向では、何時でも、競技は、公明正大に行くものではなく、敗けて悪い氣を起させるものであります。實際論争を起すものは、この最後の二缺點であります。二三決定的の警戒を與へると、幼年健児は、『秩序を立てる』やうになります。さうすると、直ぐ競技の正しい精神を覺えるやうになります。それを缺いてゐるので、田舎の俱樂部の競技と、大學豫備校の競技との間に、相違があるのであります。論争激怒等に就いての嚴正は、紀律、従順、自制を涵養するものであります。

もう一つ、隊長の注意を要することは、子供等の競技に於いて、負傷した時に、その多くは、自制と勇氣とを缺くこととあります。隊長は、スバルタ精神を現はすことを豫期し、獎勵すべきであります。禁欲主義は、幼年健児には、全く新しい思想であります。——併し、大切なものであります。競技場で『苦悶』したり泣いて去るが如きは、許すべきことではありません。それは又、田舎の競技と、大學豫備校の競技との相違であります。——併し、スカウトの間に於いては、默許すべきことではありません。幼年健児に可能なる如く、早くから少年に、スバルタ精神を涵養することを始めると、その結果は、非常な相違を來すものであります。

戦闘任務を、兵に訓練する時に、兵や馬が、急に倒れても、これに氣をとられることを、私は決して許しませんでした。

靜かに列を離れて、その世話をするのは、その伍長の任務でありました。又は、兵を集めて、それが見えないやうにしました。

死んだら助けようもないし、生きてゐると結構なことです。

倒れた兵にも、この方法は、効果がありました。兵も倒れたのを大きくいつても、ためにもならず、日常あることであることが解り、直ぐ、こんな考で、事を見るやうになりました。

幼年健児を取り扱ふのにも、これと同主義が、よく採用されませう。子供が卒倒したり、病氣に罹つても、(集合などの時には、時々あることですから)騒ぐものでなく、平常通りにやつて、その子供の世話は、出来るだけ、隊長にまかせて置くものだといふことが解りませう。

向徑に負傷したり、遊技にはありがちな怪我をした位のことと、子供が怖ろしい痛みでもするやうに、嚴

いだら、必要によつては、からかつてやつて、抑へるやうにすべきであります。
注意。運動に關する特別の章は、説明を要するよりも、實行上の問題でありますから、この本には載せて
ありません。又拳闘や、相撲に關するやうな問題は、説明の限りではありません。個人の態度、勇氣に關し
て與へた注意は、勿論、等しく運動の訓練にも、適用します。

幼年健兒への注意

個人衛生

フットボール、ホッケー、その他如何なる種類の競技でも、その選手にならうとする者は、毎
日よく、自分の體の注意をし、それは、運動場で競技をしてゐる時ばかりのことではありませ
ん。肺をよくすることに注意しないと「敵」が、ボールを持つて、ゴールに突進するのに、自分
は、年とつた馬車馬のやうに、ハア／＼息を切るやうになります。自分を強健にするやうに、
全力を盡さないと、脚部が痛んだり、疲れたりして、又實際、心を用ひて、自分の注意をする子
供に、較べると、少しも役に立たないことが解りませう。

そして、之れが、息切がして、小さくて、弱くて、疲れ易くなるなどの原因であります。
ここに、最も普通の原因があります。よくない食物を食べて、急いで、これを丸呑にするこ
と。規則正しい運動をしないこと。歩行、坐作にだらしない風をすること。「煙草の吸殻」を吸
つたり、青い林檎を食べるやうな馬鹿な事をする事。遅く就寝すること。窓を締めてねること
であります。

一度、自分が、對抗遊技に下手だといふことが解つたら、これを治すことは、そんなに困難で
ありません。どうして、自分で、強壯、健全に、大きくなるかといふことは、第十食に、詳しく
述べてあります。その教訓を守りなさい。そこには——毎朝運動をすること。よい食物を食べ
て、よく咀嚼すること。牛や「スペイン牛」の眼つきをして、サイダーを飲んで、小さな豚のやう
になるのではなく、早くねて、早く起きて、窓を開いて眠ることです。かういふことに、
全力を注ぐならば、競技をして十倍も上手になります。

對抗 競 技

フットボール、ホッケー、ランニングは、幼年健児が對抗競技章を得るにやる方法の、主なる競技であります。

そこで、フットボールについて、二三の注意、それから、幼年健児のやる、主なる部門の「ソッカー」について述べます。

第一に、正しく蹴ることを學ぶことであります。上手な選手は、ブレース・キックをやるでなければ、決して爪先で蹴ることがなく、常に甲で蹴ります！自然右足で蹴るならば、又左足で蹴ることを學びなさい。ボールが左足に來たら、何時でも、さうして見ると、何でもないことあります。

次には、シュットを學ぶことであります。ブレース・キックからでも、爪先で決してシュット（即ち、ゴールを狙つて）をしてはなりません！自分の組のために、フリー・キックをするでなければ、自分の好きな處にボールを置いて、駆けてショットをする機会がありません！

それですから、シュッティングインの時に、それをする機会を逸してはなりません。何時でも、駆けてゐる間に、シュッティングの練習をして、常にボールが動いてゐるやうに、するのであります。

シュットをする時は、耳に「低く」といふ語が響いてゐるやうに思ふことは、よいことではありません。といふのは、アップライトの間に、ボールを送るよりも、クロススパーの下に、ボールを置くことは、多くの子供等に、困難であるからであります。

ドリッピング。どんな位置で競技をしても、ドリッブルの仕方を學ぶべき筈であります。フォワードであつたら、よくドリッブルすることを學ばなければなりません。敵の處を通るボールを蹴つて、駆けてはなりません！それでは、「キック・エンド・ラッシュ」競技であります。そして、早いスプリンターでも、その外に何も出來ないと、止めるのが容易であります。駆けてゐる間は、出来るだけ自分の爪先に近く、ボールを置かうとするのは、大規定であります。若し、敵が來て、それを妨げるならば、その時は、片側にボールを、少し觸つて、駆け続けるのは、容易であります。

位置の選定。チームに加はつてゐて、自分の位置を選択する機会を得たならば、次の注意は、

最もよい選擇をする助けになりませう。併し、何時でも、全く違つた位置にゐて、時々競技をすることは、よいオールラウンドの選手になれることを忘れてはなりません。そして、新しい位置の方が、實際よいといふことを、發見するかも知れません。

フォワードは、(1)よくドリッブルすること、(2)強く、間違なくシュットすることが出来なければなりません。大抵は、體重が軽いのであります。

ハーフバックは、(1)敵を捕へることは上手で「ゲッティングイン」が上手なこと——勿論、敵に對して、(2)ドリッブルが相應上手なこと。(3)フィールドに立つた時に、味方のフォワードに正しく渡すやうに、頭を使ひ得ること。(4)息が長く続くこと。

他の方面のどれにも、特別に適しなと思つたら、ハーフバックをやつてごらん下さい。

フルバックは、(1)上手に大膽に敵を捕へる者、(2)強く蹴る者でなければなりません。大抵は、何時でもといふのでありませんが、年の割合に、體量の重い子供であります。フットボールには、餘り上手でないが、身長が高い方であつたら、ゴールキーパーとして、手を使つて見るのであります。進歩するには、練習を要します。足を用ふるよりも、手を用ふる方がよく行きませう。

コンピネーション。正しく及第しないと、チームには餘り役に立ちません。どんな位置に就いてゐても、自分は、味方のプレーヤーであるばかりでなく、云はゞ、一機關の一部であることを忘れてはなりません。ボールが自分を離れたら、それは味方の誰かに行くことをごらん下さい。我儘なプレーヤーは、何時でも、自分のチームには妨害になり、敵には利益になります。ドリッブルが上手だと、役立つフォワードになりませう。さうでなかつたら、ドリッブルをして決して、味方の「目立たない」人に渡さないで、防禦者に渡つたボールをとるやうに下さい。敵が、何時でもドリッブルをして、決して渡さないといふことを知ると、敵は突入して來て捕へますから。併し、ドリッブルすると同じやうに、渡すもするらしいといふことが解ると、敵を躊躇させ、一層勝味があるやうになります。

スポーツマンシップ

キャプテン。キャプテンが、せよと命じたことは、何でも、常に愉快に、直ちにするのであ

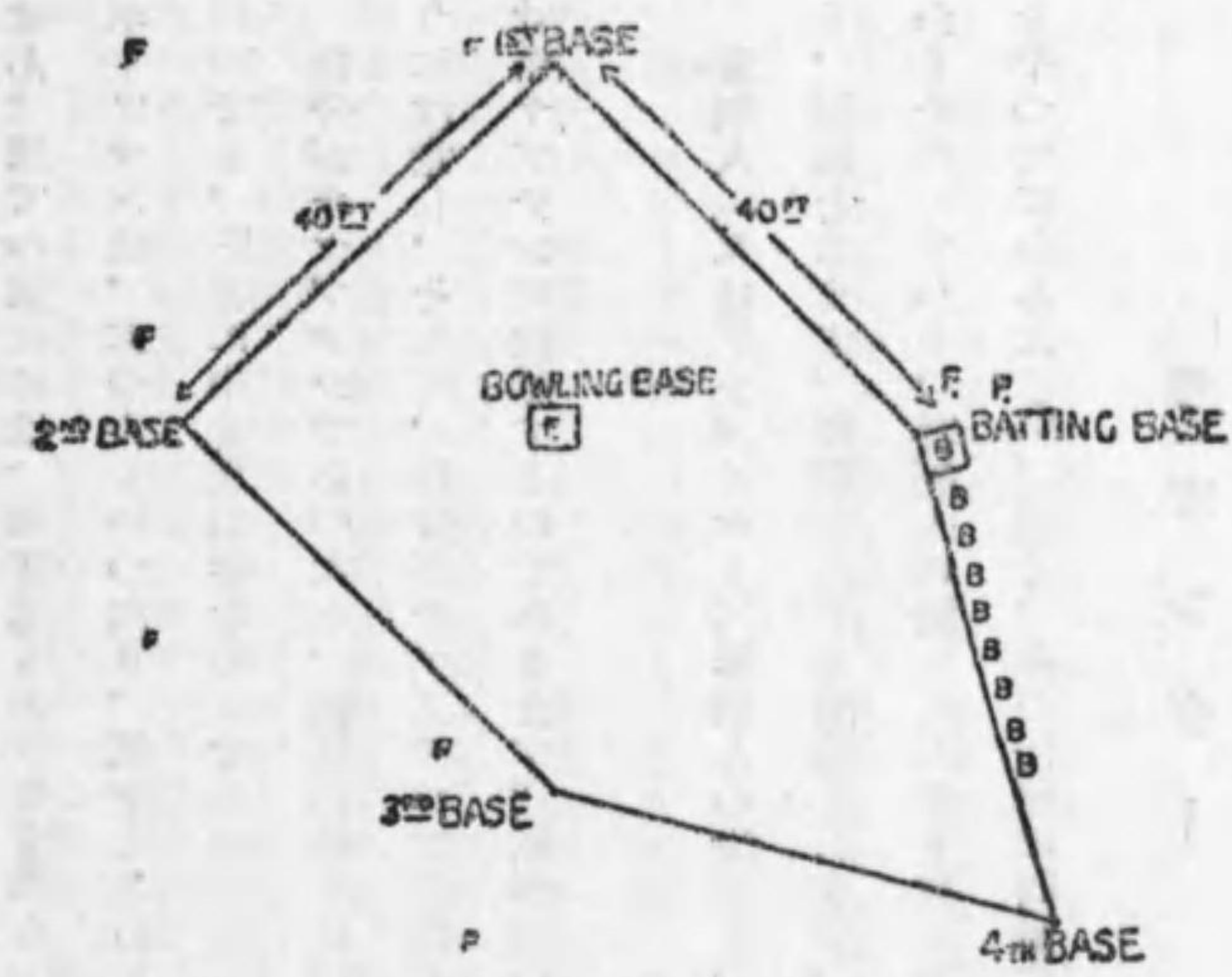
ります。決して、キャプテンやキャプテンのことを、ぶつ／＼いつてはなりません。思つた通りにしないので、キャプテンが叱つたならば、よくやつた時に「しまったな！」「よくやつたな！」といふやうに、さうするのが、キャプテンの義務だといふことを忘れてはなりません。續けざまに、都合のよい、容易なことを、やり損つても、一言もいはないキャプテンは、驚くべきお人よしであるかも知れないけれども、劣等なキャプテンであります。

氣。スポーツマンは、何時でも、最も興奮、紛擾してゐる場合に、平氣にしてをります。英國の競技は、肉體的ばかりでなく、道德的にその爲めになります。これを高明なスポーツマンらしい態度でやるならば、自制心を養ふからであります。形勢がどんなに不利であつても、最後の瞬間までは、苦境を脱する機会がありますから、競技が終るまでは、決して思ひ切つてはなりません。總ての競技に於いて——フットボールばかりでなく——敗ても、心を亂したり、怒つたりしないことを學ばなければなりません。競技中は、最善を盡して、「敵側が勝つたけれども、自分共は、もつとよいチームである！」といつたり、思つたりするやうなことは、決してしてはなりません。

せん。總ての競技には、相當運もありますから、こんなことは、時々あります。併し、上乘なスポーツマンは、ぶつ／＼いつたり、氣をくさらしたりしないで、勝敗に當り、そして敗けたら、何時でも、勝者に相當な名譽を帯ばせるやうにします。

自分がキャプテンであつたら、競技の終りに、自分のチームが、敵に、心からの歡呼を送るやうに注意し、そして、自分がキャプテンではなくて、自分のチームが、さうしなかつたらば、一寸キャプテンに注意するのであります。氣が付かないこともありませうから。

審判人(又はアンパイヤー)。審判人の決定を、決して批評してはなりません。どんな審判人でも、間違をします。實際だれでも間違をします。幼年健兒でも、時々間違をするではありませんか！それですから、審判人に對して不平を抱くやうなことがあつたら、自分で二三の競技の審判をやつてごらんなさい。直ぐ、その任務に同情するやうになりませう。



B は BATTING 側を代表す。F は FIELD 側を代表す。

フットボールに對して與へた注意は、スポーツマンシップに關しても同様であります。

ここにラオンダース・フィールドの設計があります。

各チーム共、大抵九人であります。ベースはよく印をつけて置いて、その外側を一周して駆けなければなりません。

バッティング。バットを待つてゐるチームの人は、第四ベースと、バッティング・ベースの間に、一列になつて立つのであります。バットをする番になつたら、ラオンダース・ステッキに、しつかりついてをらなければ

ればなりません。非常な強打をしようとして、一寸でも離れると、フィールドの一人を、非常に怪我させるやうなことがあるかも知れませんから。

それから、ボールが来る時に、始終氣を付けて、目をつけてゐて、それを正しく打つ外、何も考へてはなりません。

ボールを打つて、確かに、フィールドの向に行くといふ確信がなければ、捕へられますから、空中高くボールを打つのが、大抵は危険であります。

バッティング・ベースの後に、ボールを打つと、第一ベースを通つて走ることが許されません。よいボールを三回選擇してもよいのですが、三回目には走らなければなりません。ベースに行つたら、これにつけなければなりません。さうでない、アウトになります。一度に一人だけ、ベースにゐることを許されます。

プレーヤーが、アウトにならず又、ボールが、投手の手に戻らない中に、ラオンダーが、第四ベースにつくやうにすれば、點を得られます。

フイールドイニング。この競技の、この役は、大抵小さい子供に惟はれますが、ほんとうに上手なプレーヤーは、そんなことはありません。その多くには、この競技での最も面白い役でありませぬ。バッティングや、ボーリングばかり面白がる者は、勝敗では、運の悪いことが非常に多く、従つて、競技も面白くないでせう。併し、フイールドイニングが面白いと、競技をする毎に、確かに面白いのであります。

機会があり次第、誰かに投球して貰つて、自分の方に來るものは、大抵どれでも「止める」ことが出来るまで、受けや、遠い高い受けや、近い熱球受けを投げて貰ひ、又誰かに、フイールドされるやうに、ボールを、地面に強く投げて貰ひ、そして、上手投げに、投げ返すのであります（併し、芝生は餘り水平ではありませんから、平らな地面の外は、この練習をしてはなりません。人をアウトにするためには、「ヒット」を捕へたり、又は、ランナーは着く前に、手に持ったボールで、ベースにつけなければなりません。プレーヤーが、アウトになつた時は、ボールは「デット」になりませぬ。併し、ベース外に出てゐる者は、誰でもアウトにするために、用ゐることが出来ます。

ボ・リ・ン・グ。投手は、何時でも、少くとも片足は、ベースにつけて置かなければなりません。「フ・ー・ポ・ール」は肩よりも高く、膝よりも低いものであります。それをつぎ／＼續けて三回投げると、敵はラオンダーの半分に數へませぬ。

ホ ツ キ ー

ここで、重ねていひますが、スポーツマンシップに関する言葉は「フットボール」の下に述べたのと同様であります。この競技の大體の考は、ステッキを、クリケット・バットと同様に用ゐるだけで、フットボールと、頗る同様であります。それ故に、フットボールの上手な者は、少し練習すると、少くとも、役に立つホツキー競技者になります。フットボールを蹴るのに、ボールを離れないと、必ず技が上達するやうに、ホツキーでは、ステッキの技は、ボールをステッキにつけて蹴ける練習をするとう上達するやうになります。ドリッブルしてゐる時に、ボールを前に突いて、追つかけてはなりません。これは、フットボールで「キック・アンド・ラッシュ」と同様

であります。ボールを體とはしかに、左側にして軽く打ち、それから、ステッキを反對にして、ボールを右側にし、何回も繰り返へして練習すると、ドリッブルが上達します。これで、ボールの操縦が發達します。

「フリーイング」を活潑に練習なさい。それには、技術を要します。上手な人は、普通の「フリーをする者」に對抗する毎に、大抵「フリー」に勝つことが出来ます。

第三篇

幼年健兒訓練の目的と方法

隊長への注意。

是等の注意が長いので驚いてはなりません。只初心の人の、助けにしたり、注意をしようといふ考へであります。

幼年健兒訓練の目的

幼年健兒の訓練をする目的は、隊長や子供等に、只楽しく時を過させるといふ考でなく、我帝國の將來の公民の有能を増進させるためであります。

是等に關する過去の訓練は、今日の要求に應ずるに足るものではありませんでした。有能な公民になるやうに子供等を教育するための納稅者法案は、かゝる訓練の適應を誤つてをつたが爲めに、警察、刑務、救貧等に支辨すべき法案の方が、超過するのみであります。

その訓練が、今日に充分適應しなかつたらば、明日には、尙更適應しません。我々の期待しなければならぬのは明日であります。

人格は、公民を有能ならしむるために、只本の教授よりも、一層重要であることは認められてゐることです。然るに、同等な程度に於いてさへも、教育にこれを包含するために、何等の實際計劃も立てられてをらぬのであります。

能率は「人の要する監督の如何によつて、左右し得る」(ロバート・イー・メロース)と決定されてをったのであります。併し、これは、勿論、道德能力の範圍にのみ適用されるものであります。然るに、肉體的能力も亦、人の公民能率を完成するために、最高の價值を有するものであります。

肉體の健全、及これが増進法は、學業、科學又は専門の達成に關しても、教育の大部分を占むべき筈のものであります。

同盟罷業、工場閉鎖による年々の損失たる、何千時間、何萬磅は、豫防し得べき肉體的無能、

不健康による損失たる何萬時間、何十萬磅に比すれば、問題にならぬのであります。

それ故に、幼年健兒の我等の訓練は、第二篇の初めに掲げた表示のやうに、是等の二大眼目に向つてゐるのであります。

かく少年時代から築いた基礎を得て、我々は、その後の設計を、益々満足にすることを、望み得るのであります。特に、それは、幼年健兒訓練の時代に、繼續し、維持する漸進的系統の一部を形成し、思慮あり、競技に熱中する年代になると、人格と相待つて、少數の者の實行よりも、寧ろ多數の者の習慣となるからであります。

幼年健兒隊は、幼年健兒の年少支隊であつて、幼年健兒にならうとして、まだ年の足らない、大多數の少年の熱望に應ずるために、企劃されたものであります。

年長少年と、同様な作業、考査を、彼等に課し、特に年長者と混同することは、爲めになりません。彼等は、その標的に漕ぎつけやうと努力して、過勞する傾があるからであります。

同時に、年長者の身にとつても、彼等の作業に當つて「乳嗅兒」と混することを欲しません。各種の理由から、二部に分つ方がよいのであります。

それ以上に、幼年健兒隊と、少年健兒隊とが、視閲、集合等に合同して、教練することは、勿論、害がないのであります。

幼年健兒訓練は、少年健兒のそれよりは、只一階段の相違があるのみであります。

子供の人格は、年齢十二歳に達しなければ、確立するものではありません。それですから、隊長が、その隊の作業が、ほんとうに、少年隊のそれに導くでなければ、甚だしく、その子供等を誤ることを思はなければなりません。作業が、善悪の選定が出来る年齢に達するまで、遂行されないならば、短時日にして、幼年健兒になつて、得た善いことを多く失ふことは、子供としてはありがちなことであります。

普通の幼年健兒隊は、別の組織ではなく、少年健兒隊の一部であります。隊長は、少年團關係者、少年健兒、青年健兒と、密接な共同を保ちて、行動すべきであります。幼年隊は、只少年隊の「控室」であることを、新しい子供や、その両親に、明瞭にして、何時でも、幼年健兒の前で、「よりよき少年健兒」の理想を待つべきであります。

幼年健兒の宣誓、掟は、自然、少年健兒の、それ等よりも、一層簡單であります。——小さい

子供が、把握することが出来ます。遂行することの出来ない宣誓や、義務を負はせることは、正當でないでせう。隊長は勿論、簡單で、實行出来るやうに、且つ、「神に對する義務」(四一七頁に引いた宗教案参照)の宣誓の意味は、彼等の牧師と相談して、子供等に教へべきで、且つ、幼年健兒を、善良な少年健兒にするに要する、他の宗教的、道德的教訓の必要だと思ふものを與ふべきであります。

方法。訓練の方法は、外部よりも、内部から教へて教育し、遊技活動を提供すると、小さな子供に氣に入ると同時に、道德的に、精神的に、且つ肉體的に、適切に教育しませう。

我々の目的は、フィッシャーが述べたやうに「多く知識を得させようとするのではなく、知識を得る望と、力と」を増進するのであります。

換語すれば、隊長の任務は、正しい方向に、子供を熱中させるのであります。この主義でやると、その目的に達するのに、大部手數も省かり、熱心で、有能な子供等の敏活な隊を生ずるに至りませう。